
第137回日本森林学会大会プログラム

会 期 2026年3月16日～3月18日（3月19日：関連研究集会）

会 場 つくば国際会議場（つくば市竹園2丁目20-3）

公開シンポジウムはつくば国際会議場 Leo Esaki メインホールで開催し、インターネットで配信します。

（3月19日の関連研究集会は筑波大学（つくば市天王台1-1-1）で開催します）

大会日程

3月16日（月）

9:30～10:00【開会式】

10:00～12:00【日本森林学会各賞授賞式・受賞者講演】

12:00～13:00【JFR編集委員会】

14:00～16:30【公開シンポジウム】つくば市の生物多様性と森林

18:00～20:00【懇親会】

3月17日（火）

9:00～12:00【研究発表】企画シンポジウム、公募セッション、部門別発表

12:00～13:00【学会企画】ランチョンミーティング

「困りごとを共有しよう！Part.2 ～選択的夫婦別姓制度に関する
学協会連絡会アンケート結果～」

12:00～13:00【日本森林学会誌編集委員会】

13:00～14:00【研究発表】ポスター発表の質疑応答（対面会場）

14:15～18:30【研究発表】企画シンポジウム、公募セッション、部門別発表

3月18日（水）

9:00～12:00【研究発表】企画シンポジウム、部門別発表

12:00～13:00【森林科学編集会議】

12:00～14:00【研究発表】高校生ポスター発表コアタイム

13:00～14:00【研究発表】ポスター発表の質疑応答（対面会場）

14:15～17:00【学会企画】第13回高校生ポスター発表表彰式および
高校生対象の大学ツアー

14:15～17:45【研究発表】企画シンポジウム、部門別発表

15:00～17:45【学会企画】映画上映会『越後-山に生かされた日々-』

16:30～18:00【閉会式】学生ポスター賞授賞式

配信について

【研究発表】

- ・口頭発表：オンデマンド配信は行いません。
- ・ポスター発表：第 137 回大会のポスターは”オンラインプラットフォーム Claris”内に掲示します。3 月 13 日（大会 3 日前） から 3 月 24 日まで、参加者限定でオンデマンド閲覧が可能です。

主催 一般社団法人 日本森林学会

第 137 回日本森林学会大会運営委員会

上條隆志（委員長）、荒木眞岳（副委員長）、川田清和（副委員長）、長倉淳子、清野達之、平田晶子、山路恵子、森英樹、飯田義彦、三ツ井聡美、飯島大智、澤田聖人、松井哲哉、興梠克久、廣田充、津田吉晃、伊藤崇之、加藤弘亮、岩上翔、高橋純子、志賀薫、神宮翔真、岡根泉、藏満司夢、御田成顕、恩田裕一、増本 翔太

連絡先

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1 丁目 1-1

第 137 回日本森林学会大会運営委員会

E-mail: 137committee@forestry.jp

会場（つくば国際会議場）

■交通アクセス

つくば国際会議場（〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2-20-3）

つくばエクスプレス つくば駅から徒歩約 10 分

つくばセンター（バスターミナル）から徒歩約 8 分

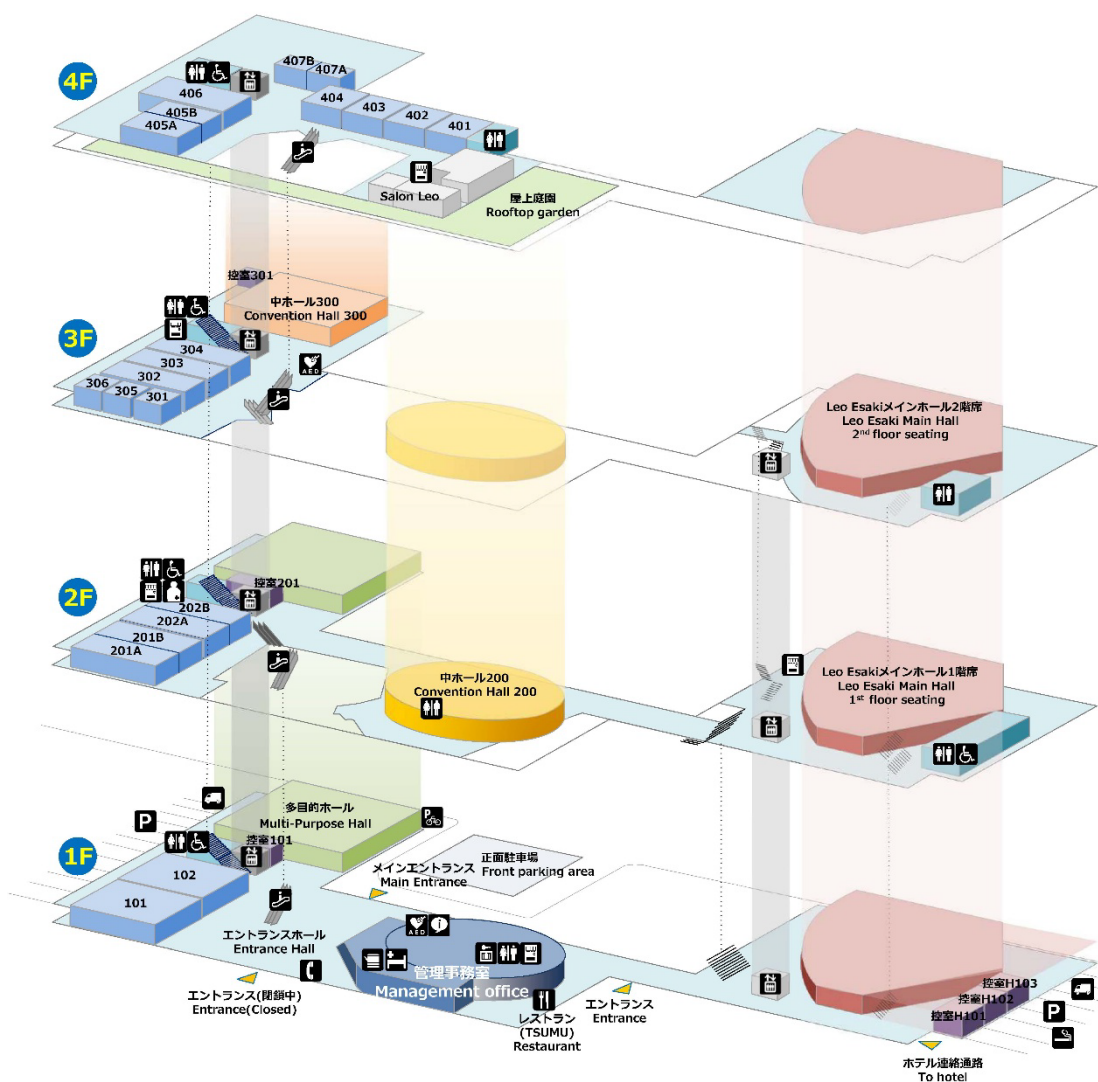
詳しくは <https://www.epochal.or.jp/access/> をご覧ください。



つくば国際会議場近隣駐車場案内



■つくば国際会議場フロアマップ

Tsukuba International
Congress Center
Floor outline

📍 インフォメーション
Information



トイレ
Toilet



多目的トイレ
Multi-Purpose toilet



オストメイト対応トイレ
Ostomate toilet



救護室
First-aid room



駐車場
Parking area



駐輪場
Bicycle parking area



搬入口
Delivery entrance



コインロッカー
Coin locker



公衆電話
Telephone



エレベーター
Elevator



エスカレーター
Escalator



レストラン
Restaurant



喫煙所
Smoking area



FAX・コピー・プリンター(有料)
Facsimile & Copy & Printer (pay)



飲料自動販売機
Automatic vending machine (soft drinks)



AED(自動体外式除細動器)
Automated External Defibrillator

大会に参加される皆さまへ　－参加申込と当日の受付等について－

○大会参加申込みは WEB 上の大会専用サイト内でのみ受付けます。

参加費支払いは、クレジット決済となります。(2月21日(金) 17:00 までは郵便振替も可能です)。必ず事前に WEB 登録 (<https://www.forestry.jp/meeting/>) のうえ、名札を印刷して持参して下さい。

○大会会場の受付では当日参加の手続きはいたしません。参加費を当日現金で支払う事も出来ません。

○WEB 登録しないまま会場にいらした場合でも、ご自身の端末を利用した大会専用サイト内での参加登録とクレジットカード決済が必要です。確認に時間がかかりますので、必ず事前決済及び名札印刷をしてからお越し下さい。

当日の受付等について

- ① 事前に大会専用サイトにて、名札 (A4 サイズ) を印刷して、当日持参願います。
- ② 当日は来場受付で、名札フォルダーを受け取り、印刷してきた名札を 4 つ折りにして、入れてください。来場受付は大会期間中、つくば国際会議場の 1 階ホールに設置します。
- ③ 会場では必ず名前が見えるように名札の着用をお願いします。名札のない場合はお声がけさせていただきます。
- ④ 名札を忘れた場合は、当日受付で対応可能です。受付に PC とプリンタが準備されますので、ご自分の WEB 受付番号で大会参加申込システムにログインして名札ファイルをダウンロードし、ご自身で印刷していただきます。
- ⑤ 受付では現金の取り扱いはいたしません。当日参加費を支払う場合は、事前登録と同じ大会専用サイト内でのクレジットカード決済になります。時間がかかりますので事前決済をお願いします。
- ⑥ 学会費未納の方には、発表会場で学会費支払依頼書をお渡しします。受け取りましたら当日中につくば国際会議場 301 の学会事務局にて手続きをお願いします。こちらは現金のみの取り扱いになります。大会終了までに学会費の納入が確認できない場合は、発表取り下げの扱いになりますのでご注意ください。
- ⑦ その他、ご不明な点は大会運営本部 (下記) までお問い合わせください。
 - ・大会運営本部：　つくば国際会議場 302　(3月16日-18日のみ)

第 137 回大会で発表・視聴される皆さまへの注意事項

【注意事項の要点】

■ 口頭発表

- 会場設置 PC の Microsoft PowerPoint(2019 以降)か Adobe Acrobat で発表
- ファイルは USB メモリでコピー、または発表者のクラウドからダウンロード
- ファイル名は「講演番号＋発表者氏名」

■ ポスター発表

- オンライン掲示（必須）と対面会場掲示（任意：コアタイムあり）を併用
- オンライン閲覧用ポスターファイルの提出期限は 3 月 12 日（木）23:59
- オンライン閲覧用ポスターファイルは PDF(A4 判)、容量は 20MB 以内
- オンラインポスターの閲覧は大会プラットフォーム"Clariss"から
- 対面会場のポスターパネルのサイズは縦 210 cm×横 90 cm
- 学生ポスター賞応募者は対面会場掲示及びコアタイムの質疑応答必須

■ その他、全般的な注意事項

- Clariss ログイン用の URL・WEB 受付番号等の他者との共有は絶対 NG！
- 発表に際しては、著作権侵害、誹謗中傷、機密漏洩等に十分に注意を！

※詳細は以下をご覧ください。

< I. 口頭発表される方へ >

1. 口頭発表の方法

- 第 137 回つくば大会での発表・質疑応答は、大会会場で対面のみで行われます。オンラインでの配信は大会期間後のオンデマンド配信も含めて実施しません。
- 口頭発表の機材は会場に設置した PC (Windows 11) (以下、「会場 PC」) と液晶プロジェクタです。会場 PC にインストールされている Microsoft PowerPoint 2019 (あるいはそれ以降のバージョン) または Adobe Acrobat で発表していただきます。
- ご自身の PC や Mac を液晶プロジェクタに接続することはできません。発表ファイルを事前に会場 PC にコピーしていただきます (詳細は下の 3. を参照してください)。それができなかった場合は講演できず、キャンセル扱いとなります。くれぐれもご注意ください。
- 部門別口頭発表及び公募セッションの発表時間は 1 件 15 分 (発表 12 分、質疑応答 3 分) です。企画シンポジウムでの講演時間はコーディネータの指示に従ってください。

さい。

2. 発表ファイルの形式、ファイル名の付け方

- 発表にはパワーポイントファイルまたはPDFを用いてください。パワーポイントのファイルの場合、Power Point 2019 以降のバージョンで読み込めるようご準備ください。
- ファイル名は講演番号+筆頭者の名前としてください(例:S1-1 森林太郎.pptx)。
※ 講演番号については、大会プログラムをご参照ください。(大会プログラム(暫定公開版:2025年12月23日公開)に記載されている講演番号は、大会当日まで変更になることはありません。)
- 特殊なフォントは会場 PC にはインストールされていないため、該当しそうなフォントの使用は避けていただくか、またはフォント情報を埋め込んだPDFに変換して用いてください。
- Mac でパワーポイントファイルを作成される講演者は当日を迎える前にお手近のWindows PC のMicrosoft PowerPoint で動作させ、文字化けやレイアウトのズレ等が生じていないかどうかをご確認ください。あるいは上述のようにフォント情報を埋め込んだPDFに変換してください。

3. 発表ファイルの会場 PC への保存

- ファイルは発表する午前あるいは午後のセッションの開始 15 分前まで(午前の発表スライドは8:45 まで、午後の発表スライドは 14:00 まで)に、会場 PC のデスクトップ画面にある日付と名前のついたフォルダー(例:日午前企画シンポ S1)に保存してください。
- ファイルの保存は、以下の2つの方法のどちらかをお使いください。今大会では、専用サイト等からの事前提出は受付けておりません。なお、会場の PC には SD カードのスロットはありません。
 - **USB 接続可能なメディア**にファイルを保存して持参し、会場 PC に接続・挿入してファイルをコピーする
 - 会場 PC のブラウザ(Edge)から**発表者の使用するクラウドサービス等**にログインし、ダウンロードする
- ファイルを会場 PC に保存後、動作確認されることをお勧めします(特にアニメーション・動画の機能を使用される場合)。
- ファイルを保存したメディアは、ウイルスチェックも含め、ご自身で管理してください。会場設置のコンピュータからウイルスの感染が起こった場合でも、大会運営委員会は一切責任を負いませんのでご了承ください。

< II. ポスター発表される方へ >

1. ポスター発表の方法と発表実績の取り扱い

- 第 137 回大会のポスター発表はオンラインと対面を併用して実施します。
- オンライン用大会プラットフォーム“Clariss”内での掲示： 事前に提出されたポスターファイルを大会プラットフォーム内に掲示します。大会期間中および大会終了後の一定期間、大会参加者によるオンデマンド閲覧が可能です。オンデマンド配信についての注意事項について、文末の「IV 発表・視聴されるすべての方へ：著作権等に関する注意事項」もご確認ください。
- 対面会場での掲示（任意）： 対面会場での掲示を発表申込時に希望された発表には、ポスターパネルが準備されますので、大会プログラムで指定された日に対面会場にポスターを掲示してください。
- **【重要：発表実績について】** 対面会場にポスターを掲示しても、大会プラットフォーム内にオンラインポスターがアップロードされない場合は今大会の正式な発表実績にはなりません。大会プラットフォーム内にオンラインポスターがアップロードされていれば、対面会場にポスターが掲示されなくても、今大会の正式な発表実績となります。

2. オンライン閲覧用ポスターファイルの提出期限、ファイルサイズと質疑の方法

- 2026 年 2 月 20 日（金）～ 3 月 12 日（木） 23:59 の期間中に、オンライン閲覧用のポスター発表ファイル（PDF 形式）を、大会参加・発表申込システムから提出してください。期限前であれば何度でも再提出が可能です。
- 提出期限までにポスターファイルが提出されない場合、ポスター発表はキャンセルとして扱われます。大会プラットフォーム内のオンラインポスターの該当ページには何も表示されず、後日印刷される講演要旨集からは要旨が削除されますのでご注意ください。
- 提出されたポスターの内容について、大会運営委員会およびプログラム編成担当は配信前に確認をしません。ポスターの文責は発表者にあります。問題となるかもしれない表現・記述などが無いのか、提出前にご確認ください。
- オンライン発表用ポスターファイルの形式は PDF(A4 縦)、ファイル容量は 20MB 以下とします。音声付き動画ファイルは使用できません。
- オンラインポスター掲示期間中はチャットによる質疑応答が行えます。オンライン発表のコアタイム（発表者が質疑応答に対応すべき時間帯）は設定しません。

3. 対面会場におけるポスターサイズと発表方法

- 対面会場のポスターパネルのサイズは縦 210 cm×横 90 cm です。
- 学会大会期間中、コアタイムを設定しますので、発表者は、この時間にポスター会場において対面での質疑応答を行ってください。

4. 学生ポスター賞の審査

- 学生ポスター賞の審査は、対面会場で行います。ポスター賞の審査項目には、対面会場での質疑応答が含まれます。コアタイムの質疑応答がないと学生ポスター賞

は受賞できませんので注意してください。

- 学生ポスター賞受賞者の発表は2026年3月17日（火）の審査・選考終了後に大会ウェブサイトにて行います。また受賞者には3月17日にメールで受賞の連絡をします。必ずウェブサイト、メールを確認してください。3月18日の閉会式にて表彰いたしますのでぜひご出席下さい。

< III オンラインで視聴される方へ >

1. ポスターの閲覧方法

- 参加申込みの際に発行された【WEB 受付番号】と【登録したメールアドレス】で大会プラットフォーム”Claris”(<https://conference.iap-jp.org/jfs/conference/login>)にログインしてポスターを閲覧してください。日本森林学会の大会ウェブサイト(<https://www.forestry.jp/meeting/>)にも大会プラットフォーム”Claris”へのリンクを掲載します。
- Claris にポスター発表のタイトル一覧を掲示します。タイトルをクリックするとポスターを閲覧できます。閲覧可能な期間は3月13日～3月24日です。
- 掲示期間中はチャットによる質疑応答が行えます。

2. 注意事項

- Claris にログインするための URL や WEB 受付番号等は他者と共有しないでください。

< IV 発表・視聴されるすべての方へ：著作権等に関する注意事項 >

- 発表者以外の者が著作権を有する図表・写真・映像等を使用し、かつその使用に作者の許諾が必要な場合には、事前にその作者からご自身で許諾を得ていただくとともに、プレゼンテーションあるいはポスターに出典元の情報を適切に示してください。
- 発表者ら以外の者が著作権を有する図表・写真・映像等を使用し、かつその使用に作者の許諾は不要だが一定の条件が課せられている場合には、その条件を遵守してください（例：Google Earth の画面）。
- 寺社仏閣、美術品、芸能人の肖像、映画のシーン等は、ご自身が撮影した写真や画像であっても絶対に使用しないでください。
- 対面会場での現地参加、オンラインでの閲覧にかかわらず視聴中、閲覧中の一切の録音・録画・写真撮影・スクリーンショットの保存等は絶対にしないで下さい。
- その他、他者への誹謗中傷と誤解されかねない表現・記述や、特許申請中の秘密情報など、公開後に問題となる可能性あるコンテンツが含まれていないか、発表資料の提出および発表前に、ご自身で十分にご確認ください。

つくば市の 生物多様性と森林

開催日時: 2026年3月16日(月) 14:00-16:30

会場: つくば国際会議場 Leo Esaki メインホール
〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3

(開場13:30)

プログラム

講演 「生物多様性つくば戦略」と森林

筑波大学

上條隆志

セッションI 「つくば市内の自然共生サイトと森林」

国立環境研究所
森林総合研究所

石濱史子
松井哲哉

セッションII 「つくば市の森林と生物多様性を考える」

つくば市
森林総合研究所
つくばいきものSDGs
茨城県生物多様性センター
国立環境研究所
森林総合研究所
モデレーター:

五十嵐立青
中静透
木下潔
高橋郷史
石濱史子
松井哲哉
上條隆志

入場無料

申込不要

オンライン
配信予定
(詳細は後日)

総合討論(質疑)

主催: 一般社団法人 日本森林学会

共催: 公益社団法人 国土緑化推進機構 筑波大学 筑波大学大学院自然保護寄附講座

後援: 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所、つくば市(予定)

本公開シンポジウムは、公益財団法人 国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」
の助成を受けて実施しています。

お問い合わせ:
大会問い合わせ
フォーム



2026 年度 日本森林学会各賞 受賞者および受賞業績

1. 日本森林学会賞

田中 憲蔵（国際農林水産業研究センター）

東南アジア熱帯林樹木の炭素固定機能と環境適応性の解明

庄子 康（北海道大学）

風致・観光部門における環境経済評価手法の応用

2. 日本森林学会奨励賞

河村 和洋（森林総合研究所）

Plantation management to restore early and late-successional bird habitat under various climatic and seasonal conditions

笹田 敬太郎（森林総合研究所）

森林経営管理制度における市町村から外部組織への業務委託の現状と課題

3. 日本森林学会学生奨励賞

HTOO Kyaw Kyaw（投稿時：京都大学 応募時：北海道大学）

The space occupation and use by tree crowns explain variations of individual growth rates in an old-growth temperate forest in Japan

白川 誠（投稿時：東京大学 応募時：千葉工業大学）

Visualization of root extracellular traps in an ectomycorrhizal woody plant (*Pinus densiflora*) and their interactions with root-associated bacteria

赤池 友樹（投稿時：宮崎大学 応募時：宮崎大学）

The effects of patch age and edges on understory tree distribution in an uneven-aged conifer plantation formed by small-scale clearcutting

勝浦 柊（投稿時：名古屋大学 応募時：国際農林水産業研究センター）

Seasonal and interspecific variations in the water uptake depth of trees in a moist cool-temperate mixed forest in Japan

4. Journal of Forest Research 論文賞

Yuuki Tsunoda, Yasuyuki Ohno, Mika Takiya & Takaaki Tsuda（筆頭著者の所属：北海道立総合研究機構）

論文題目：Importance of pre-release height of saplings in governing mortality factors after canopy opening: insights from 21-year monitoring of *Abies sachalinensis* saplings

掲載巻号・頁・発行年：Vol.29, No.4, 288-296, 2024

Yasuhiro Hirano, Chikage Todo, Toko Tanikawa, Keitaro Yamase, Mizue Ohashi, Masako Dannoura, Yuki Okamoto, Ryuusei Doi, Gen Yoshida, Hidetoshi Ikeno（筆頭著者の所属：名古屋大学）

論文題目：Intraspecific variation in root system structure in a *Pinus thunbergii* stand grown in a gravelly spit coast

掲載巻号・頁・発行年：Vol.30, No.3, 187-199, 2025

5. 日本森林学会誌論文賞

坂井 励・吉田 俊也（筆頭著者の所属：北海道大学）

論文題目：天然林択伐施業における積雪期かき起こしの有効性

掲載巻号・頁・発行年：106 巻 8 号, 225-232, 2024 年

3 月 16 日（月）9 時 30 分から行われる開会式にて，授賞式ならびに学会賞，奨励賞，学生奨励賞の受賞者講演を行います。また，大会開催期間中，Journal of Forest Research 論文賞・日本森林学会誌論文賞のポスターを会場にて展示します。

大会スケジュール 3月16日

会場	Leo Esaki メインホール	101
開始時刻		
9:00		
9:15	開会式・授賞式・講演	
9:30	開会式 森林学会各賞授賞式 受賞者講演	
9:45		
10:00		
10:15		
10:30		
10:45		
11:00		
11:15		
11:30		
11:45		
12:00		JFR編集委員会
12:15		
12:30		
12:45		
13:00		
13:15		
13:30		
13:45	公開シンポジウム	
14:00	つくば市の生物多様性と森林	
14:15		
14:30		
14:45		
15:00		
15:15		
15:30		
15:45		
16:00		
16:15		
16:30		
16:45		
17:00		
17:15		
17:30		
17:45		
18:00	懇親会 (会場：ホテル日航つくば)	
18:15		
18:30		
18:45		
19:00		
19:15		
19:30		
19:45		

大会スケジュール 3月17日

会場		101	会場	中ホール200		201A	201B	202A	202B	会場	中ホール300		303	304	会場	402	404	405	406	会場
開始時刻	S1 林学史	S8 地域の森と暮らし	開始時刻	S7 樹木の環境適応				T2 保健休養	T3 森林の放射能	開始時刻	S10 林野公共のあり方	S6 生理部門シンポ	S12 さし木の根系	開始時刻	委員会等		S9 大船渡林野火災	T6 デジタルツイン	開始時刻	
9:00	S1-1	S8-1	9:00	S7-1				T2-1	趣旨説明	9:00	S10-1	S6-1	S12-1	9:00			S9-1	T6-1	9:00	
9:15	S1-2	S8-2	9:15	S7-2				T2-2	T3-1	9:15	S10-2	S6-2	S12-2	9:15			S9-2	T6-2	9:15	
9:30	S1-3	S8-3	9:30	S7-3				T2-3	T3-2	9:30	S10-3		S12-3	9:30			S9-3	T6-3	9:30	
9:45	S1-4	S8-4	9:45	S7-4		経営1		討論・調整	T3-3	9:45	S10-4		S12-4	9:45			S9-4	討論・調整	9:45	
10:00	S1-5	S8-5	10:00	S7-5			D1	T2-4	討論・調整	10:00	S10-5			10:00			S9-5	T6-4	10:00	
10:15		S8-6	10:15	S7-6			D2	T2-5	T3-4	10:15	S10-6			10:15			S9-6	T6-5	10:15	
10:30		S8-7	10:30				D3	討論・調整	T3-5	10:30	S10-7			10:30			S9-7	T6-6	10:30	
10:45		S8-8	10:45		林政1	討論・調整			T3-6	10:45	S10-8			10:45				討論・調整	10:45	
11:00			11:00		A1	D4			T3-7	11:00				11:00				T6-7	11:00	
11:15			11:15		A2	D5			討論・調整	11:15				11:15				T6-8	11:15	
11:30			11:30		A3	D6			ポスター紹介	11:30				11:30				討論・調整	11:30	
11:45			11:45		討論・調整	討論・調整			ポスター紹介	11:45				11:45					11:45	
12:00			12:00							12:00	学会企画1			12:00					12:00	
12:15			12:15							12:15	ランチョンミーティング「困りごとを共有しよう！Part2」			12:15	日林誌				12:15	
12:30			12:30							12:30	※12:00開始			12:30	編集委員会				12:30	
12:45			12:45							12:45				12:45					12:45	
13:00	ポスター発表のコアタイム（対面会場）		13:00	ポスター発表のコアタイム（対面会場）					13:00	ポスター発表のコアタイム（対面会場）			13:00	ポスター発表のコアタイム（対面会場）				13:00		
13:15			13:15						13:15				13:15					13:15		
13:30			13:30						13:30				13:30					13:30		
13:45			13:45						13:45				13:45					13:45		
14:00	T4 総合学・原論	S13 環境森林生理生態	14:00	S14 林内ドローン開発	林政2	経営2	S15 森林教育の発展	T5 樹木根	14:00	T1 生物多様性保全	S4 熱帯林業適応策	S11 持続的な発電事業	14:00		特用林産	防災・水文1	T7 ネットゼロ森林	14:00		
14:15	T4-1	S13-1	14:15	S14-1	A4	D7	S15-1	趣旨説明	14:15	趣旨説明	S4-1	S11-1	14:15		N1	J1	T7-1	14:15		
14:30	T4-2	S13-2	14:30	S14-2	A5	D8	S15-2	T5-1	14:30	T1-1	S4-2	S11-2	14:30		N2	J2	T7-2	14:30		
14:45	T4-3	S13-3	14:45	S14-3	A6	D9	S15-3	T5-2	14:45	T1-2	S4-3	S11-3	14:45		N3	J3	T7-3	14:45		
15:00	討論・調整	S13-4	15:00	S14-4	A7	討論・調整	S15-4	T5-3	15:00	T1-3	S4-4		15:00	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	15:00		
15:15	T4-4	S13-5	15:15	S14-5	A8	D10	S15-5	討論・調整	15:15	討論・調整	S4-5		15:15		N4	J4	T7-4	15:15		
15:30	T4-5	S13-6	15:30		討論・調整	D11	S15-6	T5-4	15:30	T1-4	S4-6	T8 調和的な木エネ利用	15:30		N5	J5	T7-5	15:30		
15:45	T4-6	S13-7	15:45		A9	D12	S15-7	T5-5	15:45	T1-5	S4-7	趣旨説明	15:45	討論・調整	J6	T7-6	15:45			
16:00	討論・調整		16:00		A10	D13		T5-6	16:00	T1-6	S4-8	T8-1	16:00			討論・調整	T7-7	16:00		
16:15	T4-7		16:15		A11	討論・調整		討論・調整	16:15	討論・調整	S4-9	T8-2	16:15			J7	討論・調整	16:15		
16:30	T4-8		16:30		討論・調整	D14		T5-7	16:30			T8-3	16:30			J8		16:30		
16:45	T4-9		16:45		A12	D15		T5-8	16:45			討論・調整	16:45			J9		16:45		
17:00	討論・調整		17:00		A13	D16		T5-9	17:00			T8-4	17:00			J10		17:00		
17:15	T4-10		17:15		討論・調整	討論・調整	教育1	討論・調整	17:15			T8-5	17:15			討論・調整		17:15		
17:30	T4-11		17:30				C1	総合討論	17:30			T8-6	17:30					17:30		
17:45	T4-12		17:45				C2		17:45			討論・調整	17:45					17:45		
18:00	T4-13		18:00				C3		18:00				18:00					18:00		
18:15	討論・調整		18:15				討論・調整		18:15				18:15					18:15		
18:30			18:30						18:30				18:30					18:30		
18:45			18:45						18:45				18:45					18:45		

大会スケジュール 3月18日

会場	Leo Esaki メインホール	101	会場	中ホール200	201A	201B	202A	202B	会場	中ホール300	303	304	会場	402	404	405	406	会場
開始時刻	S2 森林サービス産業	立地	開始時刻	造林1	林政3	経営3	風致・観光1	動物・昆虫1	開始時刻	S3 フォレスター比較	遺伝・育種1	微生物1	開始時刻			防災・水文2	利用	開始時刻
9:00	S2-1	I1	9:00	E1	A14	D17	B1	L1	9:00	S3-1	F1	M1	9:00			J11	K1	9:00
9:15	S2-2	I2	9:15	E2	A15	D18	B2	L2	9:15	S3-2	F2	M2	9:15			J12	K2	9:15
9:30	S2-3	I3	9:30	E3	A16	D19	B3	L3	9:30	S3-3	F3	M3	9:30			J13	K3	9:30
9:45	S2-4	I4	9:45	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	9:45	S3-4	討論・調整	討論・調整	9:45			討論・調整	K4	9:45
10:00	S2-5	I5	10:00	E4	A17	D20	B4	L4	10:00	S3-5	F4	M4	10:00			J14	K5	10:00
10:15		討論・調整	10:15	E5	A18	D21	B5	L5	10:15	S3-6	F5	M5	10:15			J15	K6	10:15
10:30			10:30	E6	A19	D22	B6	L6	10:30		F6	M6	10:30			J16	討論・調整	10:30
10:45			10:45	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	10:45		討論・調整	討論・調整	10:45			討論・調整	K7	10:45
11:00			11:00	E7	A20	D23	B7	L7	11:00		F7	M7	11:00			J17	K8	11:00
11:15			11:15	E8	A21	D24	B8	L8	11:15		F8	M8	11:15			B8	K9	11:15
11:30			11:30	E9	A22	D25	B9	L9	11:30		F9	M9	11:30			J19	K10	11:30
11:45			11:45	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	11:45		討論・調整	討論・調整	11:45			討論・調整	討論・調整	11:45
12:00	ポスター発表のコアタイム（対面会場） {高校生ポスター：12:00-14:00} {一般ポスター：13:00-14:00}		12:00	ポスター発表のコアタイム（対面会場） {高校生ポスター：12:00-14:00} {一般ポスター：13:00-14:00}					12:00	ポスター発表のコアタイム（対面会場） {高校生ポスター：12:00-14:00} {一般ポスター：13:00-14:00}			12:00	森林科学 編集会議	ポスター発表のコアタイム（対面会場） {高校生ポスター：12:00-14:00} {一般ポスター：13:00-14:00}			12:00
12:15			12:15						12:15				12:15					12:15
12:30			12:30						12:30				12:30					12:30
12:45			12:45						12:45				12:45					12:45
13:00			13:00						13:00				13:00					13:00
13:15			13:15						13:15				13:15					13:15
13:30			13:30						13:30				13:30					13:30
13:45			13:45						13:45				13:45					13:45
14:00	学会企画3	植物生態	14:00	造林2	林政4	経営4	風致・観光2	動物・昆虫2	14:00	S5 地域フォレスター	遺伝・育種2	微生物2	14:00			防災・水文3	教育2	14:00
14:15	高校生ポスター表彰式	W1	14:15	E10	A23	D26	B10	L10	14:15	S5-1	F10	M10	14:15			J20	C4	14:15
14:30		W2	14:30	E11	A24	D27	B11	L11	14:30	S5-2	F11	M11	14:30			J21	C5	14:30
14:45		W3	14:45	E12	A25	D28	B12	L12	14:45	S5-3	F12	M12	14:45	学会企画2		J22	C6	14:45
15:00	大学見学ツアー (筑波大学 ~17:00)	討論・調整	15:00	討論・調整	A26	討論・調整	B13	L13	15:00	S5-4	討論・調整	M13	15:00			J23	討論・調整	15:00
15:15		W4	15:15	E13	討論・調整	D29	討論・調整	討論・調整	15:15	S5-5	生理	討論・調整	15:15			討論・調整	C7	15:15
15:30		W5	15:30	E14	A27	D30	B14		15:30		G1	M14	15:30			J24	C8	15:30
15:45		W6	15:45	E15	A28	D31	B15		15:45		G2	M15	15:45			J25	C9	15:45
16:00		W7	16:00	討論・調整	A29	D32	B16		16:00		G3	M16	16:00			J26	討論・調整	16:00
16:15		討論・調整	16:15		A30	討論・調整	討論・調整		16:15		G4	M17	16:15			討論・調整	C10	16:15
16:30	閉会式 (学生ポスター賞授賞式)	W8	16:30		討論・調整	D33	B17		16:30		討論・調整	討論・調整	16:30			J27	C11	16:30
16:45		W9	16:45		A31	B34	B18		16:45				16:45			J28	C12	16:45
17:00		W10	17:00		A32	D35	B19		17:00				17:00			J29	C13	17:00
17:15		W11	17:15		A33	D36	討論・調整		17:15				17:15			J30	討論・調整	17:15
17:30		討論・調整	17:30		討論・調整	討論・調整			17:30				17:30			討論・調整		17:30
17:45			17:45						17:45				17:45					17:45
18:00			18:00						18:00				18:00					18:00
18:15			18:15						18:15				18:15					18:15
18:30			18:30						18:30				18:30					18:30
18:45			18:45						18:45				18:45					18:45

口頭発表座長一覧

部門	発表番号	座長氏名(所属)
林政1	A-1	芳賀大地(鳥取大学)
	A-2 ~ A-3	1件前の発表者
林政2	A-4	芳賀大地(鳥取大学)
	A-5 ~ A-13	1件前の発表者
林政3	A-14	嶋瀬拓也(森林総合研究所)
	A-15 ~ A-22	1件前の発表者
林政4	A-23	笹田敬太郎(森林総合研究所九州支所)
	A-24 ~ A-33	1件前の発表者
風致・観光1	B-1 ~ B-6	愛甲哲也(北海道大学)
	B-7 ~ B-9	庄子康(北海道大学)
風致・観光2	B-10 ~ B-13	庄子康(北海道大学)
	B-14 ~ B-19	山本清龍(東京大学)
教育1	C-1 ~ C-3	中村和彦(東京大学)
教育2	C-4 ~ C-6	杉浦克明(日本大学)
	C-7 ~ C-9	寺下太郎(愛媛大学)
	C-10 ~ C-13	東原貴志(上越教育大学)
経営1	D-1 ~ D-3	山本一清(名古屋大学)
	D-4 ~ D-6	井上昭夫(近畿大学)
経営2	D-7 ~ D-9	田中邦宏(森林総合研究所関西支所)
	D-10 ~ D-13	辰巳晋一(京都大学)
経営3	D-14 ~ D-16	江口則和(人間環境大学)
	D-17 ~ D-19	守口海(信州大学)
	D-20 ~ D-22	光田靖(宮崎大学)
経営4	D-23 ~ D-25	山田祐亮(森林総合研究所)
	D-26 ~ D-28	小谷英司(森林総合研究所)
	D-29 ~ D-32	村上拓彦(新潟大学)
造林1	E-1 ~ E-3	太田敬之(森林総合研究所)
	E-4 ~ E-6	鵜川信(鹿児島大学)
造林2	E-7 ~ E-9	大野泰之(北海道立総合研究機構林業試験場)
	E-10 ~ E-12	白旗学(岩手大学)
	E-13 ~ E-15	城田徹央(信州大学)
遺伝・育種1	F-1 ~ F-6	相原隆貴(筑波大学)
	F-7 ~ F-9	中島剛(青森県産業技術センター林業研究所)
遺伝・育種2	F-10 ~ F-12	宮田理恵(北海道立総合研究機構林業試験場)
生理	G-1 ~ G-4	田中亮一(北海道大学)
立地	I-1 ~ I-5	高木正博(宮崎大学)
防災・水文1	J-1 ~ J-6	山川陽祐(筑波大学)
	J-7 ~ J-10	小田智基(森林総合研究所)
防災・水文2	J-11 ~ J-16	酒井佑一(宇都宮大学)
	J-17 ~ J-19	江草智弘(静岡大学)
防災・水文3	J-20 ~ J-23	江草智弘(静岡大学)
	J-24 ~ J-30	邱滇璋(東京大学)
利用	K-1 ~ K-3	松本武(東京農工大学)
	K-4 ~ K-6	鈴木保志(高知大学)
	K-7 ~ K-10	櫻井倫(宮崎大学)

部門	発表番号	座長氏名(所属)
動物・昆虫1	L-1 ~ L-3	吉田智弘(東京農工大学)
	L-4 ~ L-6	片桐奈々(岐阜県森林研究所)
	L-7 ~ L-9	加賀谷悦子(森林総合研究所)
動物・昆虫2	L-10 ~ L-13	山崎理正(京都大学)
微生物1	M-1 ~ M-3	鳥居正人(森林総合研究所)
	M-4 ~ M-6	市原優(森林総合研究所関西支所)
	M-7 ~ M-9	竹本周平(東京大学)
微生物2	M-10 ~ M-13	小長谷啓介(森林総合研究所北海道支所)
	M-14 ~ M-17	練春蘭(東京大学)
特用林産	N-1 ~ N-3	成松眞樹(岩手県林業技術センター)
	N-4 ~ N-5	古川仁(長野県林業総合センター)
植物生態	W-1 ~ W-3	本間航介(新潟大学)
	W-4 ~ W-7	辰巳晋一(京都大学)
	W-8 ~ W-11	平山貴美子(京都府立大学)

公募セッション	発表番号	座長氏名(所属)
T1	T1-1 ~ T1-3	山中聡(森林総合研究所)
生物多様性保全	T1-4 ~ T1-6	山浦悠一(森林総合研究所)
T2	T2-1	上原巖(東京農業大学)
保健休養	T2-2	佐々木大地(東京農業大学)
	T2-3	キバラムマ-ビン ポゲレ (Tokyo University of Agriculture)
	T2-4	尾崎勝彦(大阪公立大学)
T3	T2-5	高山範理(森林総合研究所)
	T3-1 ~ T3-3	今村直広(森林総合研究所)
森林の放射能	T3-4 ~ T3-5	大久保達弘(東北農林専門職大学)
	T3-6 ~ T3-7	高橋純子(筑波大学)
T4	T4-1 ~ T4-3	竹本太郎(東京農工大学)
総合学・原論	T4-4 ~ T4-6	水内佑輔(金沢大学)
	T4-7 ~ T4-9	齋藤暖生(東京大学)
	T4-10 ~ T4-13	平野悠一郎(森林総合研究所)
T5	T5-1 ~ T5-3	野口享太郎(森林総合研究所)
樹木根	T5-4 ~ T5-6	藤田早紀(森林総合研究所)
	T5-7 ~ T5-9	平野侑(信州大学)
T6	T6-1 ~ T6-3	中澤昌彦(森林総合研究所)
デジタルツイン	T6-4 ~ T6-6	南光一樹(東京農工大学)
	T6-7 ~ T6-8	橋本昌司(森林総合研究所・東京大学)
T7	T7-1, T7-3	小南裕志(森林総合研究所)
ネットゼロ森林	T7-2	酒井寿夫(森林総合研究所)
	T7-4 ~ T7-6	加用千裕(東京農工大学)
	T7-7	森井拓哉(森林総合研究所)
T8	T8-1 ~ T8-3	横田康裕(森林総合研究所)
調和的木エネ利用	T8-4 ~ T8-6	鈴木保志(高知大学)

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月17日午前 1/2

会場	Leo Esaki メインホール	101	中ホール200	201A	201B	202A	202B
開始時刻	S1 林学史	S8 地域の森と暮らし	S7 樹木の環境適応			T2 保健休養	T3 森林の放射能
9:00	S1-1 見果てぬ夢：経験主義・現場主義に根差した多様な森林施業の成立：大住克博（大阪市立自然史博物館）	S8-1 地域の森林を活かしたこれからの暮らし：徳地直子（京都大学）	S7-1 近年分かってきたダケカンパの生態と環境適応研究の意義：相原隆貴（筑波大学）			T2-1 発表取り消し	題目説明
9:15	S1-2 抽象化・普遍化の近代科学と黎明期の森林文学：田中隆文（名古屋大学）	S8-2 官民連携で地域の価値を生み出す事業—多様なステークホルダーと森をひらく：松本剛（株式会社飛騨の森でクマは踊る）	S7-2 異なる気候条件下におけるダケカンパの気孔密度とサイズの変化：黒一画（東京大学）ら			T2-2 Potential of controlled natural tree regeneration (CNR) for urban forest management in Kampala, Uganda：キバラムマ・ビン ポグレ（Tokyo University of Agriculture）ら	T3-1 航空機モニタリングによる森林の放射性Cs沈着量の時間変化は何を示すか：金指努（福島大学）ら
9:30	S1-3 “林学”以前 — 近代学問の博識遺産：三島美佐子（九州大学総合研究博物館）	S8-3 製材所が考える、木の文化と産業のあわい：及川幹（株式会社やまかわ製材会）	S7-3 共通圏域におけるダケカンパの被食量と防御形質の集団間変異：双木寛人（東京大学大学院）ら			T2-3 内的作業モデルの対象としての風景（第2報）：尾崎勝彦（大阪公立大学）ら	T3-2 筑波山森林における表層土壌の交換性¹³⁷</SUP></SUP></SUP>Cs存在割合の変化：越川昌美（国立環境研究所）ら
9:45	S1-4 森林利用学における技術革新：酒井秀夫（日本木質バイオマスイネルギー協会）	S8-4 官民連携で地域の価値を生み出す事業—多様なステークホルダーと森をひらく：井上彰（株式会社飛騨の森でクマは踊る）	S7-4 How Environment and Provenance Shape Soil and Root Fungal Diversity in <i>Betula ermani</i> : Insights for Forest Conservation：Aye Myat Myat Paing（東京大学）ら	発表1		討論・調整	T3-3 樹皮中の¹³⁷</SUP></SUP></SUP>Cs濃度の長期変動：外樹皮の汚染はどこまで低減しうるか？：大橋伸太（森林総合研究所）ら
10:00	S1-5 輸入学知・在来知のキメラとしての造園・ランドスケープ分野の展開と林学：水内祐輔（金沢大学）	S8-5 飛騨地域における林業利用の変容—森林資源は利用されているか：中津川格太郎（京都大学）	S7-5 ダケカンパ産地試験地における萌芽特性と種子採取地の環境特性：室谷楓香（京州大学）ら	D-1 体積から表面積へ—コンパチブル幹表面模式—：井上昭夫（近畿大学）		T2-4 ヒル街の真ん中で森林浴：大手町の森が示す都市林の効力の解明：高山聡理（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	討論・調整
10:15		S8-6 「環境ものさし」ではかる広葉樹林業の持続可能性：渡野恒史（京都大学）ら	S7-6 ダケカンパの萌芽様式と崖伏芽分布パターンとの関係性：本間航介（新潟大学）ら	D-2 森林生態系多様性基礎調査を用いたスギ・ヒノキの地域別成長モデルの推定：横山新樹（京都大学）ら		T2-5 地域の森林を活用した森林療法：研修会の4事例：上原嗣（東京農業大学）	T3-4 林床における落葉層の有無が広葉樹の放射性セシウム濃度に与える影響：山村充（国土防災技術株式会社）ら
10:30		S8-7 広葉樹のまちづくりにおける市民参加—MSC手法を用いた評価の試み：時任美乃理（京都大学）ら		D-3 スギ—青林の組直・水平競争と直径成長の比較：田中邦宏（国研）森林総合研究所 関西支所）		討論・調整	T3-5 落葉除去による森林源流域での水質形成及び ¹³⁷ Cs流出機構の解明：永田祐太郎（筑波大学）ら
10:45		S8-8 飛騨市出身者を対象としたアンケート調査から聞こえてきたこと：法理樹里（農林水産省 農林水産政策研究所）		林説1		討論・調整	T3-6 安定同位体セシウムを用いたヒノキ林の放射性Cs循環解析：坂下渉（森林総合研究所）ら
11:00				A-1 阿蘇地域の草原が辿った森林への変遷過程：八巻一成（森林総合研究所）ら	D-4 全天球カメラによる林内計測手法の開発：金森匠彦（一般社団法人日本森林技術協会）		T3-7 福島県の森林における野外露床栽培キノコの ¹³⁷ Csの移行と蓄積：濱邊未来（国立環境研究所）ら
11:15				A-2 京都大学上賀茂試験地の移転に京都府と京都軍政部はどのように関わったのか：坂野上なお（京都大学）	D-5 ドローンとAIを活用した上田市の森林境界明確化と林相タイプ別区分：原佳輝（精密林業計測株式会社）ら	討論・調整	
11:30				A-3 日本の森林政策の非民主化：重事の視点から：熊谷千代子（東京大学）ら	D-6 UAVレーザ計測と地上調査の併用による森林計測の有効性：千葉幸弘（日本森林業振興会）		ポスター紹介
11:45				討論・調整	討論・調整		ポスター紹介
12:00							
12:15							
12:30							
12:45							
13:00							
13:15							
13:30							
13:45							

ポスター発表のコアタイム（対面会場）

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月17日午前 2/2

会場	中ホール300	303	304	402	404	405	406
開始時刻	S10 林野公共のあり方	S6 生理部門シンポ	S12 きし木の根系	委員会等		S9 大船渡林野火災	T6 デジタルツイン
9:00	S10-1 「林野公共事業を問う」ことの現代的意義と研究課題：佐藤宣子（九州大学）	S6-1 ユーカリから単離されたアルミニウム無毒化タンニンの生成機構の解明：山満千尋（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	S12-1 挿し木不定根誘導シグナルと育成環境に基づいた不定根誘導メカニズム：渡辺敦史（九州大学大学院）			S9-1 林野火災後の樹幹火傷調査と森林変化の長期モニタリング：峠嘉哉（京都大学）ら	T6-1 フォレストデジタルツイン構築に向けた VTOL による広域森林計測：瀬誠志郎（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
9:15	S10-2 日本全土の過去37年間における皆伐・再造林状況と天然林景観構造の変化：教重涼子（九州大学）ら	S6-2 樹木生理学と環境造林：小島克巳（東京大学）	S12-2 土砂災害防止機能発揮に向けたスギ挿し木品種における根系構造の理解：吉村知也（九州大学大学院）ら			S9-2 大船渡市林野火災の復旧に向けた岩手県取組：菊地明子（岩手県）	T6-2 非皆伐林分における新たな計測技術の提案：越農（ジオサーフ株式会社）ら
9:30	S10-3 豪雨による表層崩壊の発生要因に保安林制度が与える影響：金子敬平（九州大学）ら		S12-3 近年九州地方で発生した斜面崩壊と森林による崩壊土砂制御の事例：水野秀明（九州大学）			S9-3 林床可燃物が燃焼強度に及ぼす影響と林野火災後の影響評価に向けた取り組み：吉藤奈津子（国研）森林研究・整備機構）ら	T6-3 下層木損傷最小化のための伐倒作業：大塚大（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）ら
9:45	S10-4 地域森林計画や届出情報に基づく全国および東北地方の伐採や造林の状況：富山啓介（岩手大学）ら		S12-4 センダンの隠れた根の機能：樹齢にともなう根系変化と根ざし増殖の可能性：向井伸生（宮崎県林業技術センター）			S9-4 大規模林野火災による林木被害の影響と火災後の植生回復：酒井敦（森林総合研究所東北支所）ら	討論・調整
10:00	S10-5 地域森林計画別に見た戦後造林の人工林前生植生：上野竜大生（九州大学大学院 生物資源環境科学府）ら					S9-5 林野火災が土砂流出と植生に及ぼす影響：松本一穂（岩手大学）ら	T6-4 TLS計測から構築したQSMによる森林光環境シミュレーション：依屋園純平（東京大学）ら
10:15	S10-6 我が国の林業機械化の何が失敗だったのか？－岐阜地方の皆伐地を事例として：吉村哲彦（島根大学）ら					S9-6 林野火災が森林生態系の物質循環に与える影響：五十嵐康記（筑波大学）ら	T6-5 高性能サーバーを用いた大規模点群処理による樹木解析：坂倉健太（ImVisionLabs株式会社）ら
10:30	S10-7 流域の森林変化がダム堆砂量に及ぼす影響：蔵治光一郎（東京大学）ら					S9-7 火災後の生態学的記憶と森林管理 ―土壌微生物相が示す復元力―上村真由子（日本大学）ら	T6-6 林野事業補助金のデジタル申請・検査情報のデジタルツインへの活用戦略：高橋正義（森林総合研究所）
10:45	S10-8 北海道十勝地域における造林補助金の展開構造：尾分達也（北海道大学大学院農学研究院）						討論・調整
11:00							T6-7 4D FMCW LiDARを使った3D環境地図の構築：西川祐矢（ジオサーフ株式会社）ら
11:15							T6-8 3D地形データを搭載したゲーム機型ハースタシミュレータ開発の試み：和田陽一（エアロトヨタ株式会社）
11:30							討論・調整
11:45							
12:00	学会企画1						
12:15							
12:30	ランチョンミーティング 「困りごとを共有しよう！ Part2」 ※12：00開始			日林誌 編集委員会			
12:45							
13:00							
13:15							
13:30							
13:45							

ポスター発表のコアタイム（対面会場）

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月17日午後 1/2

会場	Leo Esaki メインホール	101	中ホール200	201A	201B	202A	202B
開始時刻	T4 総合学・原論	S13 環境森林生理生態	S14 林内ドローン開発	林設2	経営2	S15 森林教育の発展	T5 樹木根
14:15	T4-1 総合学・原論としての森林科学の射影と可能性：平野悠一郎（森林総合研究所）	S13-1 変動環境下におけるカラマツの共生菌類の役割：小池孝良（北海道大学）ら	S14-1 森林内ドローン飛行の動向と森林分野での応用：加藤順（千葉大学）	A-4 2020年国勢調査が示す林家世帯の特徴：林宇一（宇都宮大学）ら	D-7 2機種モバイルレーザースキャナの精度比較：辰巳貢一（京都大学大学院）ら	S15-1 幼児の遊びを支える身近な樹木と木のおもちゃ：吉澤千夏（上越教育大学）	題目説明
14:30	T4-2 19世紀ドイツの国家学における林政学と憲法理論の交錯とその現代への示唆：山岸健一（林業経済研究所）	S13-2 森林におけるテルペン揮放出の速度的季節性と生育環境履歴の関係性：増井昇（静岡県立大学）ら	S14-2 小型放射線計による森林内の放射線量分布の解析：田中博幸（公益財団法人日本分析センター）ら	A-5 森林センサスに見る林家の農業活動：芳賀大地（鳥取大学）ら	D-8 近自然型林業におけるバックパック型LiDARを用いた森林調査の試み：岸本光樹（東京大学）ら	S15-2 小学校高学年を対象とした生物多様性への関心を育む教材の開発について：杉野卓也（公益社団法人日本山林会）	T5-1 磯原砂嘴海岸に生育するクロマツの根系構造：平野恭弘（名古屋大学）ら
14:45	T4-3 明治後期における「学校樹林」関連規定 一県制令を中心に：田中千賀子（立教大学）ら	S13-3 日本の都市環境で樹木光合成にオゾン影響が検出されにくいのは何故か：久米薫（九州大学）ら	S14-3 林内ドローンLiDARの優位性とデータ特性：山田誠太郎（千葉大学大学院）ら	A-6 森林センサスにみる退出・参入した林業経営体の農業経営：多田忠義（農林水産省）ら	D-9 地形を用いた多時期TLSデータ的位置合わせに関する検討：伊藤小太郎（名古屋大学）ら	S15-3 国立青少年教育施設における地域資源を活用した森林環境教育の実践：坂本純一（国立宮間青少年自然の家）	T5-2 曲げストレスがクロマツの幹及び根の肥大成長に及ぼす影響：藤田早紀（森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
15:00	討論・調整	S13-4 スギとヒノキのガス交換特性の鉛直分布が林冠光合成と蒸散に与える影響：渡辺誠（東京農工大学）ら	S14-4 森林内飛行を可能にするドローン障害物検知システムの開発：野田健介（東京工科大学）ら	A-7 森林センサスと国勢調査の林業従事者データ分析：田中互（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	討論・調整	S15-4 冬季の野外活動を経験したろう・難聴の中学生が冬の森に感じる魅力：針ヶ谷聖子（ろう・難聴児の体験活動を支える会）	T5-3 東日本大震災14年後の海岸クロマツにおける外生菌根の群集構造と樹木活性：潮川あすか（三重大学）ら
15:15	T4-4 樹医学の系譜に関する試論：藤藤原生（東京大学）	S13-5 日内変動を補正した樹液流速に基づくスギ林の林冠コンタクト数の推定：田中亮志（東京農工大学）ら	S14-5 森林内ドローンの自律飛行と今後の展開：鈴木智（千葉大学）	A-8 森林センサスにみる林業作業受託・立木買い経営体の時系列分析：細藤野正也（福島大学）ら	D-10 北方林における景観スケールでの平均林冠高と林冠粗度の関係：細田理仁（北海道大学）ら	S15-5 野外教育の場としての森林の役割：高橋達也（筑波大学）ら	討論・調整
15:30	T4-5 樹木学の普及と日本人の自然信仰との関係：樹木に関わる習俗の歴史的変遷：小室駿（東京農工大学）ら	S13-6 日本海側の変動する大気汚染に対するスギ森林集水域の応答：2002-2025：佐藤裕之（アジア大気汚染研究センター）ら		討論・調整	D-11 スギ・ヒノキ高密度林分におけるSHM点群データを用いた単木検出：山本啓（広島県立総合技術研究所）ら	S15-6 子育て世代の森林に対する認識の解明：つくば市の効果的な森林活動に向けて：渡邊仁（筑波大学）ら	T5-4 降雨・斜面崩壊メカニズムと樹木根系の役割：スケールの視点から：五味高志（名古屋大学）ら
15:45	T4-6 昭和初期の施策計画資料からみた神社林の保全と森林施業－奈良県を事例に－：舟橋知生（竹中大工道具館）	S13-7 熱帯林樹木の樹高に伴う葉の生理生態的特性の変化：田中重蔵（国際農林水産業研究センター）		A-9 木材生産をめぐる取引構造と山林仲介者の位置付け：佐藤大真（鹿児島大学）ら	D-12 ALSデータを活用した樹高成長曲線式の精度検証：大矢信次郎（長野県森林総合センター）	S15-7 森林教育活動を進める上での課題と支援策：寺嶋嘉寿（一般社団法人日本森林インストラクター協会）	T5-5 中間温帯針広混交林における24樹種の吸水深度推定：勝浦純（国際農林水産業研究センター）ら
16:00	討論・調整			A-10 林業事業体における立木の大型化への対応：松本英吾（高知大学）	D-13 競争指数を組み込んだ森林構造モデルによるDBH推定精度の評価：江口剛和（人間環境大学）ら		T5-6 山岳域における樹木根系の水獲得戦略：水フลักスと根現存量からの探求：増本泰河（信州大学）ら
16:15	T4-7 池田真次郎の日本型ワイルドライフ・マネジメント思想と猟区制度構想：古賀達也（森林総合研究所）ら			A-11 高性能林業機械のレンタル・リースの現状：齊藤まど佳（東京農業大学）ら	討論・調整		討論・調整
16:30	T4-8 森林の風土と文化の調和－日本の木竹草の共生を中心に－：若松文代（北九州市立大学）			討論・調整	D-14 ドローンとAIによる森林資源量の自動解析プログラムの開発：原鏡（精密林業計測株式会社）ら		T5-7 森林調査における枯死樹判定の難しさを無く：大橋瑞江（兵庫県立大学）ら
16:45	T4-9 発表取り消し			A-12 南九州における木材産業の外国雇用：滝沢裕子（鹿児島大学）ら	D-15 航空レーザ計測データを用いた林内下層植生被率の推定：藤井耕一郎（アジア航測株式会社）ら		T5-8 森林における細根のフェノロジーと生産量の評価のための画像解析技術：福澤加里部（北海道大学）ら
17:00	討論・調整			A-13 地域林業における持続可能な労働力確保に向けた新規就業者の定着要因分析：張容（早稲田大学）ら	D-16 YOLO-SegにDCHM特徴量を適用した針葉樹樹冠の抽出：曾田森羅（鳥取大学）		T5-9 モックワタケ林で考える輪生産量と土壌呼吸の関連性：久米朋宣（九州大学大学院）
17:15	T4-10 流域によみえる人と森林の新たな関係：山本実穂（宇都宮大学）ら			討論・調整	討論・調整	教育1	討論・調整
17:30	T4-11 岡山県のため池と森林－勝谷穂氏の言説に着目して－：古井芦宏通（東京大学）ら					C-1 身近な樹木を活用した保育者養成校での木育：遠藤知里（常葉大学短期大学部）	総合討論
17:45	T4-12 森林の持つ両義性：寺下太郎（愛媛大学大学院）					C-2 学生を対象とした砂防えん堤モデル実験の改良と授業実践：東原貴志（上越教育大学）ら	
18:00	T4-13 価値多元主義と社会生態システム論に基づく森林価値ダイアログカードの提案：太田和彦（南山大学）					C-3 森のお話はどこから来る？－絵本の作者と時代の視点から－：杉浦克明（日本大学）ら	
18:15	討論・調整					討論・調整	
18:30							
18:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月17日午後 2/2

会場	中ホール300	303	304	402	404	405	406
開始時刻	T1 生物多様性保全	S4 熱帯林業応用策	S11 持続的な発電事業		特用林産	防災・水文1	T7 ネットゼロ森林
14:15	場旨説明	S4-1 Enhancing resilience to tropical timber species in terms of species distribution model：津山幾太郎（森林総合研究所北海道支所）ら	S11-1 富毛市における地域社会に根差したバイオマス発電事業の構築：永野正朗（株式会社グリーン・エネルギー研究所）		N-1 気候変動に伴うマツタケ発生期間の変化-約半世紀の調査結果から：古川仁（長野県林業総合センター）ら	N-1 鉛直流と傾斜方向流の違いを流出応答と湧水温形成の観点から考える：谷誠（京都大学）	T7-1 森林管理シミュレーターを用いた森林生態系における材収支の評価：酒井考夫（森林総合研究所）ら
14:30	T1-1 非保護区での鳥類の減少：17年間の全国での繁殖期と越冬期のモニタリング：河村和洋（森林総合研究所）ら	S4-2 インドネシアの有用林業樹の遺伝的起源と温暖化後の将来の森林材料の推定：津村義彦（筑波大学）ら	S11-2 エフビットコミュニケーションズ（株）の取り組み：谷脇勝久（エフビットコミュニケーションズ（株））		N-2 松茸の成育環境における土壌表面の改良：奥田 登ソノダノボル（八木町マツタケ生産振興会）ら	J-2 山地森林流域の流出平準化機能を決める要因の推定：棚山寛樹（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	T7-2 高分解能炭素シミュレーターを用いた日本の森林のNBP推定の試み：小南祐志（森林総合研究所）ら
14:45	T1-2 気候変動下の海岸林枯死と生態サービスの経済評価：大森結衣（京都大学）	S4-3 Eco-physiological approach to identify resilience of tropical timber species：河合清定（国際農林水産業研究センター）ら	S11-3 木質バイオマス発電の現状と事業継続性に関する考察：佐藤政宗（株式会社森のエネルギー研究所）		N-3 マツタケ胞子の接種方法の検討：藤田徹（京都府農林水産技術センター）	J-3 斜面観測から推定される降雨から流出への変換メカニズムとそのモデル化：小島永裕（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）ら	T7-3 マツ枯れによる森林擾乱が引き起こす炭素損失リスクの全国評価：平田晶子（森林総合研究所）ら
15:00	T1-3 日本の人工林における鳥類多様性保全：分布モデルと林分経済価値からの考察：山浦悠一（森林総合研究所）ら	S4-4 Transcriptome approach to identify resilience of tropical timber species：SudarnonwatiEnny（National Research Innovation Agency）ら			討論・調整	討論・調整	討論・調整
15:15	討論・調整	S4-5 Enhancing Resilience to Tropical Timber species Using Genomic Selection Model：MeinataAlnus（University of Tsukuba）ら			N-4 マツタケ感染症を移植した模擬伐採跡地におけるマツタケDNAの面的分布：成松貴樹（岩手県林業技術センター）ら	J-4 林地における水資源涵養量（貯留機能）の簡易評価手法：大野亮一（国土防災技術株式会社）ら	T7-4 主伐を伴う人工林の炭素の固定期間に基づくクレジット発行方法の検討：佐藤雅生（東京農工大学）ら
15:30	T1-4 スギを移植したのに広葉樹林になるのはどのような場所か—山形県北部の例—：野口麻穂子（森林総合研究所東北支所）ら	S4-6 Implementation in tropical forestry through mass propagation of selected individuals and superior trees：山岸裕介（住友林業株式会社）ら	T8 調和的な木エネ利用		N-5 原木シイタケホダ場における有効積算温度の人工衛星からの推定：川本啓史郎（長崎県農林技術開発センター）ら	J-5 流域スケールでの流木の発生・滞留・流出条件を考慮した流出特性の評価：中島啓太（名古屋大学）ら	T7-5 材分と木材製品の蓄積変化および代替効果を考慮した炭素排出量長期評価：岡梅奈（森林総合研究所）ら
15:45	T1-5 王子ホールディングスの保持林家への取り組み：豊島悠哉（王子マネジメントオフィス株式会社）ら	S4-7 林木育種や林業施策が生態系機能に及ぼす影響：土壌GHG動態の観点から：近藤俊明（国際農林水産業研究センター）ら	場旨説明		討論・調整	J-6 花崗岩基岩に貫入したドレイフト岩脈が山地流域の流出過程に与える影響：平尾耀惟（信州大学）ら	T7-6 伐採木材製品による炭素貯蔵効果の将来推計に係る木材需要シナリオの検討：森井拓哉（森林総合研究所）ら
16:00	T1-6 保持林業および類似する実践事例の収集：山中聡（森林総合研究所）ら	S4-8 Sustainable Use of Forest Resources and Improvements in Livelihoods for Forestry Farmers：TrianaNovelia（Nagasaki University）	T8-1 地域産ヤナギ類によるバイオマス発電所向け燃料生産の試み：園子光太郎（富山県農林水産総合技術センター森林研究所）ら			討論・調整	T7-7 伐採木材製品の炭素貯蔵量推計にむけた建築物の寿命解析：加用千裕（東京農工大学）ら
16:15	討論・調整	S4-9 Achievement of nationally determined contributions (NDCs) and adaptation plan in Indonesian LULUCF sector：Widiyatno（Universitas Gadjah Mada）ら	T8-2 山岳地域道路規格を考慮した未利用材利用可能量推計：有賀一広（宇都宮大学）			J-7 斜面形状が降雨流出ピークに及ぼす影響に関する数値シミュレーション：小杉賢一朗（京都大学）	討論・調整
16:30			T8-3 木質バイオマス燃料及びバイオ炭の国際標準化の動向と課題：吉田貴敏（国立研究開発法人森林研究・整備機構）			J-8 森林流域における地表面および基岩面地形から見た集水構造と流出の関係：棚山正則（京都府立大学）ら	
16:45			討論・調整			J-9 風化岩盤内の地下水位観測による流域貯留機能評価：猪越翔大（名古屋大学大学院）ら	
17:00			T8-4 製材工場の木材乾燥エネルギーについて：久保山裕史（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら			J-10 Measurement and modelling of the late winter snow depth over Mt Dairoku in central Hokkaido：ChandratilakeThilakawansa（THE UNIVERSITY OF TOKYO）ら	
17:15			T8-5 真庭地域における林業クラスターを基盤とするバイオマス利活用システム：澤田直美（真庭バイオマス発電株式会社）ら			討論・調整	
17:30			T8-6 環境・社会・経済のバランスがとれた木質バイオマスエネルギー利用の論点：横田康裕（森林総合研究所）				
17:45			討論・調整				
18:00							
18:15							
18:30							
18:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月18日午前 1/2

会場	Leo Esaki メインホール	101	中ホール200	201A	201B	202A	202B
開始時刻	S2 森林サービス産業	立地	造林1	林設3	経営3	風致・観光1	動物・昆虫1
9:00	S2-1 マレットゴルフによる森林の継続的利用：三木敦朗（信州大学）	I-1 スギヒノキ人工林における斜面位置による土壌温室効果ガスフラックス特性：飯田匡司（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	E-1 立山のスギ巨木のサイズと樹形一樹形から灌漑期の森林利用を読み解くー：杉田久志（富山県立山カルデラ砂防博物館）ら	A-14 低等級木材の有効利用による家具の新たな価値創造：炭素固定効果の算出：徳永友花（東京大学大学院農学生命科学研究科）ら	D-17 北海道・道東地域を対象とした森林計測と樹種判別 ①計測と点群解析：矢口慎（株式会社かたばみ）ら	B-1 発表取り消し	L-1 クマ剥ぎ対策としての塗布型忌避剤の効果：柳澤賢一（長野県林業総合センター）ら
9:15	S2-2 森のようちえんの森林利用：丹羽美之（京都先端科学大学）	I-2 高山低木本植物の形態を介した栄養獲得戦略：異なる置根タイプ間の比較：廣田竜之介（信州大学大学院）ら	E-2 Relative stress on a tree stem in even and uneven-aged forests in Slovenia：上村佳奈（信州大学）ら	A-15 わが国における梱包材製材の展開：嶋瀬拓也（森林総合研究所）	D-18 北海道・道東地域を対象とした森林計測と樹種判別 ②分類精度の評価：越方誠二郎（鹿島建設株式会社）ら	B-2 Which Pathways lead to Higher Collaboration Satisfaction?: Social Network and tsQCA Study for Minami-Alps EcoPark：王英華（東京大学）ら	L-2 道産的多様性指標に基づくツキノワグマ地域集団の評価と保護管理への検討：小井土薫々子（京都大学）ら
9:30	S2-3 都市に残された里山が創発する多元的活動：藤田勘人（徳島大学）	I-3 土壤微生物群集の深度方向の変化と窒素・炭素無機化速度との関係：中山理智（岡山大学）ら	E-3 石狩川源流地域における風倒後70年間の林分推移：瀧井武（森林総合研究所）ら	A-16 培殖用薪の生産流通構造：清水貴（鹿児島大学）ら	D-19 ALOS-2フルポリメトリデータを用いた複数樹種の樹高推定：堀井翔宇（東京ガス株式会社）	B-3 文献調査からみる国立公園の利用史と今後の展望：小山峻（東京農業大学）	L-3 信州伊那谷におけるツキノワグマ <i>Ursus thibetanus</i> の機能的適応性評価：松本拓馬（筑波大学）ら
9:45	S2-4 関係性価値の観点から考える森林サービス産業と多様な森林利用：山本信次（岩手大学）	I-4 常陸太田試験地における皆伐後の要素動態の経年変化：藤橋祐星（京都大学大学院）ら	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整
10:00	S2-5 無住化集落における人と「ヤマ」との関係り：岡田航（尚絅学院大学）	I-5 Regional Drivers of Stream Nitrate in Forested Watersheds of Kyushu Main Island：MaungNay Lin（Kyoto University）ら	E-4 ハイブリッド型苗木生産システムによるカラマツ苗木の植林後の生育評価：清田陽子（株式会社大林組）ら	A-17 庫山ボランティアの担い手となるシニアの人物像について：石山晴也（東京農業大学）	D-20 Assessing Forest Change in Ridge-to-reef Landscapes of Solomon Islands using Multitemporal Satellite Data：BeuMclessey（新潟大学）ら	B-4 やんばる国立公園における入域料に関する支払意思額と規定要因：清水智文（名古屋大学）ら	L-4 2024年秋に鳥取県で大量捕獲されたツキノワグマの特徴：西低介（鳥取県林業試験場）
10:15		討論・調整	E-5 ハイブリッド育成苗木の成長予測モデル化手法の検討：下山真人（(株)大林組）ら	A-18 行動実管理論に基づく森林の多面的機能に資する森林所有者の管理行動の分析：三ツ井聡美（筑波大学）ら	D-21 Assessing Orthophoto Accuracy from Aerial Photographs through Various Image Scanning and Digital Acquisition Methods：Kyaw Win（Forestry and Forest Products Research Institute）ら	B-5 富士山来訪者管理戦略の現状と課題：寺嶋竜雄（静岡県立大学）	L-5 センサーカメラによるシカ捕獲の効果検証：岡田英樹（熊本県東北広域本部）ら
10:30			E-6 Changes in Soil Nitrogen Dynamics after Clearcutting and Reforestation at the Hitachi Ota Experimental Site：--（Kyoto University）ら	A-19 佐久地域におけるカラマツ林伐後の再造林促進要因の検討：岸野奏（東京大学大学院）ら	D-22 ドローンによる広葉樹林の3D単木樹型と樹種分類：荒井秀（精密林業計測株式会社）ら	B-6 統合モデルによる国立公園の経済評価：ビッグデータとWebアンケートの分析：栗山浩一（京都大学）ら	L-6 白山におけるニホンジカの侵入状況調査2025年—自動撮影カメラと食痕調査—：近藤壮太（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら
10:45			討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整
11:00			E-7 持続的な広葉樹林施業に取組む山形県置賜地方の共有林の事例：齋藤智之（森林総合研究所）ら	A-20 タンザニアにおける R E D D + 政策の進展—セーフガードに着目して：福岡崇（里田亜大学）	D-23 広葉樹林におけるICTを活用したバイオマス資源量推計に関する研究：戸橋ななみ（芝浦工業大学）ら	B-7 公的地理情報を用いた登山道の魅力度や体力要求量の可視化：松浦俊也（（国研）森林研究・整備機構森林総合研究所）	L-7 EPN共生細菌の散布によるマツ材線虫病予防効果の検証に向けた予備試験：小澤壮太（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら
11:15			E-8 鳥取県におけるスギ特定苗木植栽1年目の成長：赤井広野（鳥取県林業試験場）	A-21 防食層による林業被害軽減の現状と課題：垂水重紀（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所四国支部）ら	D-24 造林補助の利害不一致のもとで目標供給量を満たす木材生産林の分布と面積：守口海（信州大学）ら	B-8 登山道維持管理における登山道台帳の必要性：大宮徹（NPO法人 富山県自然保護協会）ら	L-8 マツノマダラカミキリに有効なRNAi農薬の開発に向けて：柄野巴瑛（森林総合研究所）ら
11:30			E-9 北海道東部における天然林択伐施業地の長期動態：吉田俊也（北海道大学）	A-22 航空レーザ計測データを用いた森林GISによる林業収益性の可視化：金山和広（元京都大学）ら	D-25 近自然型林業における選木方法の国際比較：北海道とスロベニアでの実践事例：小林徹行（東京大学北海道選抜習林）ら	B-9 野付風連道立自然公園の国立公園化に対する地域関係者・利用者の意識：栗甲哲也（北海道大学）ら	L-9 オオアカズヒラタハバチから検出された細胞内共生細菌ボルバキアについて：相川拓也（森林総合研究所）ら
11:45			討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整
12:00			ポスター発表のコアタイム（対面会場） 〔高校生ポスター：12:00-14:00〕 〔一般ポスター：13:00-14:00〕				
12:15							
12:30							
12:45							
13:00							
13:15							
13:30							
13:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月18日午前 2/2

会場	中ホール300	303	304	402	404	405	406
開始時刻	S3 フォレスター比較	遺伝・育種1	微生物1			防災・水文2	利用
9:00	S3-1 日本における現場フォレスターの認識：石崎涼子（森林総合研究所）ら	F-1 葉緑体DNAの変異と伝染性および形態に基づくオオズミの分類学的再検討：工藤舞泉（東京大学大学院）ら	M-1 山口県のスギ・ヒノキコンテナ苗で発生した病害：吉岡陸人（山口県農林総合技術センター）ら			J-11 地すべり斜面の拡大崩壊を引き起こした豪雨と地下水の観測事例：浅野志穂（（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	K-1 常陸太田試験地における作業道の土壌諸特性の経年変化：北原壮恭・浅野志穂（（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
9:15	S3-2 台湾における現場フォレスターの認識：笹田敬太郎（（国研）森林総合研究所九州支所）	F-2 アモトミズナラの遺伝的変異の地理的変異：井上元貴（岐阜大学大学院）ら	M-2 スギとヒノキの苗立枯病から分岐されたFusarium属菌の病原性：市原優（森林総合研究所関西支所）ら			J-12 森林と豪雨災害に関する予備的検討：執印康祐（九州大学）	K-2 山岳地域の道路網での経路分析による道路視認区分を考慮した運搬効率の検討：鈴木保志（高知大学）ら
9:30	S3-3 インドにおける現場フォレスターの認識：大田真彦（長崎大学）	F-3 Ancient genetic contact between Korean and Japanese subalpine firs, Abies veitchii and A. koreana：WorthJames（国立研究開発法人森林総合研究所）	M-3 木材変色菌 Chalaropsis thielavioides のスギに対する病原性評価：升屋勇人（（国研）森林研究・整備機構）ら			J-13 力学モデルによる樹木質量の推定：島田宏行（宮小牧工業高等専門学校）ら	K-3 タワーヤード作業を考慮した幹定：島田宏行（宮小牧工業高等専門学校）ら
9:45	S3-4 フィリピンにおける現場フォレスターの認識：栗山アツコ（久留米大学）	討論・調整	討論・調整			討論・調整	K-4 森林水系の高精度抽出に向けたDEM解像度・処理量・アルゴリズムの検討：瀬川瑞己（東京農工大学大学院）ら
10:00	S3-5 ベトナムにおける現場フォレスターの認識：岩永青史（名古屋大学）	F-4 サワラとヒノキの乾湿環境における適応的遺伝子浸透の可能性：堀部真生（岐阜大学）ら	M-4 北海道東部のアカエゾマツ林における地表更新の成否と土壌病原菌の関係：岩切鮎佳（東京大学大学院）ら			J-14 一ツ瀬川上流部における崩壊地の様相回復予測モデルの構築：篠原慶雄（京崎大学）ら	K-5 マレーシア・サラワク州における森林モデル・機械学習によるシナリオ解析：大場真（東北工業大学）ら
10:15	S3-6 インドネシアにおける現場フォレスターの認識：志賀薫（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）	F-5 ヒノキ科3種のゲノム解読により見出された染色体構造変異：白澤謙太（かずさDNA研究所）ら	M-5 日本でユカリ類の商業上に見出されたCalonectria属菌とその病原力：坂上大真（東京大学）ら			J-15 2024年熊直半島地震後に見出された森林での幹折れの実態把握：出村航大（宇都宮大学）ら	K-6 シミュレータを用いた森林条件に対する自己位置推定精度の検証：中込広幸（森林総合研究所）
10:30		F-6 プナ科植物スダジエとカクミガシのハプロタイプレベルでのゲノム解読：實下愛梨（九州大学）ら	M-6 枯損状況の異なるカラマツ類幼樹木における感染シラカバ属菌の違い：和田尚之（北海道立総合研究機構 林業試験場）ら			J-16 火山灰降下の影響をうけた茨城県常陸太田市の花間岩丘陵地における土層発達：渡邊卓磨（森林総合研究所）ら	討論・調整
10:45		討論・調整	討論・調整			討論・調整	K-7 ニュージーランドのワインシアシステムと日本型普及モデルの検討：佐々木尚三（KITARINラボ）ら
11:00		F-7 クローン検定林のレガシーデータによる空間自己相関を考慮した樹高成長評価：江島淳（佐賀県林業試験場）	M-7 木綿による打音の異質はどのような特徴を反映しているか：広葉樹高成長評価：江島淳（佐賀県林業試験場）での事例：山下聡（森林総合研究所）ら			J-17 UAVで観測した台風風倒被害分布と気象・地形対応CFD解析との比較評価：米康充（島根大学）	K-8 Towards Data-Driven Modeling of Cut-to-Length Harvester Productivity in Japan：LahrsenSteffen（東京大学）ら
11:15		F-8 異なる日長下におけるスギ3系統の成長の応答及び地上部/地下部比の変化：黒澤陽子（森林総合研究所林木育種センター）ら	M-8 交配型遺伝子を用いたカラマツの先枯病菌の種特異的プライマーの開発：服部友香子（森林総合研究所）ら			J-18 発表取り消し	K-9 ガス化CHPに適したチップ作成のための切削装置の要件：岩岡正博（東京農工大学）ら
11:30		F-9 第2世代純実樹（サガノスギ）の移植台木のシュートフェノロジー：栗田晴矢（佐賀県林業試験場）ら	M-9 鹿間床の再構築によって誘導された疎水・親油性の発現—油吸着材への応用—：陶山大志（島根県中山間地域研究センター）			J-19 森林斜面における土壌乾燥の進みを決める土地・土性条件の数値的検討：関口寛人（森林総合研究所）ら	K-10 ヒノキ伐倒木の倒伏速度および慣性モーメント：松本武（東京農工大学大学院）
11:45		討論・調整	討論・調整			討論・調整	討論・調整
12:00							
12:15							
12:30		ポスター発表のコアタイム（対面会場） （高校生ポスター：12:00-14:00） 〔一般ポスター：13:00-14:00〕				ポスター発表のコアタイム（対面会場） （高校生ポスター：12:00-14:00） 〔一般ポスター：13:00-14:00〕	
12:45							
13:00							
13:15							
13:30							
13:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月18日午後 1/2

会場	Leo Esaki メインホール	101	中ホール200	201A	201B	202A	202B
開始時刻	学会企画3	植物生態	造林2	林政4	経営4	風致・観光2	動物・昆虫2
14:15	高校生ポスター表彰式	W-1 タケササ類―斉開花を予測し待ち伏せする―長野県スズダケの開花前年動向へ：小林慧人（森林総合研究所関西支所）ら	E-10 ニホンジカ不妊好性早生樹「アブラギリ類」の可能性：大場孝裕（静岡県）	A-23 都市住民の森林への関与意欲からみた都市と農村連携による森林整備の方向性：石佳凡（早稲田大学）ら	D-26 森林薄に頼らない森林管理：メッシュデータによる森林情報管理の試み：村上拓彦（新潟大学）ら	B-10 沖縄本島における緑化樹木生産の現状：監場将司（琉球大学）ら	L-10 樺木林業が里山林の生物多様性に与える影響の考察：西本屋美（三井共同建設コンサルタント株式会社）ら
14:30		W-2 温帯林における木本性つる植物の増加に対するクローン繁殖と擾乱の役割：森英樹（森林総合研究所）ら	E-11 異なる土壌条件に植栽した同一家系のセンダングサの成長について：柴田寛（鳥取県林業試験場 森林管理研究室）	A-24 熊野古道伊勢路における標識や文化財等の管理状況：平山和虎（東京大学）ら	D-27 リモートセンシングによる森林ゾーニング実証－財産区での適用－：丸山拓見（精密林業計測株式会社）ら	B-11 輪南用幹の資源確保を目的としたカシ類人工林の協働管理の取組み：若山学（奈良県森林技術センター）ら	L-11 営業性害虫ヤノメガタチビタマムシの成虫の発生に早期発見が与える影響：大澤正嗣（山梨県森林総合研究所）ら
14:45		W-3 ナラ枯れによる林冠消失が他樹種の林冠拡大に及ぼす影響：奥山雅隆（東京農工大学）ら	E-12 ウルシ林の最多密度と樹幹表面積一定則の検証：真坂一彦（若手大学）ら	A-25 森林関連ガイドアンケート結果から探る生態系サービスビジネス化の可能性：高橋卓也（滋賀県立大学）ら	D-28 近自然型森林管理における先端デジタル技術の活用可能性：鄭送求（東京大学）ら	B-12 林内作業道に関する人類学的研究：門馬凌汰（埼玉大学）	L-12 ピロウドカミキリのユズリハ害虫性：江崎功二郎（石川県森林総合研究センター林業試験場）ら
15:00	大学見学ツアー （筑波大学 →17:00）	討論・調整	討論・調整	A-26 発表取り消し	討論・調整	B-13 地域交流が変える山策・きのこ採取活動とコロナ禍の影響：古川拓哉（「国研」森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	L-13 カシノアガキイシムシの忌避によるナラ枯れ防除：小林正秀（京都府森林技術センター）
15:15		W-4 気候変動に伴う中部地方のブナ林3樹種における開芽時期の変化と将来予測：水谷瑞希（京州大学）	E-13 農地跡地での膝載木の成長と土壌の浸透能：園田英夫（鳥取県林業試験場）	討論・調整	D-29 生物多様性保全を考慮した森林ゾーニングの試行：光田靖（宮崎大学）	討論・調整	討論・調整
15:30		W-5 気候変動下における群集温度指標値と機能群別バイオマスの変化：金森由紀（若手大学）ら	E-14 九州産スギの品種の高さと直径の関係：品種試験地45年目の結果：榎木勉（九州大学）ら	A-27 現代の山村地域における子どもの遊びの実態：長野県下水内郡栄村を事例に：矢部瑞季（東京農工大学）ら	D-30 古い空中写真による時系列3Dモデルの作成 一能登地帯における事例－：小谷英司（森林総合研究所）ら	B-14 森林被害頻度と生きがい、幸福感・自然への関心の意向との関連：SLEPT Study：森田えみ（「国研」森林研究・整備機構）ら	
15:45	閉会式 （学生ポスター賞授賞式）	W-6 アンデス・アマゾン地域における山地森林生態系の森林劣化評価：宮本和樹（「国研」森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	E-15 ヒノキ人工林における間伐強度の違いが20年後の林床植生に及ぼす影響：市来智明（京都府立大学）ら	A-28 中山間地域における高齢者の買い物・通院支援はどうあるべきか：高野涼（弘前大学）	D-31 機械学習を用いた層級の島町における森林・農地変遷の時系列解析：中條裕太（島根大学）	B-15 都市・都市近郊・地方域住民の森林への関心、訪問頻度に関する比較：小田龍聖（森林総合研究所）ら	
16:00		W-7 発表取り消し	討論・調整	A-29 山形県内の有料わらび園の実態調査結果（第一報）：柴田晋吾（上智大学）ら	D-32 空撮データを用いたスギ人工林のクマ割き被害木の特徴抽出の検討：田和佑博（富山県森林水産総合技術センター）ら	B-16 都市緑地の経済価値評価：札幌市を対象としたヘドニック法による分析：森田真弥（北海道大学）ら	
16:15		討論・調整		A-30 国内の山地放牧の存続条件について―兵庫県東条郡を事例として―：藤井希美子（東京農工大学）ら	討論・調整	討論・調整	
16:30	閉会式 （学生ポスター賞授賞式）	W-8 階層構造に着目したササ亜古型冷温帯成熟林における葉群の空間分布と変動：植田時（筑波大学）ら		討論・調整	D-33 スマート林業を用いた大学発スタートアップの山村課題への挑戦II：加藤正人（佐州大学）ら	B-17 i-Treeによる文化的価値評価のための3次元データを用いた景観解析：齋藤拓海（千葉大学）ら	
16:45		W-9 樹種によって異なる日本の森林の堆積有機物層の厚さ・量：真中卓也（森林総合研究所）ら		A-31 生成AI二重サンプリングによる県議会議事録の森林環境議与校論点構造解析：大森宏（東京大学）ら	D-34 発表取り消し	B-18 最久限の有する生態系サービスに対する住民の選好：豆野純太（北海道大学）ら	
17:00		W-10 東陽的なシカ採食影響下での間伐が林床植生の機能的役割に及ぼす効果：谷脇徹（神奈川県自然環境保全センター）ら		A-32 都道府県による森林環境議与校の使達の定量分析：稲川武（東京大学）ら	D-35 バイオマス燃料製造を主業とした林業の収益性分析：小川尉大（芝浦工業大学）ら	B-19 クマ出没急増をめぐる一般市民の認識と対策への評価：佐子康（北海道大学）ら	
17:15	閉会式 （学生ポスター賞授賞式）	W-11 佐渡島の天然スギの成長特性―多雪山地間での比較から―：梶本卓也（新潟大学）ら		A-33 近代秋田地域の国有林経営における森林保護と労働力確保：芳賀和樹（法政大学）	D-36 ネイチャーポジティブな未来へ：森林生態系サービスのシナリオ分析：山田祐亮（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	討論・調整	
17:30		討論・調整		討論・調整	討論・調整		
17:45							
18:00	閉会式 （学生ポスター賞授賞式）						
18:15							
18:30							
18:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月18日午後 2/2

会場	中ホール300	303	304	402	404	405	406
開始時刻	S5 地域フォレスター	遺伝・育種2	微生物2			防災・水文3	教育2
14:15	S5-1 日本型フォレスター再考：森林・林業再生プラン時から状況変化を踏まえて；堀川高広（PwCコンサルティング合同会社）	F-10 クリーンラーチ1粒播種によって1年でコンテナ苗を育苗する技術；中川昌彦（北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場）	M-10 Light-mediated responses in ectomycorrhizal fungi；コンシワッタナーボグナム（東京大学）ら			J-20 航空機LIDARによる森林火災焼損範囲の抽出；高貫潤一（エアロトヨタ株式会社）ら	C-4 一般向け森林学入門書の制作の試み；園原和夏（日本大学）ら
14:30	S5-2 民間フォレスターの必要性：小森嵐樹（フォレスターズ株式会社）	F-11 カラマツ種子の成熟時期の変異；生力正俊（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター北海道育種場）	M-11 Comparative Single-Reference and Graph Pangenome GWAS of Ectomycorrhizal Formation in <i>Cenococcum geophilum</i> ；孔徳寧（東京大学）ら			J-21 林野火災が斜面・流域スケールの水・土砂移動に与える影響；恵田裕一（筑波大学）ら	C-5 サイエンスカフェは進化する；崎尾均（新潟大学）
14:45	S5-3 片品村での活動について；黒沢秀基（フォレスターズ株式会社）	F-12 青森県十和田市のカラマツ採種園における採取時期別の種子の発芽特性；中島剛（青森県産業技術センター林業研究所）ら	M-12 Identification and functional analysis of long non-coding RNA involved in ectomycorrhizal formation in <i>Populus tomentosa</i> ；楊金薇（東京大学）ら			J-22 愛知県豊田市のヒノキ人工林における間伐前後の水涵調養機能の変化；フアラナクモイン（東京大学）ら	C-6 鳥の鳴き声学習Webツールの開発と評価；種別別能力と意識は変化する？；小川結衣（筑波大学）ら
15:00	S5-4 現場に寄り添う森林づくりの技術；小山泰弘（長野県林業総合センター）	討論・調整	M-13 Functional exploration of candidate genes related to ectomycorrhizal formation in <i>Populus tomentosa</i> ；劉穎（東京大学）ら			J-23 土壤水分観測による林内水収量の推定と間伐の影響評価；岩本樹里（筑波大学）ら	討論・調整
15:15	S5-5 5年目に入った奈良県独自のフォレスター制度について；藤平拓志（奈良県庁）	生理	討論・調整			討論・調整	C-7 森林環境教育プログラムが子どもに与える効果；田村大樹（東京大学大学院）ら
15:30		G-1 Flavonoid遺伝子を欠損させたゲノム編集スギの光合成特性の解析；宮澤真一（森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	M-14 人工地盤と自然土壌に生育するイロハモミジに共生するAMF群集の比較；伊藤愛（東京大学大学院）ら			J-24 Transpiration Dynamics of Tropical Forestry Species under Varying Meteorological Conditions in Sabah, Malaysia；ナイナルアナシ（Universiti Malaysia Sabah）ら	C-8 東京大学演習林における多層的森林教育の実践と連携；李麗（東京大学）ら
15:45		G-2 樹木個体への力学的ストレスは呼吸増加による成長飽和をもたらすか；森茂太（山形大学）ら	M-15 環境条件の異なるヒノキ天然林と人工林のアーバスキュラー菌根群集；高瀬岡（東京大学）ら			J-25 遮断蒸発の主要メカニズムは飛沫蒸発；村上茂樹（森林総合研究所）	C-9 森林環境下における課題解決型体験活動の効果；山縣みる子（北海道教育大学岩見沢校）ら
16:00		G-3 越冬ツバキ花芽の凍結様式のMRIによる可視化；石川雅也（東京大学大学院）ら	M-16 屋久島の人工林と天然林のスギに関わるアーバスキュラー菌根菌の群集構造；松田陽介（三重大学）ら	映画上映会『越後-山に生かされた日々-』		J-26 紅葉シュートの雨水保持・排水特性における樹種間差異の実験的検討；南光一樹（東京農工大学）ら	討論・調整
16:15		G-4 秋施肥が養分状態のよいスギコンテナ苗の耐凍性に及ぼす影響；飛田博順（森林総合研究所）ら	M-17 秩父山地の亜高山帯林におけるイワダレコケ茎葉体上の菌類群集の遷移；金子祐未（東京大学大学院）ら			討論・調整	C-10 森林と有機的に繋がる体験プログラムの検討 ―森林レンタルの活用を通して；中村和彦（東京大学）ら
16:30		討論・調整	討論・調整			J-27 Effects of forest stand structure on throughfall erosivity and model development in Japanese cypress plantations；全慧麗（九州大学）ら	C-11 自然観察のあり方を理解する森林環境教育プログラムの効果；山田亮（北海道教育大学）ら
16:45						J-28 森林回復流域における年蒸発散量変動に外的環境要因が及ぼす影響；浅野友子（東京大学）ら	C-12 ケニア社会林業プロジェクトの成果と教育効果の検証；中山龍之（岡山理科大学）
17:00						J-29 林内における雨滴径の動態変化に着目した遮断蒸発メカニズムの検討；鈴木梨花（宇都宮大学）ら	C-13 世界遺産の森の価値を学び、伝える解説活動のあるべき姿；大島順子（琉球大学）ら
17:15						J-30 モンゴル森林―草原エコトーンにおける永久凍土活動層と植生土壌構造の関係；豊村佳祐（名古屋大学）ら	討論・調整
17:30						討論・調整	
17:45							
18:00							
18:15							
18:30							
18:45							

ポスター一覧

#：学生ポスター賞の対象

部門	ポスター 番号	現地 掲示日	現地掲示会場	講演者氏名	発表題目
林政	PA-1 #	3/17	多目的ホール	重井 友伽	鳥取県における外来植物対策の継続要因
	PA-2			大塚 生美	ノースウエストフォレストプラン30年の歩み－森林経営の統合システム－
	PA-3			澤村 いずみ	ディズニープークに見る生物多様性への取り組み比較
	PA-4 #	3/17	多目的ホール	眞鍋 貴治	持続可能な森林経営に向けた制度実評価フレームの構築と国際比較
	PA-5	3/18	多目的ホール	古里 孝志	林業分野における外国人従事者の実態
	PA-6 #	3/17	多目的ホール	酒井 友希乃	インドネシアの開発計画における森林政策の位置付け
	PA-7 #	3/17	多目的ホール	片平 帆香	輸入依存の木質バイオマス発電所集積地域における原料調達の構造
	PA-8	3/18	多目的ホール	泉 桂子	林業公社の現状－東北地方を事例として－
	PA-9 #	3/17	多目的ホール	伊瀬知 紗凜子	森林資源利用からみた伝統的工芸品産業の可能性：指定制度と樹種利用の実態
	PA-10 #	3/17	多目的ホール	亀崎 詢	馬鹿技術の実態と現代的意義
	PA-11 #	3/17	多目的ホール	佐々木 智大	木質ペレット製造業者の経営の実態と課題－新潟県を事例として－
	PA-12	3/18	多目的ホール	吉野 聡	1本植におけるスギ・ヒノキの特徴-多摩木材センター協同組合を事例に-
	PA-13	3/18	多目的ホール	大洞 智宏	木材市場にはどんな広葉樹材が出ているのか：飛騨地方の事例
	PA-14	3/18	多目的ホール	福沢 朋子	秋田県における広葉樹材需給の現状
	PA-15 #	3/17	多目的ホール	五十嵐 旭	鳥取県における木工品生産流通の現状と課題
	PA-16 #	3/17	多目的ホール	吉村 好生	鳥取県における公共建築物の木材利用の課題
	PA-17 #	3/17	多目的ホール	植田 青	鳥取県における竹資源利用の実態と課題
	PA-18	3/18	多目的ホール	新永 智士	森林組合の主伐展開過程における林業構造的な特徴～南九州の事例分析から～
	PA-19 #	3/17	多目的ホール	鈴木 脩太	インボイス制度導入初期における福島県林業界の動き
	PA-20 #	3/17	多目的ホール	宮本 知明	木材統計からみた都道府県別素材生産量推移について
	PA-21 #	3/17	多目的ホール	酒井 美緒	林業振興に寄与する木質資源由来精油の現状と課題
	PA-22			竹中 昂平	林地取引価格の地理的分布
	PA-23	3/18	多目的ホール	大塚 啓太	林業従事者が抱く「森林生態系サービスに関する価値観」尺度の開発
	PA-24 #	3/17	多目的ホール	林 陽輝	近世木材流送と近代軌道輸送間の史的空白－鬼怒川流域塩谷地域－
風致 ・観光	PB-1	3/18	多目的ホール	平塚 基志	狭小丘陵における森林火災の脆弱性評価
	PB-2	3/18	多目的ホール	小堀 貴子	自然地域における人流データの観光的活用の一考察
	PB-3	3/18	多目的ホール	牧野 奏佳香	ドローンを用いた森林資源・景観の把握と管理シナリオ別シミュレーション
	PB-4 #	3/17	多目的ホール	八坂 真和子	循環葬@：自然葬による社寺林における生物多様性創出
	PB-5	3/18	多目的ホール	蛭田 真史	気候変動による福島県内のイチョウ黄葉日及びカエデ紅葉日の変化と将来予測
	PB-6 #	3/17	多目的ホール	川東 夏子	滋賀県大津市の里山における孤立木の分布と利用
	PB-7 #	3/17	多目的ホール	橋本 優花	滋賀県比良山麓の里山における景観認識と保全意識の関係
	PB-8 #	3/17	多目的ホール	河村 優利佳	LAGO 大津「琵琶湖の森」における里山再生の取り組み
	PB-9	3/18	多目的ホール	香坂 玲	テロワールと森林における知財の活用：地理的表示とコンベンション理論
	PB-10	3/18	多目的ホール	神宮 翔真	市民科学データから評価する森林空間利用施設の文化的生態系サービス
	PB-11 #	3/17	多目的ホール	胡 睿誌	社会経済指標から見た東京都23区都市林の地域差
	PB-12 #	3/17	多目的ホール	笠原 真珠	緑地と音の多様性の関係
	PB-13 #	3/17	多目的ホール	作森 元司郎	富士登山におけるヒヤリハット事例と安全情報の発信状況に関する調査報告
	PB-14 #	3/17	多目的ホール	妹尾 咲絵子	知床国立公園・岩尾別地区におけるヒグマ観察・撮影行動の実態
	PB-15 #	3/17	多目的ホール	粒来 綾香	大雪山国立公園におけるヒグマ出没に対する登山者の意識・行動
	PB-16	3/18	多目的ホール	宮本 麻子	植物方言を用いた文化的サービスの定量化：茨城県南西部における事例
	PB-17 #	3/17	多目的ホール	上田 隆太郎	大学生は森林資源を活用した伝統行事の担い手になり得るのか
	PB-18	3/18	多目的ホール	大崎 理沙	淀川流域における淡水魚の分布と伝統文化
	PB-19 #	3/17	多目的ホール	廣瀬 リリヤス	明日香村歴史的風土特別保存地区における買入地の管理・活用
	PB-20	3/18	多目的ホール	深町 加津枝	淀川流域における火祭りの分布と自然資源利用
	PB-21 #	3/17	多目的ホール	布野 日奈子	草地保全を目的とする火入れ持続性の分析－住民の愛着形成を事例に－
	PB-22 #	3/17	多目的ホール	伊藤 杏珠	自然共生サイト登録の動機に関する分析－非営利団体に注目して－
	PB-23 #	3/17	多目的ホール	岸和田 翔平	荒廃農地の再生と農林業経営の持続性における公的ファンドの役割
教育	PC-1	3/18	多目的ホール	井上 真理子	近代以降の林学教育の広がりと森林科学への転換
	PC-2			倉本 直	明治大学における里山教育
	PC-3 #	3/17	多目的ホール	三宅 真佐子	地方の森林環境教育の現状と継続に向けた課題－Z生産森林組合の調査から－
	PC-4 #	3/17	多目的ホール	松本 奈々江	森林体験内容の感覚別分類による特徴分析：嗅覚的アプローチの導入提案
	PC-5 #	3/17	多目的ホール	今道 耀	中学校における森林体験活動導入の課題と展開の可能性
	PC-6 #	3/17	多目的ホール	加藤 優花	小学校における森林教育の継続要因：鳥取県の事例
	PC-7	3/18	多目的ホール	高田 乃倫予	特別支援学校における森林環境教育の取り組み－秋田県の特別支援学校の事例－
	PC-8			小川 高広	林業大学校の教育活動に対する林業事業者からの評価
経営	PD-1 #	3/17	多目的ホール	小笠原 良	竹林の拡大評価におけるUAV-SfMとバックバック型LiDARの活用
	PD-2 #	3/17	多目的ホール	小町 亮介	竹林の拡大予測モデル構築の行程：黄葉に着目した竹林抽出のための指標作成
	PD-3 #	3/17	多目的ホール	内山 心愛	UAV空撮で得られた多時期合成画像を用いた樹種分類
	PD-4			山口 大樹	3波長同時計測航空機LiDARデータを用いた広葉樹の樹種分類可能性の検討
	PD-5			星川 健史	複数LiDAR機材での樹種判別評価と実装ワークフロー
	PD-6 #	3/17	多目的ホール	PUNGULANI Moses	Analysis of Forest Cover Change Detection in Central Malawi
	PD-7 #	3/17	多目的ホール	李 雲帆	Monitoring Forest Disturbance Dynamics in the University of Tokyo Hokkaido Forest Using Landsat Time Series
	PD-8 #	3/17	多目的ホール	佐々木 駿	合成開口レーダー解析による伐採照査の試み
	PD-9	3/18	多目的ホール	吉村 悠輔	森林資源管理におけるドローンの活用（土場棚卸作業の省力化）
	PD-10 #	3/17	多目的ホール	大槻 峻介	UAV空撮画像を活用した間伐施業検査の効率化
	PD-11			加治佐 剛	ドローンレーザ計測によるスギ・ヒノキの樹頂点抽出
	PD-12	3/18	多目的ホール	後藤 智哉	高解像度衛星DSMデータと無人ヘリ計測データを組み合わせた森林計測
	PD-13 #	3/17	多目的ホール	宮崎 太梓	廉価版UAVレーザを用いた森林計測ポテンシャルの評価
	PD-14 #	3/17	多目的ホール	吉井 達樹	航空レーザを用いた人工林における樹冠長の推定
	PD-15	3/18	多目的ホール	中村 知道	林縁でのUAV空撮画像を用いた立木細り形状の取得手法の検討について
	PD-16	3/18	多目的ホール	松英 恵吾	UAV高密度点群データによる樹幹形状モデルによる基準直径の検討
	PD-17 #	3/17	多目的ホール	ヤン カメイ	手持ち型LiDARスキャナーを用いた人工林の三次元点群解析
	PD-18	3/18	多目的ホール	木田 仁廣	i P a d P r o と無償ソフトの3D撮影による樹木胸高下地上部の表面積計算
	PD-19 #	3/17	多目的ホール	シディラ メモリー	Stepwise Multi-LiDAR Estimation of Tree- and Stand-Level Carbon Stocks in Conifer Plantations in Central Hokkaido
	PD-20	3/18	多目的ホール	Htun Nyo Me	Integrating UAV Multispectral and LiDAR Data for Forest Carbon Stock Estimation in Silvicultural Treatment Areas
	PD-21			山本 一清	ALSデータとシステム収穫表DDPSによる森林資源広域シナリオ解析
	PD-22	3/18	多目的ホール	志水 克人	航空機LiDARと衛星画像データを用いた全国の森林資源量の空間分布評価
	PD-23	3/18	多目的ホール	福井 遼	佐賀県西部における2時期の航空レーザデータによる樹高成長量の要因解析
	PD-24	3/18	多目的ホール		発表取り消し

ポスター一覧

#：学生ポスター賞の対象

部門	ポスター 番号	現地 掲示日	現地掲示会場	講演者氏名	発表題目
経営	PD-25 #	3/17	多目的ホール	上井 啓暉	ALSデータに基づく数量化Ⅰ類を用いた立地環境要因による地位推定
	PD-26			欧陽 春鳴	時系列DSMを用いたスギ人工林二代目造林地の地力評価
	PD-27	3/18	多目的ホール	壁谷 大介	林分成長ポテンシャルを表現するもう一つの方法の提案
	PD-28 #	3/17	多目的ホール	帆代 竜太郎	群状複層林における若齢期から壮齢期に至るスギ更新木の成長予測
	PD-29			北原 文章	多点調査データを用いた樹高曲線の検討
	PD-30 #	3/17	多目的ホール	真次 諒	周辺木の空間配置が方向別の放射成長の違いに与える影響
	PD-31 #	3/17	多目的ホール	石岡 有人	近赤外UAVを用いた海岸林マツ枯れ被害木抽出
	PD-32	3/18	多目的ホール	小澤 和浩	高分解能衛星データを用いた松枯れ被害木の把握（Ⅱ）
	PD-33 #	3/17	多目的ホール	寺田 紅音	時系列空中写真を用いた人工林施業区画の抽出
	PD-34	3/18	多目的ホール	松下 武史	地籍調査実施箇所の航空レーザ測量データを用いた筆界の分析
	PD-35	3/18	多目的ホール	権藤 亮志	リモートセンシング技術を活用した森林境界明確化－伊那市事例－
	PD-36	3/18	多目的ホール	高橋 與明	航空機LiDARデータによる市町村レベルの人工林管理状況の把握
	PD-37 #	3/17	多目的ホール	足立 亜美	日本全国規模での再造林率の定量的評価
	PD-38 #	3/17	多目的ホール	村上 健太	帯状伐採による針広混交林化の可能性の長期的評価
	PD-39 #	3/17	多目的ホール	坂本 竜哉	宮城県南三陸町民有林において所有形態が森林管理に与える影響
	PD-40	3/18	多目的ホール	鷹尾 元	管理優先度の高い森林の抽出と管理技術－市町村の判断を支える基盤として－
	PD-41	3/18	多目的ホール	渡部 優	土地利用配分と素材供給可能量の相互依存関係の定量化
	PD-42	3/18	多目的ホール	高橋 理	針葉樹林の階層構造に着目した生物多様性評価手法の開発
	PD-43 #	3/17	多目的ホール	糸賀 文映	生物多様性保全機能を考慮した森林整備ゾーニング
	PD-44 #	3/17	多目的ホール	勝田 真一	<I> 3次元データを用いたムニンノボタン生育地における光環境評価
	PD-45			角田 悠生	3次元点群で林床光環境推定：広域的把握および上層疎開後の予想を指して
	PD-46	3/18	多目的ホール	今岡 成紹	季節性を考慮した多時点航空レーザ計測データによる森林構造解析
	PD-47	3/18	多目的ホール	若林 日菜	ドローンレーザを用いた地すべりと樹木の傾きとの関係
	PD-48	3/18	多目的ホール	竹重 龍一	春日山原始林におけるLiDARを用いた巨木の健全度広域評価
	PD-49 #	3/17	多目的ホール	南 律子	TLSによる落葉広葉樹の幹および枝のバイオマス推定
	PD-50 #	3/17	多目的ホール	和田 楓香	ドローンレーザ計測データを用いたブナ林の樹冠面積に基づく資源量推定
	PD-51	3/18	多目的ホール	田中 樹己	新潟県内のブナ二次林を対象として作成した林分材積表
	PD-52			矢田 豊	林内車道直上のUAV飛行によるSfM森林空撮
	PD-53			平岡 裕一郎	UAV-LiDAR点群に基づくDCHMと樹木個体配置の自動位置合わせ手法
	PD-54	3/18	多目的ホール	古家 直行	空中写真ネガフィルムのデジタル化手法の作業性比較
造林	PE-1 #	3/17	多目的ホール	鈴木 泰一	針葉樹林の樹種の違いによる養分動態の比較
	PE-2 #	3/17	多目的ホール	宋 永仁	Tolerance and Acclimation Characteristics of <i>Melia azedarach</i> to Heat Stress
	PE-3 #	3/17	多目的ホール	真鍋 光生	スギ人工林に生育するコケの分布と水分保持、炭素・窒素蓄積量の測定
	PE-4 #	3/17	多目的ホール	亀井 優志	中央アルプス亜高山帯常緑針葉樹の老齢林と二次林のバイオマスの空間変動
	PE-5 #	3/17	多目的ホール	篠永 英里	白神山地ブナ天然林におけるリターフォール動態と気象要因の関係
	PE-6 #	3/17	多目的ホール	李文昊	The effects of natural regeneration of <i>Mallotus japonicus</i> on the composition of forest soil carbon pool
	PE-7 #	3/17	多目的ホール	石川 咲伽	長野県根羽村ヒノキ人工林における広葉樹実生の発生状況
	PE-8 #	3/17	多目的ホール	小笠原 圭佑	環境変動に対応した人工林の樹高成長時系列解析
	PE-9 #	3/17	多目的ホール	野村 日向	相対樹冠量を用いた成長予測モデルから考える長伐期施業への誘導の可否
	PE-10 #	3/17	多目的ホール	朱 曉宇	Biomass and Allometric Growth Patterns of Resprouting Stems in Invasive Tree Species, <i>Triadica sebifera</i>
	PE-11 #	3/17	多目的ホール	稲葉 光飛	単位樹冠体積当たりの枝葉量（枝葉量密度）がスギ幼齢木の成長に及ぼす影響
	PE-12 #	3/17	多目的ホール	佐藤 基	大畑ヒバ施業実験林における90年間の択伐施業による林分構造の推移
	PE-13 #	3/17	多目的ホール	仲谷 朗	ハリギリの木材密度と樹皮形態との対応関係：外観に基づく選木指標の開発
	PE-14 #	3/17	多目的ホール	山脇 樹	諏訪市の社寺林における土壌侵食危険度の林分間変動
	PE-15 #	3/17	多目的ホール	相川 ゆきえ	異なる光環境に対するヤブツバキ苗の応答
	PE-16 #	3/17	多目的ホール	長谷川 美和	林分密度が異なる20年生グイマツ雑種F ₁ 人工林の資源制限と針葉の光合成
	PE-17	3/18	多目的ホール	鶴岡 一博	静岡県内における苗木生産の現状
	PE-18	3/18	多目的ホール	小笠 真由美	AM菌接種がスギコンテナ苗の形態および耐乾性に及ぼす影響
	PE-19	3/18	多目的ホール	齋藤 隆実	スギ・ヒノキコンテナ苗の灌水調節に対する生理的応答を評価する手法の比較
	PE-20	3/18	多目的ホール	田口 裕人	インスタント土壌によるスギコンテナ育苗の可能性とその課題
	PE-21	3/18	多目的ホール	白旗 学	施肥量と肥効期間がウルシコンテナ苗の成長に及ぼす影響
	PE-22	3/18	多目的ホール	二本松 裕太	壮齢広葉樹林の強度間伐における問題点
	PE-23	3/18	多目的ホール	新田 響平	森吉山麓高原ブナ林長期モニタリングサイトの森林動態
	PE-24	3/18	多目的ホール	小島 正	スギ林の人工ギャップの光環境と植栽した苗木の成長について
	PE-25	3/18	多目的ホール	原谷 日菜	北海道和種馬を林間放牧した天然混交林における樹木更新動態
	PE-26	3/18	多目的ホール	小谷 二郎	能登半島地震による山地崩壊跡地の植生回復－震災後2年目の状況
	PE-27	3/18	多目的ホール	宇敷 京介	行政検査に伴う調査から天然更新の状態はどの程度確認できるのか？
	PE-28	3/18	多目的ホール	高野 翼	再造林コスト低減に有効な早生樹の検討と天然更新を取り入れた施業の実践
	PE-29	3/18	多目的ホール	野宮 治人	人工林伐採後の未植栽地に成立する二次林の特徴：シカの少ない九州の事例
	PE-30	3/18	多目的ホール	山崎 遙	大船渡林野火災の発生した林分で予想される林床植生の種構成変化
	PE-31	3/18	多目的ホール	鈴木 智之	北海道天然林における47年前の樹下植栽とその後の上層木間伐の効果
	PE-32	3/18	多目的ホール	勝木 俊雄	広葉樹林化を目的としたUAV播種用の種子ベレットの開発
	PE-33	3/18	多目的ホール	小野澤 郁佳	スギ特定苗木の植栽における土壌保水材（SAP）の適用性の検証
	PE-34	3/18	多目的ホール	生駒 直	忌避剤はどこまで適用するか？－ニホンジカ生息密度とスギ被害状況の関係－
	PE-35	3/18	多目的ホール	沼宮内 信之	豪雪地牧場跡地におけるブナ植栽手法評価
	PE-36	3/18	多目的ホール	高橋 秋一	海岸防災林再生地に植栽された広葉樹8種の7～9年間の生長
	PE-37	3/18	多目的ホール	大谷 香織	水道水源林における複層林更新型による森林管理
	PE-38	3/18	多目的ホール	庄司 風	間伐年の異なる林分におけるブナ実生3年間の動態
	PE-39	3/18	多目的ホール	太田 敬之	茨城県城里町の大沢試験地における立地に応じた間伐による26年間の植生変化
	PE-40	3/18	多目的ホール	藤井 栄	航空レーザ計測データを活用した木材販売量の推定
	PE-41	3/18	多目的ホール	中川 湧太	単木防除を実施した植栽木における樹冠サイズの経年変化
	PE-42	3/18	多目的ホール	藤堂 千景	植栽後11年目のコンテナ苗と裸苗では成長や倒伏抵抗性は異なるのか？
	PE-43	3/18	多目的ホール	小野田 雄介	スギの精英樹の樹高成長と肥大成長の系統間差
	PE-44	3/18	多目的ホール	鈴木 誠一	早生桐の成長における窒素要求性の評価
	PE-45	3/18	多目的ホール	蝦名 益仁	立地環境を用いた樹冠高の推定－十勝地域のカラマツ林を対象に
	PE-46	3/18	多目的ホール	久田 善純	高齢スギ人工林の林分構造および成長経過－岐阜県郡上市和良町の事例－
	PE-47	3/18	多目的ホール	渡邊 仁志	高齢級ヒノキ過密林における上層間伐に対する直径成長の応答
	PE-48	3/18	多目的ホール	井筒 憲司	複数の表層高差分を使った局所的な樹高成長推移の特徴把握
	PE-49	3/18	多目的ホール	香山 雅純	ヤナギ4種の成長に対するスラグ肥料の効果

ポスター一覧

#：学生ポスター賞の対象

部門	ポスター番号	現地 掲示日	現地掲示会場	講演者氏名	発表題目
造林	PE-50	3/18	多目的ホール	磯田 圭哉	異なる標高に植栽したコウヨウザンの成長
	PE-51	3/18	多目的ホール	海津 江里	スギコンテナ大苗の植栽コストと通年植栽の可能性
	PE-52	3/18	多目的ホール	伊藤 哲	除伐による被陰解除後のスギの成長回復にはどのくらいの樹冠量が必要か？
	PE-53	3/18	多目的ホール	平田 令子	下刈り省略により生じる植栽木の形質バラツキとその発生時期
	PE-54	3/18	多目的ホール	山岸 極	スギ植栽木の樹冠量を考慮した幹成長モデルによる被圧の累積効果の定量評価
	PE-55	3/18	多目的ホール	長谷川 喬平	省力下刈が実施された11年生造林地の状況
	PE-56	3/18	多目的ホール	山川 博美	除伐後の成長回復が見込めなくなる下刈り省略スケジュール
	PE-57	3/18	多目的ホール	安達 直之	下刈り終了年次がスギ成長に与える影響
	PE-58	3/18	多目的ホール	佐藤 剛	自然資本産業としての林業：青葉組の森づくり実践
	PE-59	3/18	多目的ホール	城田 徹央	長野県根羽村の90年生針広混交二次林の種組成と林分構造
	PE-60			岡山 侑子	富山県産ヤナギ13種における挿し木発根率の種間および季節間比較
	PE-61			五十嵐 哲也	人工林伐採跡地への植栽から約30年を経た広葉樹植栽試験地の現況
	PE-62			大谷 達也	防鹿柵破損リスクの高い地点のCS立体図による判別
	PE-63			長池 卓男	人工林皆伐10年後の天然更新状況－更新完了基準と関連付けて－
	PE-64			八木 貴信	苗高、幹形比、根詰まり度の異なるスギのコンテナ苗の植栽後の活着と成長
遺伝・育種	PF-1 #	3/17	多目的ホール	富澤 麗子	栃木、群馬および福島におけるキリ属植栽地のクローン構造と遺伝的多様性
	PF-2			三上 夏生	核SSRによる琵琶湖西岸および若狭湾周辺のコナラ集団の遺伝的多様性
	PF-3 #	3/17	多目的ホール	白谷 紗英	複数倍数性を持つ種ノリウツギの分布と遺伝的特性
	PF-4 #	3/17	多目的ホール	高橋 大典	外来種が在来種か、国内に見られるフサフジツギの遺伝構造解析による検討
	PF-5 #	3/17	多目的ホール	岩瀬 友秀	アカガシとツクバネガシの遺伝的多様性と集団構造および種間交雑の推定
	PF-6 #	3/17	多目的ホール	秦 義成	関東地方におけるハルニレの遺伝的多様性
	PF-7 #	3/17	多目的ホール	富岡 楓	コハウチワカエデの遺伝的多様性と集団遺伝構造の解明
	PF-8 #	3/17	多目的ホール	山田 健太郎	雄性繁殖量の空間配置と非等方向性の花粉散布が花粉親の多様性に及ぼす影響
	PF-9 #	3/17	多目的ホール	野中 勇輝	ネイチャーポジティブを目指した自然再生植樹の遺伝的多様性・地域性評価
	PF-10 #	3/17	多目的ホール	澤田 佳奈	長野県青平高原周辺におけるニホンジカ被食植物の保全遺伝学的研究
	PF-11 #	3/17	多目的ホール	向井 智朗	日本と台湾に分布する第三紀遺存種ヤマグルマの遺伝的地域性とその形成過程
	PF-12 #	3/17	多目的ホール	中島 菜里	アカガシとツクバネガシの種間雑種の推定
	PF-13 #	3/17	多目的ホール	藤田 志保	イワテヤマナン純粋集団の遺伝的特性の解明
	PF-14 #	3/17	多目的ホール	磯村 美沙	カラマツ産地試験林を用いた量的形質とSNPの遺伝的分化の比較
	PF-15 #	3/17	多目的ホール	中村 峻弥	土壌乾燥ストレスに対する二産地のブナ実生の葉と根の発現変動遺伝子の探索
	PF-16 #	3/17	多目的ホール	蔡 昕傑	Haplotype-resolved chromosome-level genome assembly in <i>Abies sachalinensis</i>
	PF-17 #	3/17	多目的ホール	播本 泰知	環境変動下にある亜高山帯樹木の新規ゲノム構築
	PF-18 #	3/17	多目的ホール	小林 翔	スギMS2座における新しい欠失変異の発見とマーカー選抜
	PF-19 #	3/17	多目的ホール	小畑 悠	イメージングと深層学習を用いたスギの雄性不稔判別
	PF-20 #	3/17	多目的ホール	トブル ベルマイン	Comparative growth trajectories of diploid and triploid Japanese cedar cloned plus tress through 65 years of age.
	PF-21 #	3/17	多目的ホール	Jiménez Becerra Jesús Antonio	Evaluating the Effects of Two Peptides on <i>Cryptomeria japonica</i> During the Proliferation Stage of Somatic Embryogenesis
	PF-22	3/18	多目的ホール	玉城 聡	MIG-seq法を用いた希少樹種トガサワラの遺伝的多様性と遺伝構造の評価
	PF-23	3/18	多目的ホール	長谷川 陽一	蜂蜜に含まれる花粉のDNA分析の全国調査による植物資源の利用実態の解明
	PF-24			鈴木 節子	森林に残された草原性植物の埋土種子：遺伝的多様性と保全の可能性
	PF-25			木村 恵	秋田県内に保存されているシダレザクラの遺伝的特徴
	PF-26	3/18	多目的ホール	稲永 路子	キハダ産地試験地の初期成長および生残と気候条件の関係
	PF-27	3/18	多目的ホール	能勢 美峰	大規模乾燥試験によるスギの耐乾性種内変異の評価
	PF-28	3/18	多目的ホール	三嶋 賢太郎	カラマツ連年着花系統を用いた雌花着花に関わる原因遺伝子の特定
	PF-29	3/18	多目的ホール	尹 康権	Dynamic Gene Expression During Sugi Embryogenesis
	PF-30	3/18	多目的ホール	永野 聡一郎	スギ精英樹の当年生シュートにおける発現QTLの探索
	PF-31	3/18	多目的ホール	渡辺 洋一	常緑・落葉樹交雑集団における葉型および遺伝的変異
	PF-32	3/18	多目的ホール	寺戸 このみ	早い・安い・安全な簡易抽出DNAを用いたスギの雄性不稔判別及びSSR解析
	PF-33			小長谷 賢一	カラマツにおける高効率形質転換系の確立
	PF-34	3/18	多目的ホール	石塚 航	外部刺激と産地標高がトドマツの着花特性に及ぼす影響
	PF-35	3/18	多目的ホール	山下 由美子	和歌山県下から収集・増殖したクマザクラの開花特性
	PF-36			河合 慶恵	スギ地域差検定林における気候環境に対する成長反応と乾燥応答性との関連
	PF-37	3/18	多目的ホール	岩泉 正和	東北・関西産抵抗性アカマツの共通系統による相互抵抗性評価
	PF-38			那須 仁弥	スギ次代検定林における10年次根元曲がりや20年次幹曲がりやに与える影響
	PF-39	3/18	多目的ホール	富田 理恵	クリーンラチ苗木の優れた樹高成長に寄与する樹形と光合成能力
	PF-40			松永 孝治	第二世代マツノサイセンチュウ抵抗性クロマツ品種の後代抵抗性等の形質評価
	PF-41	3/18	多目的ホール	宮本 尚子	スギ採種木の各器官への窒素配分比率:15Nトレーサー法による評価（予報）
	PF-42	3/18	多目的ホール	庄司 優太	閉鎖型採種園におけるジベレリン処理時期の差異がスギ花芽形成に及ぼす影響
	PF-43	3/18	多目的ホール	高橋 誠	ヒノキ・カラマツにおける2024年産種子の発芽特性
	PF-44	3/18	多目的ホール	丹羽 花恵	カラマツ球果の採取時期による種子脱粒数の変化
	PF-45	3/18	多目的ホール	加藤 一隆	エゾマツ交配園から採取した種子について－充実率に及ぼす要因について－
	PF-46	3/18	多目的ホール	中神 悠雅	抵抗性クロマツ採種園における種子生産量と枯損率の品種間比較
	PF-47	3/18	多目的ホール	草野 僚一	九州各地から選抜されたセンダン種子の発芽率と得苗率
	PF-48	3/18	多目的ホール	花岡 剣	ペーパーポットを用いたスギ苗生産の可能性
	PF-49	3/18	多目的ホール	大平 峰子	緩効性肥料の種類と施肥量がスギさし木コンテナ苗の生育に及ぼす影響
	PF-50	3/18	多目的ホール	古本 拓也	pFセンサーを用いた挿し木床への自動灌水によるヒノキの挿し木発根試験
	PF-51	3/18	多目的ホール	飯田 玲奈	群馬県における飽差管理によるカラマツさし木増殖試験
生理	PG-1			伊原 徳子	スギの高温順化関連遺伝子の解析
	PG-2			上村 章	産地の違いがブナ種子の発芽に与える影響：気候適応の可能性を探る
	PG-3			檜本 正明	幹表面における量子収率の季節変化
	PG-4 #	3/17	多目的ホール	前田 唯真	ブナの光合成電子伝達系における高温耐性の産地間差
	PG-5 #	3/17	多目的ホール	石橋 正光	光環境に応答した個葉レベルでの葉構造変化の三次元解析
	PG-6 #	3/17	多目的ホール	瀧野 南夏	連日高温がブナ壮齡木と老齡木の光化学系II最大量子収率に及ぼす影響
	PG-7 #	3/17	多目的ホール	庄司 森	冷温帯樹木における展葉のプロセスから見えてくる低温脆弱性の季節推移
	PG-8 #	3/17	多目的ホール	Faryzan Qistan	Evaluating Hydraulic Integration in <i>Fagus crenata</i> by Sap Flow Measurement with Defoliation and Shading Treatments.
	PG-9 #	3/17	多目的ホール	小切 壮仁	クスノキのエンボリズム発生に関する樹冠と幹部の差異
	PG-10 #	3/17	多目的ホール	クルニアワン ウィスヌ ムクラス ドゥイ	Screening Diverse <i>Cryptomeria japonica</i> Genotypes for Drought Tolerance Based on Photosynthetic and Its Related Traits
	PG-11 #	3/17	多目的ホール	西脇 那月	ヒノキの乾燥ストレス誘導花成における網羅的な遺伝子発現解析
	PG-12 #	3/17	多目的ホール	渡辺 ふら乃	過熟木で老化するゲノムの調節機能の探索-ブナ葉の光合成とmRNA解析-
	PG-13 #	3/17	多目的ホール	喜多 晃充	呼吸商とマスバランス法を用いた幹表面CO ₂ Fluxの日中低下要因の探索

ポスター一覧

#：学生ポスター賞の対象

部門	ポスター 番号	現地 掲示日	現地掲示会場	講演者氏名	発表題目
生理	PG-14 #	3/17	多目的ホール	川勝 菜乃子	根圏低酸素環境が窒素欠乏下での熱帯樹木の窒素吸収・転流に及ぼす影響
	PG-15 #	3/17	多目的ホール	森田 瑞穂	<i>Magnolia</i> 種における師部輸送速度の季節差
	PG-16	3/18	多目的ホール	判定 真利子	湛水に対する <i>Shorea laevis</i> 実生の光合成の初期応答
	PG-17	3/18	多目的ホール	宮沢 良行	モデル再現における光合成データの賞味期限
	PG-18	3/18	多目的ホール	田中 亮一	北大植物園における9種類の常緑植物の冬季光化学系応答の比較
	PG-19	3/18	多目的ホール	榎浦 正子	スギ3系統における13Cパルスラベリングを用いた肥大成長解析
	PG-20	3/18	多目的ホール	藤本 悠太郎	冷温帯落葉広葉樹林における稚樹の葉と幹の機能形質間関係
	PG-21	3/18	多目的ホール	比江島 尚真	暖温帯に生育する樹木の休眠解除と耐凍性およびそれらに関連する生理的特徴
	PG-22	3/18	多目的ホール	福田 陽子	トドマツ種子の休眠解除プロセスにおける内生ホルモン及び遺伝子発現動態
	PG-23	3/18	多目的ホール	斎藤 秀之	ブナ健全木と衰退木における葉のトランスクリプトーム比較解析
立地	PG-24	3/18	多目的ホール	田原 恒	タンニン生成を抑制した <i>Eucalyptus camaldulensis</i> のアルミニウム耐性
	PI-1 #	3/17	多目的ホール	佐藤 大地	土壌酸性度の異なるスギ林土壌のCa形態の比較
	PI-2 #	3/17	多目的ホール	堀出 晏弓	S K-edge XANESによる森林土壌に蓄積されたイオウ化合物の形態解析
	PI-3 #	3/17	多目的ホール	松井 陽平	蛍光分析による土壌有機物分解性の解析 ～樹種転換が及ぼす影響～
	PI-4 #	3/17	多目的ホール	武居 和秀	環境条件が植物土壌相互作用に与える影響 徳島スギ林土壌のカルシウム貯蔵
	PI-5 #	3/17	多目的ホール	加藤 雅悠	シラカンバ林とミズナラ林における窒素沈着量の樹種間差の要因解析
	PI-6 #	3/17	多目的ホール	尾内 千紘	人工林の管理状態が土壌炭素蓄積に及ぼす影響
	PI-7 #	3/17	多目的ホール	山内 真花	踏圧をうけた森林土壌における物理性の季節変化
	PI-8 #	3/17	多目的ホール	芝 里万杜	石灰岩上の富栄養な森林生態系におけるリターを介した栄養塩フラックス
	PI-9 #	3/17	多目的ホール	高 亦凡	ササが外生菌根樹木のリター分解抑制効果に及ぼす影響
	PI-10 #	3/17	多目的ホール	郡司 萌々花	山口県と沖縄県の森林における雨水・渓流水質の長期比較
	PI-11 #	3/17	多目的ホール	寺井 水萌	根圏CO ₂ フラックスの日周変化：樹木の生活型および樹体サイズが与える影響
	PI-12 #	3/17	多目的ホール	木村 瞳	噴火年代が異なる火山島の土壌特性の比較
	PI-13	3/18	多目的ホール	志知 幸治	立山地域におけるオオシラビソ林およびスギ林の成立過程
	PI-14	3/18	多目的ホール	石塚 成宏	可視・近赤外分光分析によってandic soil propertyの検出は可能か？
	PI-15	3/18	多目的ホール	梅村 光俊	ササ地土壌中植物ケイ酸体の土壌粒径分布への寄与とその評価手法の提案
	PI-16	3/18	多目的ホール	Han Si Ho	Can bamboo forests act as carbon sinks? – A comparison between Madake and Moso bamboo species.
	PI-17	3/18	多目的ホール	杉本 凜太郎	森林構造の複雑さが土壌の微生物群集構造や有機物分解速度に与える影響
	PI-18	3/18	多目的ホール	持留 匠	樹幹内部における微生物メタン生成は、基質や酸素の濃度で説明できるか？
	PI-19	3/18	多目的ホール	阿部 真	目視観測に基づくスギの雄花量と林分環境（?25）
	PI-20	3/18	多目的ホール	阿部 有希子	針葉樹人工林における地形を考慮した下層土壌の炭素放出ポテンシャルの評価
	PI-21	3/18	多目的ホール	福島 慶太郎	スギ人工林の20年間の成長にともなう渓流水質の変化
	PI-22	3/18	多目的ホール	河上 智也	自然土壌と農地土壌における団粒内孔隙の3次元評価：放射光X線μCT解析
	PI-23	3/18	多目的ホール	高木 正博	暖温帯常緑広葉樹が優占する南九州丘陵山地におけるCO ₂ フラックス観測
	PI-24			大園 享司	Changes in the microfungal diversity on needle litter during secondary forest succession
	PI-25			小野 裕	無機質土壌へのヒノキ細根粉砕物添加による耐水性構造の形成過程
防災・水文	PJ-1 #	3/17	多目的ホール	北野 陽大	森林構造を考慮した土砂・流木生産ポテンシャルと海岸侵食の評価
	PJ-2 #	3/17	多目的ホール	山下 暖輝	オフロードバイクの走行が森林土壌に与える影響+E47
	PJ-3 #	3/17	多目的ホール	金 愈景	九州冷温帯林におけるササ消失が土壌侵食に及ぼす影響
	PJ-4 #	3/17	多目的ホール	首藤 優奈	3-Dモデルを用いた林床の微地形の変化とその要因の分析
	PJ-5 #	3/17	多目的ホール	赤羽 澄香	斜面崩壊発生に対する森林状態と降雨浸透過程の影響評価
	PJ-6 #	3/17	多目的ホール	片岡 洋哉	積雪がリターの形態を介して山火事の燃焼挙動へ与える影響
	PJ-7 #	3/17	多目的ホール	上田 智史	大規模森林火災の拡大要因としての樹種構成と気象条件
	PJ-8 #	3/17	多目的ホール	岩崎 有莉沙	ドローンレーザーを用いた森林燃焼強度の予測
	PJ-9 #	3/17	多目的ホール	曾神 紗良	築山を用いた降雨下の微地形変化に関する野外実験
	PJ-10 #	3/17	多目的ホール	長井 孝祐	里山におけるモウソウチク拡大が土壌呼吸に及ぼす潜在的影響
	PJ-11 #	3/17	多目的ホール	岡 直輝	暖温帯ヒノキ小流域における土壌呼吸を規定する微地形および環境因子の評価
	PJ-12 #	3/17	多目的ホール	坂井 勇紀	モウソウチクの地下茎の探査における地中レーダの活用
	PJ-13 #	3/17	多目的ホール	中 深結	降雨から樹木の吸水までのタイムラグとその季節変動の評価
	PJ-14 #	3/17	多目的ホール	西森 誠晃	斜面に生育するヒノキを対象とした、根系分布と土壌透水性との関係
	PJ-15 #	3/17	多目的ホール	佐々木 綾香	生育基盤中の石礫がタブノキ根系の引き抜き抵抗性に与える影響
	PJ-16 #	3/17	多目的ホール	高山 遼太郎	カラマツ（ <i>Larix kaempferi</i> ）人工林における樹冠遮断の時系列的動態
	PJ-17 #	3/17	多目的ホール	山口 想	LiDARを用いた点群データによるコナラの樹形把握
	PJ-18 #	3/17	多目的ホール	安川 律基	タワー観測によるスギ林の樹冠直下と林床における樹冠通過雨量の変化
	PJ-19 #	3/17	多目的ホール	李 周強	大気窒素沈着の低下に伴う森林～都市流域の河川窒素の応答
	PJ-20 #	3/17	多目的ホール	高橋 秀明	冷温帯林における植生と地下水位および河川水質との関係について
	PJ-21 #	3/17	多目的ホール	竹内 沙織	森林河川におけるモウソウチクリターの破砕速度とDOC溶出の隔年変動
	PJ-22 #	3/17	多目的ホール	近野 颯哉	長期観測による隣接小流域における硫酸イオン動態の流域間比較
	PJ-23 #	3/17	多目的ホール	中村 拓海	林種の違いが流域河川水中の溶存有機物および溶存元素濃度に及ぼす影響
	PJ-24 #	3/17	多目的ホール	王 銓鑫	ステップ・プール河川における洪水時の水理特性把握
	PJ-25 #	3/17	多目的ホール	岩尾 健司	山地小流域における土壌透水性分布のモデル化に向けた一考察
	PJ-26 #	3/17	多目的ホール	永井 壮史	電気伝導度の連続観測による3つの隣接流域の降雨流出応答の比較
	PJ-27 #	3/17	多目的ホール	日高 太一	奥多摩演習林狩倉沢流域における地表面地形と基岩地形の比較
	PJ-28 #	3/17	多目的ホール	柳井 鴻太郎	森林斜面における透水性分布に着目した地下飽和動態の調査
	PJ-29 #	3/17	多目的ホール	Mohd Ghaus Ibtisam	間伐および皆伐が針葉樹人工林流域の年間・季節別水収支に与える影響
	PJ-30 #	3/17	多目的ホール	吉田 朋峰	降雨条件の異なる山地斜面土層で生じる排水能力の差の検証
	PJ-31 #	3/17	多目的ホール	山岡 祐登	サーマルイメージングによる湧水の検出と河川流量への寄与推定
	PJ-32 #	3/17	多目的ホール	鯉江 知樹	山地源流域における複数トレーサによる降雨-流出過程の時空間不均一性評価
	PJ-33	3/18	多目的ホール	小山 敬	2024年7月山形県豪雨災害で発生した規模の大きな土砂災害の発生要因の推察
	PJ-34	3/18	多目的ホール	西井 稜子	2022年8月下越豪雨の土砂堆積域におけるスギ林の立ち枯れ被害
	PJ-35	3/18	多目的ホール	中村 涼	時系列小型衛星による斜面災害後の異なる地質間での斜面安定度の比較
	PJ-36	3/18	多目的ホール	吉野 孝彦	大船渡市森林火災後のスギ林における斜面の浸透特性の変化
	PJ-37	3/18	多目的ホール	酒井 佑一	作業道を用いた皆伐施業が流域からの土砂流出に与える影響
	PJ-38	3/18	多目的ホール	深山 貴文	落葉広葉樹二次林におけるBVOC濃度の日変動特性
	PJ-39	3/18	多目的ホール	山下 尚之	デジタルフォースゲージと土層強度検査棒を用いた土層厚の広域評価
	PJ-40	3/18	多目的ホール	橋本 朝陽	トレイルカメラSfMによる面状土壌侵食の高時間・空間分解能観測
	PJ-41	3/18	多目的ホール	岡本 隆	2025年大船渡市林野火災跡地における森林土壌の浸透特性の評価
	PJ-42	3/18	多目的ホール	峰尾 恵人	林学・森林学は森林火災の何をどう問うてきたか：文献レビューからの考察
	PJ-43	3/18	多目的ホール	今村 直広	アンデス・アマゾン地域における森林火災からの土壌物理性の回復プロセス

ポスター一覧

#：学生ポスター賞の対象

部門	ポスター番号	現地 掲示日	現地掲示会場	講演者氏名	発表題目
防災・水文	PJ-44	3/18	多目的ホール	高橋 純子	大船渡市八ヶ森における林野火災後の土壌中重金属類の化学形態
	PJ-45	3/18	多目的ホール	澤野 真治	アンデスアマゾンの未観測地域への森林域水資源評価モデルの適用
	PJ-46	3/18	多目的ホール	宮下 彩奈	根系模型を利用した根の力学的ストレス計測の試み
	PJ-47	3/18	多目的ホール	大平 充	崩壊斜面における土壌侵食強度と植生回復
	PJ-48			宮沢 ゆか	森林火災におけるベツト避難支援を通じた地域防災連携－岩手県大船渡市の例
	PJ-49			岡田 康彦	スギ立木の流木捕捉効果を検討する模型実験
	PJ-50			延廣 竜彦	大船渡市の林野火災が土砂移動に及ぼす影響
	PJ-51			鈴木 拓郎	侵食区間長と流量の関係が土石流の侵食過程に及ぼす影響に関する数値解析
	PJ-52			経隆 悠	気候変動シナリオ間での豪雨頻度の比較
	PJ-53			平岡 真合乃	芦生研究林における細粒土砂にともなう有機物の流出
	PJ-54	3/18	多目的ホール	飯田 真一	ENSOによる雨量変動に着目したカンボジア乾燥落葉林の蒸散量の長期的傾向
	PJ-55	3/18	多目的ホール	今田 省吾	トリウムを利用した森林樹木の吸水深度に関する推定手法の検討
	PJ-56	3/18	多目的ホール	邸 清雄	長期流出データに基づく森林流域蒸発散量解析：マツ・ナラ枯れ後の応答
	PJ-57	3/18	多目的ホール	PARK JI HYEOK	DBH Estimation from Mobile LiDAR in Natural Temperate Mixed Forests
	PJ-58	3/18	多目的ホール	小坂 泉	冷温帯落葉広葉樹林における熱・水・二酸化炭素交換量の年々変動
	PJ-59	3/18	多目的ホール	江草 智弘	林齢がヒノキ人工林の蒸発散に及ぼす影響
	PJ-60	3/18	多目的ホール	清水 貴範	熱帯乾燥常緑林の森林劣化がCO ₂ /H ₂ O収支に及ぼす影響について
	PJ-61	3/18	多目的ホール	佐藤 貴紀	カラマツ人工林における樹幹近傍雨が樹冠遮断量の算出に与える影響
	PJ-62	3/18	多目的ホール	田中 延亮	ヒノキ人工林の間伐と枝打ちが樹冠遮断量に及ぼす影響
	PJ-63			久保田 多余子	常陸太田試験地におけるスギ・ヒノキの樹液と枝の水の安定同位体比の違い
	PJ-64	3/18	多目的ホール	小川 泰浩	急傾斜崩壊地に設置したスケルトン型治山緑化資材の追跡調査
	PJ-65	3/18	多目的ホール	小田 智基	常陸太田試験地における皆伐後の栄養塩流出変動に基岩地下水が与える影響
	PJ-66	3/18	多目的ホール	井手 淳一郎	寒冷地森林域における開放湖の流入・流出河川の水質の関係について
	PJ-67	3/18	多目的ホール	浦川 梨恵子	森林小流域における酸緩衝の場の解明－岩石の弱酸可溶性Sr同位体比－
	PJ-68	3/18	多目的ホール	瀧澤 英紀	温暖積雪域の山地森林における湧水水質
	PJ-69	3/18	多目的ホール	阿部 俊夫	釜淵森林理水試験地の長期観測データに対する気候変動のトレンド解析
	PJ-70	3/18	多目的ホール	細田 育広	竜ノ口山南谷における降雨出水時深流水の細菌叢モジュールの消長
	PJ-71	3/18	多目的ホール	野口 正二	秋田県長坂試験地における間伐が流出特性に及ぼす影響
	PJ-72	3/18	多目的ホール	山川 陽祐	大起伏の付加体における層理構造による流域水文プロセスの直接・間接的制御
	PJ-73	3/18	多目的ホール	岩上 翔	森林伐採による地下水位の変化：常陸太田試験地の皆伐の事例
	PJ-74			土井 裕介	小溪流における倒木移動の規定要因の評価
利用	PK-1 #	3/17	多目的ホール	坪田 和也	3DGSを活用した森林デジタルツイン構築への展望
	PK-2 #	3/17	多目的ホール	井山 翔平	点群を用いた里山林における樹木個体特徴量の推定
	PK-3	3/18	多目的ホール	大西 信徳	ドローンと深層学習を用いた単木解析技術の開発
	PK-4	3/18	多目的ホール	池端 建吾	深層学習を用いたUAVオルソ画像からの樹冠分離手法の開発と評価
	PK-5	3/18	多目的ホール	牧野 耕輔	初級技術者養成における伐木作業の技能評価
	PK-6	3/18	多目的ホール	有水 賢吾	自動化林業機械の安全確保に向けた大規模言語モデルの適用可能性の検討
	PK-7	3/18	多目的ホール	松村 哲也	青森県猿倉山麓林内における新緑期の残雪が堂光色彩の輝度に与える影響
	PK-8			佐々木 達也	集材線設計支援ソフト「KPLAN」の更新と改良
	PK-9 #	3/17	多目的ホール	坂元 通音	大型タワーマーダを用いた間伐から皆伐再造林までの一連作業の生産費推定
	PK-10 #	3/17	多目的ホール	大場 遥南	作業実態に基づくホイール式車両の導入可能範囲の検討
	PK-11	3/18	多目的ホール	武田 元気	伐倒作業におけるシン・ラプトIIの適応性－樹種・樹形に応じた操作性評価
	PK-12			伊藤 崇之	グラップルローダによる丸太積載後の位置修正制御手法の開発
	PK-13 #	3/17	多目的ホール	鳩村 蒼大	ハーベスタ造材記録による林分相対幹曲線式の作成
	PK-14			高木 幹太	モンゴルにおける日本の林業機械導入による枯死木利用可能量推計
	PK-15			吉田 智佳史	ヤナギ超短伐期施業に向けた効率的な穂木加工方法の検討
	PK-16			藤田 智都	木材利用による林業部門への経済波及効果－秋田県を事例として
	PK-17	3/18	多目的ホール	原田 喜一	京都府産原木における採材位置別の動的ヤング率の変動
	PK-18	3/18	多目的ホール	白澤 祐明	LiDARデータを用いたGISシミュレーションによる車両の通行可能性判定
	PK-19	3/18	多目的ホール	宗岡 寛子	ベトナム北西部山岳地域に見られる道路沿い斜面崩壊の特徴
	PK-20	3/18	多目的ホール	山口 智	作業道に設置した簡易横断排水施設における設置角度別の土砂動態
	PK-21			和多田 友宏	森林作業道作設地における地盤の風化度と地形との関係
動物・昆虫	PL-1 #	3/17	多目的ホール	吉田 理紗	クマイザサ群落衰退地点におけるニホンジカの冬季生息地選択（続報）
	PL-2 #	3/17	多目的ホール	山口 大成	低密度生息域における食塩水を用いたメスシカの誘引法の検証
	PL-3 #	3/17	多目的ホール	熊瀬 卓己	遺伝情報にもとづくニホンジカの広域管理の課題と展望：長野県の事例から
	PL-4 #	3/17	多目的ホール	田中 隆史	奈良県大台ヶ原におけるニホンジカによる剥皮が森林動態に及ぼす影響
	PL-5 #	3/17	多目的ホール	今井 香奈実	宇都宮大学船生演習林新植地における獣害の発生状況
	PL-6 #	3/17	多目的ホール	安田 和真	植生保護柵内にタネまく動物群集：生態系機能の向上に寄与する要因の解明
	PL-7 #	3/17	多目的ホール	河原 廣希	放置竹林内での自動撮影カメラを用いた中大型哺乳類動物活動パターンの解明
	PL-8 #	3/17	多目的ホール	志田 航太	人間活動への馴化度の違いが音声刺激に対するシカの行動的応答に及ぼす影響
	PL-9 #	3/17	多目的ホール	佐香 優哉	森林内の動物行動モニタリングを旨とした音響分析による樹木振動状態の推定
	PL-10 #	3/17	多目的ホール	平渡 和己	栃木県北部におけるカシノナガキクイムシの発生消長と部分二化
	PL-11 #	3/17	多目的ホール	樋口 愛莉	宇都宮大学船生演習林樹木園におけるナラ枯れ防除の効果
	PL-12 #	3/17	多目的ホール	熊木 順生	土壌動物群集は森林下層におけるアセビの優占にどのように応答するか
	PL-13	3/18	多目的ホール	法眼 利幸	メタルラスを用いた植栽苗の獣類による食害防護資材の開発
	PL-14	3/18	多目的ホール	山田 勝也	獣害防止ネット柵に対するニホンカモシカの侵入行動
	PL-15	3/18	多目的ホール	飯島 勇人	ニホンジカから植栽稚樹を防護する資材の效果に影響する要因
	PL-16	3/18	多目的ホール	本間 千夏	ニホンジカの採食圧が亜高山帯針葉樹林の更新動態に及ぼす長期的な影響
	PL-17	3/18	多目的ホール	中森 さつき	シカの累積的な採食圧は植生をどのように衰退させるのか
	PL-18	3/18	多目的ホール	RONG YI	ヒノキ林におけるシカ剥皮被害後の樹幹腐朽－非破壊検査手法による診断－
	PL-19	3/18	多目的ホール	林 耕太	八ヶ岳及び奥秩父の亜高山帯針葉樹林でのニホンジカによる剥皮と立木の生残
	PL-20	3/18	多目的ホール	藤本 浩平	入野松原の小松原区域の変遷およびマツ材線虫病被害と対策
	PL-21	3/18	多目的ホール	樋口 彩乃	マツノザイセンチュウ近交系の世代と増殖・病原性の変化の関係
	PL-22	3/18	多目的ホール	小林 卓也	Phylogeography of the ambrosia beetle <i>Platypus koryoensis</i> in South Korea and Japan
	PL-23	3/18	多目的ホール	上森 教慈	新鮮なスギ丸太への害虫加害の季節消長と剥皮の効果－茨城県の事例－
	PL-24	3/18	多目的ホール	衣浦 晴生	振動によるソメイヨシノ樹上のクビアカツヤカミキリの行動制御効果
	PL-25	3/18	多目的ホール	滝 久智	クビアカツヤカミキリの脱出予定孔を特定し接着剤で封鎖して羽化阻止可能か
	PL-26	3/18	多目的ホール	室 紀行	ミニチュア採種園におけるケブカカシカメの吸汁によるスギ雄花枯死
	PL-27	3/18	多目的ホール	王 子	マツヘリカメシの日本への侵入と拡散過程解明に向けた分子遺伝学的解析

ポスター一覧

#：学生ポスター賞の対象

部門	ポスター番号	現地掲示日	現地掲示会場	講演者氏名	発表題目
動物・昆虫	PL-28	3/18	多目的ホール	中島 美咲	佐賀県でのサカキブチヒメヨコバイの発生消長調査と防除効果の評価
	PL-29	3/18	多目的ホール	綾部 慈子	ハバチにおける細胞内共生細菌ボルバキアの感染：感染は大発生に寄与する？
	PL-30	3/18	多目的ホール	前原 忠	5年間にわたるカラマツ林地表徘徊性甲虫類の標識再捕法調査結果について
	PL-31	3/18	多目的ホール	上田 明良	奄美大島龍郷町で腐肉ベイトのビットフォールトラップに捕獲された生物相
	PL-32	3/18	多目的ホール	浅野 涼太	人工樹洞を利用した無脊椎動物相の環境条件に応じた多様性評価
	PL-33	3/18	多目的ホール	芳賀 弘和	河畔域から溪流への土壌動物供給と魚類による摂食の関係
	PL-34			小松 仁	福島県における傷病鳥獣の放射性セシウム長期モニタリング
	PL-35			秋田 寛己	長野県望月高原牧場周辺でのシカ往来が土壌侵食や浸透能変化に及ぼす影響
	PL-36			伊藤 陽平	富山県のスギ幼齢林における二ホンジカによる剥皮被害
	PL-37			佐藤 重徳	高知県足摺半島に於けるブナ科樹木萎凋病による被害の経時変化
微生物	PL-38			伊東 康人	イソプレンを放出する非寄主樹種へのカシノナガキクイムシの飛来
	PL-39			山崎 理正	飛翔時のカシノナガキクイムシの樹木揮発性物質に対する反応の試験方法
	PM-1 #	3/17	多目的ホール	清水 裕文	スギ人工林における絶滅危惧のトガサワラ孤立木の外生菌根の空間分布
	PM-2 #	3/17	多目的ホール	村上 陸	海岸クロマツ林から分離された <i>Cenococcum geophilum</i> 菌株間での耐塩性比較
	PM-3 #	3/17	多目的ホール	余文標	Ectomycorrhizal formation of <i>Russula</i> species with <i>Quercus myrsinifolia</i> and <i>Castanopsis sieboldii</i>
	PM-4 #	3/17	多目的ホール	廣江 裕輝	無脊椎動物による外生菌根性子実体の胞子散布
	PM-5 #	3/17	多目的ホール	岡部 信	ウラムラサキにおける遺伝子操作技術の開発
	PM-6 #	3/17	多目的ホール	片山 悠史	黒蔵谷のスギの樹齢がアーバスキュラー菌根菌の定着や群集構造に及ぼす影響
	PM-7 #	3/17	多目的ホール	大西 由花	ヒナノシャクジョウと近傍のスギに関わるアーバスキュラー菌根菌群集
	PM-8 #	3/17	多目的ホール	柴 航太郎	積雪は菌従属栄養性を高めるきっかけになるか？イチヤクソウ種複合体の事例
	PM-9 #	3/17	多目的ホール	窪田 智暁	健全葉と不健全葉から単離した菌株の対峙培養による菌糸変化
	PM-10 #	3/17	多目的ホール	久保田 結理	北米西岸のシトカトウヒ側木において環境要因が菌類の分解機能に与える影響
	PM-11 #	3/17	多目的ホール	黄文倩	マツノザイセンチュウ接種クロマツ苗の組織学的変化と二次代謝産物の分布
	PM-12	3/18	多目的ホール	小河 澄香	栄養条件の違いがコナラ林の菌根菌生育に及ぼす影響
	PM-13	3/18	多目的ホール	一瀬 優輝	トリュフ感染苗植栽地におけるトリュフ菌感染率及び交配型の分布について
	PM-14	3/18	多目的ホール	小長谷 啓介	カラマツ防風林内の絶滅危惧種ヤチカンバと共生する外生菌根菌の多様性
	PM-15	3/18	多目的ホール	石川 陽	火山遷移における共生微生物の感染源分布とオオバヤシャブシの定着
	PM-16	3/18	多目的ホール	阿部 寛史	日本産ハナイグチのマイコロサテライトマーカー開発
	PM-17	3/18	多目的ホール	SCHAEFER Holger	土壌中菌糸の研究におけるオーブンソース・ハードウェア活用の可能性
	PM-18	3/18	多目的ホール	片桐 奈々	岐阜県のスギ・ヒノキから分離された木材腐朽菌とその生態的特性
	PM-19	3/18	多目的ホール	鳥居 正人	石川県におけるスギ辺材腐朽被害の一事例－傷に由来する腐朽とその要因－
	PM-20	3/18	多目的ホール	原口 竜成	分子生物学的手法を用いたサワラの溝腐被害の原因菌の推定
	PM-21	3/18	多目的ホール	皆川 拓	複数樹種の木杭を用いたつちくらげ病の病原菌捕捉について
	PM-22	3/18	多目的ホール	服部 力	センダンの幹心材腐朽に関わる木材腐朽菌
	PM-23			秋庭 満輝	LAMP法による南根腐病の病原菌 <i>Pyrrophyoderma noxium</i> の迅速検出技術の開発
特用林産	PN-1 #	3/17	多目的ホール	村川 歩美	漆液中の微生物の探索
	PN-2 #	3/17	多目的ホール	佐々木 裕大	季節に応じた最適な塗掻き間隔の検討
	PN-3 #	3/17	多目的ホール	二社谷 悠太	13Cバルスラベリングを用いて塗掻き後の漆液生成を解析する
	PN-4	3/18	多目的ホール	中軽米 聖花	岩手県における原木シイタケ産業の現状と課題に関する考察
	PN-5	3/18	多目的ホール	清水 達哉	施設空調型ナメコ栽培におけるスギおが粉の利用
	PN-6	3/18	多目的ホール	山口 宗義	土壌DNAを指標にした日本産白トリュフ <i>Tuber japonicum</i> 定量方法の確立
	PN-7	3/18	多目的ホール	古澤 優佳	チンザサタケノコの保存条件の違いによる経時変化
	PN-8			村田 政徳	小笠原諸島の駆除外来樹を用いたアラゲキクラゲの菌床栽培の検討
植物生態	PW-1 #	3/17	多目的ホール	佐怒賀 陸	亜高山に同所的に生育するツツジ科3種の繁殖特性の比較
	PW-2 #	3/17	多目的ホール	渡邊 和人	標高勾配に沿った環境変化に対する2樹種の葉形質変異
	PW-3 #	3/17	多目的ホール	竹部 咲楽	ウミスズカラの落枝に関する予測性の検証
	PW-4 #	3/17	多目的ホール	Kankong Piyapon	Multi-year monitoring of individual-tree spring phenology using PlanetScope, compared with UAV and ground observations
	PW-5 #	3/17	多目的ホール	中村 亮介	ブナの leaf area density の時系列変化とその個体間変動の推定
	PW-6 #	3/17	多目的ホール	倉田 遼大	炭素同位体比を用いたシラカンバの水ストレスに対する肥大成長の応答の解明
	PW-7 #	3/17	多目的ホール	中田 貴太	コブシ個体内の節部の分布
	PW-8 #	3/17	多目的ホール	鷲島 悠人	モウソウチクの伐採密度および光環境がその矮性桿形成に与える影響
	PW-9 #	3/17	多目的ホール	横山 大輝	雪圧による幹上の曲げ応力分布と最大曲げ応力の種間差
	PW-10 #	3/17	多目的ホール	高島 滉己	越後山脈におけるブナの高木限界の形成要因
	PW-11 #	3/17	多目的ホール	堀 文哉	晩霜発生時期に対する開芽時期の局所適応はブナの結実豊凶に影響を与えるか
	PW-12 #	3/17	多目的ホール	山本 晴登	ツクバネガシの種子生産の年変動に種子食昆虫がいかに関わるか？
	PW-13 #	3/17	多目的ホール	鈴木 陽生	秋田のスギ天然林において林床環境がスギの実生更新と稚樹分布に及ぼす影響
	PW-14 #	3/17	多目的ホール	増田 虎汰郎	ブナ林構成樹種の萌芽能力に光環境と伐採季節が及ぼす影響：常緑・落葉比較
	PW-15 #	3/17	多目的ホール	山本 朝己	温帯山岳地の樹木における系統関係を考慮した地形ニッチと葉形質の関係
	PW-16 #	3/17	多目的ホール	古川 喬登	隠岐諸島における森林植生の垂直分布の特性
	PW-17 #	3/17	多目的ホール	長尾 知輝	松江市における社叢林の樹木組成と成立要因
	PW-18 #	3/17	多目的ホール	岩生 愛佳	山形県南陽市秋葉山における森林火災後の植生回復
	PW-19 #	3/17	多目的ホール	岡田 柚佳	佐渡島スギ天然生林の長期動態 ― 年輪解析による更新・伐採時期の推定 ―
	PW-20 #	3/17	多目的ホール	難波 岳利	佐渡島の天然スギの肥大成長に及ぼす局所的な立地条件の影響
	PW-21 #	3/17	多目的ホール	筒井 咲月	冷温帯針広混交林における森林動態への気候変動の影響
	PW-22 #	3/17	多目的ホール	高橋 好花	機能的形質からみる冷温帯針広混交林における多樹種共存メカニズム
	PW-23 #	3/17	多目的ホール	越地 森羅	九州山地のモミ・ツガ・広葉樹混交林における33年間の動態
	PW-24 #	3/17	多目的ホール	羽石 笑佳	放棄里山林におけるナラ枯れ後20年の動態
	PW-25 #	3/17	多目的ホール	内藤 英理香	シカ柵設置後10年間の樹木実生群集の推移：植物－土壌相互作用に着目して
	PW-26 #	3/17	多目的ホール	佐藤 宏紀	構造方程式モデリングによるシカ食害後の下層植生回復の因果関係の解明
	PW-27 #	3/17	多目的ホール	村中 志織	島根半島および中国山地との比較による隠岐諸島の種子植物相の特徴
	PW-28 #	3/17	多目的ホール	水野 優輝	GCOM-C衛星データによるブナ林分布の推定
	PW-29 #	3/17	多目的ホール	任 睿	Long-Term Monitoring Reveals Structural Shifts and Conservation Challenges in Urban Shrine Forests
	PW-30 #	3/17	多目的ホール	後川 耕太郎	樹種多様性は森林の経済的価値を高めるか ― 天然林択伐施業地での事例 ―
	PW-31	3/18	多目的ホール	森脇 育吹	異なる気候下に生育するアカエゾマツの成長応答の比較
	PW-32	3/18	多目的ホール	田邊 智子	ヒノキの炭素分配フェノロジー：枝幹根における木部生産の時期と速度
	PW-33	3/18	多目的ホール	亀井 啓明	スギ203系統の若齢段階における樹冠形質と成長速度の関係
	PW-34	3/18	多目的ホール	逢沢 峰昭	積雪深とシカ生息密度の異なる地域におけるサンショウの分布とトゲの有無
	PW-35	3/18	多目的ホール	韓 慶民	Variation in seed and leaf production in a <i>Fagus crenata</i> forest in the Naeba Mountains
	PW-36	3/18	多目的ホール	南方 悠生	鳥取県におけるナラ枯れ被害林分の更新状況

ポスター一覧

#：学生ポスター賞の対象

部門	ポスター 番号	現地 掲示日	現地掲示会場	講演者氏名	発表題目
植物 生態	PW-37	3/18	多目的ホール	川西 あゆみ	日本全国の森林における根株形状および分解度分布と気候・地形条件との関連
	PW-38	3/18	多目的ホール	井上 泰子	鬼怒川源流地域での森林生態学的研究の成果と今後の展望
	PW-39	3/18	多目的ホール	米田 令仁	愛媛県のモミツガ二次林の40年の林分構造の変化
	PW-40	3/18	多目的ホール	澤田 晴雄	生態水文学研究所白坂試験流域における植生履歴の解明（予備調査）
	PW-41	3/18	多目的ホール	大久保 達弘	栃木県高原山のイヌブナ・ブナ老齢林の30年間の更新動態と萌芽更新
	PW-42	3/18	多目的ホール	龍谷 泰行	東近江市のハチク林における一斉開花後数年間の植生変化
	PW-43	3/18	多目的ホール	金谷 整一	紫尾山におけるブナの分布状況と保護林拡大の提案
	PW-44	3/18	多目的ホール	安部 哲人	石門湿性高木林のアカギ駆除は外来種の更新を促進するか？
	PW-45	3/18	多目的ホール	笹川 大河	Phenological Eyes Network (PEN): 植生フェノロジー長期観測ネットワーク
	PW-46	3/18	多目的ホール	WIJENAYAKE Pavithra	Global priority areas for converting agricultural lands to forests as nature-based solutions
	PW-47			仲畑 了	ブナ林における葉・木部・細根の生産フェノロジーの解析
	PW-48			西園 元登	西駒ステーションのササ小規模枯死ギャップにおける樹木実生の更新
	PW-49			飯尾 淳弘	ブナの結実による樹冠構造の変化：10年間のモニタリングで分かったこと
生物 多様性 保全	PT1-1 #	3/17	多目的ホール	赤池 友樹	下層広葉樹の結実と鳥類相から評価した小面積皆伐異齢人工林の林縁効果
	PT1-2 #	3/17	多目的ホール	新井 乃理花	LIDAR・カメラによる3D森林構造解析と昆虫群集の関係
	PT1-3 #	3/17	多目的ホール	前長 邑佑	原生林性甲虫を指標とした広葉樹林施業の評価 時空間スケールでの分析
	PT1-4 #	3/17	多目的ホール	松山 愛弥	保護伐前の人工林内の侵入広葉樹における樹木のマイクロハビタット
	PT1-5 #	3/17	多目的ホール	外岡 隼	大規模斜面崩壊による希少鳥類ヨタカの増加：胆振東部地震7年後の録音調査
	PT1-6	3/17	多目的ホール	小西 拓海	民間企業による自然関連リスクへの対応と生物多様性保全との関係性
保健 休養	PT2-1 #	3/17	多目的ホール	斎藤 万桜	高校生を対象としたストレス軽減法としての森林散策
	PT2-2 #	3/17	多目的ホール		発表取り消し
森林の 放射能	PT3-1	3/17	多目的ホール	大前 芳美	事故後15年間の福島森林内の樹木及び土壌における放射性Cs分布の変化
	PT3-2	3/17	多目的ホール	加藤 弘亮	福島第一原子力発電所事故後の森林における放射性セシウムの長期動態
	PT3-3	3/17	多目的ホール	長倉 淳子	帰還困難区域と区域外の森林で樹木の ¹³⁷ Cs 面移行係数は異なるのか？
	PT3-4	3/17	多目的ホール	篠宮 佳樹	事故後植栽木と事故汚染木のスギの葉、樹皮、材の ¹³⁷ Cs面移行係数の比較
	PT3-5	3/17	多目的ホール	三浦 寛	福島原発事故後に更新した植栽木等の面移行係数
	PT3-6	3/17	多目的ホール	小川 秀樹	ポット苗木を利用したコナラへの ¹³⁷ Cs移行とカリウム移行の関係性
	PT3-7	3/17	多目的ホール	小林 勇介	林床へのカリウム肥料施用後の土壌カリウム濃度の変化
	PT3-8			市川 貴大	落葉かきの時期の違いが分解にともなう放射性セシウム濃度に及ぼす影響
	PT3-9 #	3/17	多目的ホール	上原 雄正	森林管理が空間線量率に及ぼす影響の解明とモデル化
	PT3-10	3/17	多目的ホール	小松 雅史	放射性セシウムが降下した広葉樹林のシイタケ栽培利用可否判定ツールの開発
樹木根	PT5-1	3/17	多目的ホール	牧田 直樹	土壌深1mまでの細根の解剖学的特徴の特定：原生木部組織からの探求
	PT5-2 #	3/17	多目的ホール	吉田 陽向	メッシュ袋を用いて回収したヒノキ脱落根における解剖特性の季節変動
	PT5-3 #	3/17	多目的ホール	金澤 姫	ヒノキ細根系の分岐発達様式に沿った解剖学的形質と菌根菌感染の解明
	PT5-4	3/17	多目的ホール	小野 賢二	タイ王国マングローブ林から採取したマングローブ細根の仮比重・真比重
	PT5-5 #	3/17	多目的ホール	坂本 小雪	中部山岳亜高山帯常緑針葉樹林における標高別の細根動態と根呼吸
	PT5-6 #	3/17	多目的ホール	山中 了	樹木細根の呼吸活性と色合いには関係はあるか？
	PT5-7	3/17	多目的ホール	小林 元	根切り処理の深さがヒノキ人工林の根呼吸推定におよぼす影響
	PT5-8 #	3/17	多目的ホール	橋本 裕生	亜高山帯林における細根と菌根菌糸の土壌呼吸への寄与と温度感受性
	PT5-9	3/17	多目的ホール	荒田 洋平	ササ被覆率の違いが表層の細根径分布と飽和透水係数に及ぼす影響
	PT5-10 #	3/17	多目的ホール	小坂橋 花	樹木根探査における地中レーダ画像上のクラッタの出現特性
	PT5-11 #	3/17	多目的ホール	田中 優斗	樹木根3Dモデルを用いた斜面補強強度の推定
	PT5-12 #	3/17	多目的ホール	上田 悠馬	クロマツの幹・根成長特性の解明と減災機能の推定
	PT5-13 #	3/17	多目的ホール	神吉 美羽	地中レーダを用いた里山樹種における幹周囲の土壌補強強度の推定
	PT5-14 #	3/17	多目的ホール	坂口 誠一郎	シカに剥皮されたヒノキ個体の根による土壌補強強度
	PT5-15	3/17	多目的ホール	平野 侑	森林限界域における樹木細根の滲出物と線虫群集の関係性
	PT5-16 #	3/17	多目的ホール	堀内 夏海	ヨーロッパアカマツ細根から放出される有機炭素の分子特性解析
	PT5-17 #	3/17	多目的ホール	西村 和心	ヒノキ林における根の形態特性と土壌硝酸態窒素に対する滲出速度の応答
	PT5-18	3/17	多目的ホール	遠藤 いず貴	冷温帯樹木の根滲出物の有機体炭素量と根系形態の樹種間比較
ネット ゼロ 森林	PT7-1	3/17	多目的ホール	熊谷 朝臣	ホントの日本の森林の二酸化炭素吸収能力

各種論文賞ポスター

部門	ポスター 番号	現地 掲示日	現地掲 示会場	講演者氏名	発表題目
JFR論文賞	PP-01	3/17-18	102	Yuuki Tsunoda, Yasuyuki Ohno, Mika Takiya & Takaaki Tsuda	Importance of pre-release height of saplings in governing mortality factors after canopy opening: insights from 21-year monitoring of Abies sachalinensis saplings
	PP-02	3/17-18	102	Yasuhiro Hirano, Chikage Todo, Toko Tanikawa, Keitaro Yamase, Mizue Ohashi, Masako Dannoura, Yuki Okamoto, Ryuusei Doi, Gen Yoshida, Hidetoshi Ikeno	Intraspecific variation in root system structure in a Pinus thunbergii stand grown in a gravelly spit coast
日誌論文賞	PP-03	3/17-18	102	坂井 勲・吉田 俊也	天然林択伐施業における横雪期かきこしの有効性

学会企画ポスター

企画名	ポスター 番号	現地 掲示日	現地掲 示会場	講演者氏名	発表題目
【学会企画2】 帰国留学生会員 およびアジアの 森林学会との 国際交流会	GP-01			Mochamad Candra Wirawan Arief	Transmigration: The Potential Economic and the Forest Sustainability in Aceh
	GP-02	3/17-18	102	Kazi Kamrul ISLAM	Role of Trees in Restoring Wetland Resilience: The Case of Arial Beel Wetland, Bangladesh
	GP-03			JEYAVANAN KARTHIGESU	Individual Tree Crown Detection of Palmyrah Palm (Borassus flabellifer) using UAV imagery
	GP-04			Ratih Madya Septiana	Evaluation of Reduced Impact Logging (RIL) Practices for Sustainable Forest Operations in Plantation Forest, Indonesia

企画名	ポスター 番号	現地 掲示日	現地掲 示会場	学校名	発表題目
【学会企画3】 第13回高校生 ポスター発表	KP-1	3/17-18	102	北海道士幌高等学校	持続可能な地域環境を目指して ～防風林の未利用資源活用～
	KP-2	3/17-18	102	北海道帯広農業高等学校	美しさ・安全性・実用性～地域と共生できる里山づくりへの挑戦～
	KP-3	3/17-18	102	宮城県仙台第三高等学校	青森県深浦町の十二湖周辺における植生の経時的変化
	KP-4	3/17-18	102	宮城県仙台第三高等学校	仙台三高等学校林「時習の森」の特殊性にせまる！
	KP-5	3/17-18	102	宮城県大河原産業高校	Let's SAUNA ～汗がつなぐC L T の輪～
	KP-6	3/17-18	102	宮城県大河原産業高校	心繫～メープルシロップを活用した地域創造プロジェクト～
	KP-7	3/17-18	102	山形県立米沢興譲館高等学校	環境の変化に伴う樹木の窒素吸収速度の変化
	KP-8	3/17-18	102	茨城県立下館第一高等学校	ミヤマザクラの全個体調査 -茨城県における絶滅危惧植物-
	KP-9	3/17-18	102	茨城県立日立第一高等学校	納豆菌によるコフキサルノコシカケの繁殖抑制効果について
	KP-10	3/17-18	102	茨城県立日立第一高等学校	モジホコリの学習能力について
	KP-11	3/17-18	102	作新学院高等学校	きのこ類の同定と純粋培養
	KP-12	3/17-18	102	栃木県立矢板東高校	矢東の樹木マップをつくろう！
	KP-13	3/17-18	102	國學院大學栃木高等学校	森林は洪水を守るか
	KP-14	3/17-18	102	群馬県立勢多農林高等学校	新里のサクラソウ群落の調査および保全活動
	KP-15	3/17-18	102	群馬県立勢多農林高等学校	桜山公園のフユザクラ保全活動～開花観測と保存樹木の茎頂培養～
	KP-16	3/17-18	102	群馬県立尾瀬高等学校	武尊山登山道沿いの植生調査～武尊山東西の比較とササによる影響を調べる～
	KP-17	3/17-18	102	群馬県立尾瀬高等学校	玉原高原におけるニホンジカの影響調査
	KP-18	3/17-18	102	正智深谷高等学校	クビアカツヤカミキリはお気に入りの木を見つけて飛来する
	KP-19	3/17-18	102	東京農業大学第三高等学校	リター分解過程における土壌動物の有用性～パイオ炭散布との関係性を探る～
	KP-20	3/17-18	102	東京農業大学第三高等学校	パイオ炭散布によってクヌギの根の形態はどのように変わるのか
	KP-21	3/17-18	102	国分寺高校	落合川のマイクロプラスチック量の測定と環境の保全について
	KP-22	3/17-18	102	国分寺高校	見えざる飛翔の軌跡：春夏秋冬朝昼晩、カラスバトのルーティンを暴け！
	KP-23	3/17-18	102	海城中学高等学校	赤谷の森での探究活動～森林の機能とスキー場の植生～
	KP-24	3/17-18	102	藤沢翔陵高等学校	米文化を身近にするための農業調査ー土作りから米販売までの参与観察ー
	KP-25	3/17-18	102	藤沢翔陵高等学校	花の品質を向上させるための条件の検討 -環境整備とコミュニティの構築-
	KP-26	3/17-18	102	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校・附属中学校	きのこのひだはカビの成長を阻害するのか
	KP-27	3/17-18	102	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校・附属中学校	タケ類てんぐ巣病の感染経路の模索
	KP-28	3/17-18	102	神奈川県立吉田島高等学校	皆伐施業・将来木施業の計画と素材及び製品生産量把握
	KP-29	3/17-18	102	神奈川県立吉田島高等学校	低コスト再造林から考える吉田島式造林法の試行
	KP-30	3/17-18	102	岐阜県立大垣西高等学校	岐阜県西濃地域に生息するニホンジカ集団に関する生態調査Ⅲ
	KP-31	3/17-18	102	不二聖心女子学院高等学校	里山音楽園
	KP-32	3/17-18	102	不二聖心女子学院高等学校	不二果樹園
	KP-33	3/17-18	102	名城大学附属高等学校	持続可能な森林と和楽器文化の共創：三味線の外国産材と国産材に着目して
	KP-34	3/17-18	102	京都府立嵯峨野高等学校	竹の音特性 ～竹稈の位置による打撃音の差異及び竹製リードの作製～
	KP-35	3/17-18	102	京都府立嵯峨野高等学校	京都府丹後半島の森林小流域における土壌生成に関する研究
	KP-36	3/17-18	102	神戸大学附属中等教育学校	RBMwによる表層崩壊防止効果の分析ー樹種特性と断幹に着目してー
	KP-37	3/17-18	102	高知県立高知農業高等学校	森林認証制度 project ～上穴内演習林の価値の創造を目指して～
	KP-38	3/17-18	102	熊本県立八代農業高等学校泉分校	故郷に豊かな森林環境を！～「高校生ハンター」が挑戦する野生鳥獣害対策～
	KP-39	3/17-18	102	熊本県立矢部高等学校	持続可能な森林づくり ～どんぐりで広げる水源林保全と国土保全の輪～
	KP-40	3/17-18	102	熊本県立矢部高等学校	林福連携で目指す私たちの挑戦！～通潤バズルで地域の人々を元気に～
	KP-41	3/17-18	102	京都府立北桑田高等学校	Potential of wood products ～未来に繋げる京都府内産木材の利用～

企画シンポジウム

S1. 総合学としての林学史

History of Forestry as Forest Arts and Sciences

コーディネータ：平野悠一郎 森林総合研究所多摩森林科学園

山本伸幸 森林総合研究所林業経営・政策研究領域

水内佑輔 金沢大学融合研究域

3月17日（火） 9:00～12:00 会場 Leo Esaki メインホール

日本森林学会の学問的基盤である「森林科学」は、科学技術の急速な発展が進んだ19世紀後半から20世紀前半の東アジアにおいて、域外との知識・技術交流を重ねつつ、総合学・現場主義を軸に体系化された近代「林学」を直接的に受け継いできた。

しかし、東アジアの近代林学は、決して単一の理論、手法、学問的ルーツに基づいて形成されたものではなかった。今日、日本森林学会に14部門が存在するように、その形成過程では、森林をめぐる多様な人間社会の価値や期待が反映されていた。その学問体系においても、ドイツ林学としての森林管理・経営論に加え、当時世界的な注目を集めていた水土保持機能の発揮、植物学・博物学的な関心、さらには在来の造林技術や樹木管理技術など、様々なルーツが見られた。そして、自然生態的・社会的・歴史的背景の異なる地域にて、各種の価値や期待を実現するにあたり、林学は必然的に、一つ一つの実験結果を積み上げる経験主義・現場主義のスタンスを有することにもなった。

こうした多様な側面を持つ林学形成過程への着目は、近年、周辺学問分野や国際交渉の場でも関心の集まってきた人間社会における森林の歴史的・将来的な重要性に、森林科学としての知見蓄積を踏まえた科学史・技術史的な論拠を提示することに結びつく。同時に、短期的な国力増強を目指す帝国主義全盛の近代世界にあって、ともすれば相対立する価値や期待、ならびに様々な学問分野を横断した長期持続的な資源管理や調査研究が、「林学」という枠に集約・体系化されたプロセスこそは、「持続可能な社会構築」や「多様性の中での共存」という今日の社会課題の解決に向けて、森林科学が提供しうる貴重な実験記録である。

本企画では、以上の観点から、多様なルーツを内包する林学の源流を、歴史的・部門横断的に捉え直すことで、森林科学の意義や可能性を改めて見出していくことを目的とする。なお、本企画は、公募セッション（T4）「総合学・原論としての森林科学」の起点の一つとも位置づけている。

発表者：大住克博（前鳥取大学）、田中隆文（名古屋大学）、三島美佐子（九州大学）

酒井秀夫（前東京大学）、水内佑輔（金沢大学）

コメンテーター：芳賀和樹（法政大学）

S2. 森林サービス産業を批判的に検討するー森林・林業の価値の視点から

A Critical Assessment of the Forest Service Industry: Reconsidering the Value of Forests and Forestry

コーディネータ：田村典江 事業構想大学院大学

3月18日（水） 9:00～12:00 会場 Leo Esaki メインホール

森林サービス産業は、近年、新たな林政のテーマとして注目を集めている。森林空間を活用した健康、観光、教育などの体験サービスは、都市住民の心身の健康増進や企業活動の活性化に貢献するとともに、山村地域における雇用と所得機会を創出することをねらいとしている。このような“産業”が形成されてきた背景には、木材利用の減少や担い手不足に起因する林業の衰退、気候変動対策や生物多様性保全への社会的関心の高まり、そして自然とのふれあいを求めるニーズの増加といった複合的な要因がある。森林サービス産業の育成は、山村の内発的発展を促す手段として森林・林業基本計画にも位置づけられており、現在、全国58地域が推進地域として登録されるに至っている。

従来の林業・木材産業から一歩踏み出し、森林空間が創出するサービスに着目して政策的に推進しようとする展開は、時代の要請に対応するものと評価できる。しかしながら、その一方で、経済的側面にのみ焦点を当て、新たな“産業”として後押しすることについては懸念がある。産業振興としての側面にのみ注目が集まることは、森林生態系の多様性や地域社会との関係性といった本質的な価値を後景におしやり、森林と人間との間に存立する重層的な関係を単純化する恐れがある。

森林サービス産業は、単に森林空間が存在するだけで成立するものではなく、そこに多様な価値を見出す人々の存在があって初めて成り立つものではないか——本シンポジウムでは、このような視点にたち、森林サービス産業の基盤である「森林と人間の多様な関わり」に焦点を当て、その価値を経済的な評価に限定するのではなく、空間・生態系としての多角的な側面から再考する。経済や産業といった単一の指標では捉えきれない、多様な森林利用の実態を各地の事例を通して検討し、森林サービス産業のあるべき姿を、森林の複合的な価値の観点から考察したい。

発表者予定者

鎌田磨人（徳島大学）、丹羽英之（京都先端科学大学）、三木敦朗（信州大学）

山本信次（岩手大学）

S3. 森林管理に活かされる知識とは？：アジア諸国における現場フォレスターの認識比較**What knowledge matters in forest management?: comparing perspectives of field foresters in Asian countries**

コーディネータ：石崎涼子（いしざきりょうこ）、森林総研

大田真彦（おおたまさひこ）長崎大学

志賀薫（しかかおり）森林総研

3月18日（水） 9：00～12：00 会場 中ホール 300

地域の現場で森林管理を実践するフォレスターは、自身が持つ科学的な知識や経験に基づく知識に加え、地域住民のニーズや関心、政府の方針など、さまざまな要素を考慮しながら判断や行為等を行っている。こうしたフォレスターによる森林管理は、長期的な視野を持ち、森林のもつ多様な価値の実現を目指す「林学」の実践現場である一方で、単純化・分かりやすさ・操作性といった官僚が持ちがちな知識のあり方の象徴と捉えられることもあり、地域の実状を無視した科学知の押しつけとの批判を受けることもある。また、フォレスターの持つ専門性の弱さが森林管理に与える影響を懸念する声もある。

では、実際に地域現場で森林管理を担う「現場フォレスター」は、自らの仕事やそれに必要な知識についてどのような認識を持ち、こういった観点を重視してどのように森林管理を行っているのだろうか。その認識は、国や制度的な立場などによってどのように異なるのだろうか。

私達の研究グループでは、2024年から2025年にかけて、歴史的・社会的・文化的背景が異なる国々において、共通フォーマットを用いた調査を実施し、現場フォレスターが森林管理やそれに関わる知識に対して持つ認識の比較検討を行った。調査対象とした現場フォレスターは、現地において森林施業（植栽や伐採など）に関わる許認可ないしは助言・指導などに携わる現場担当者であり、日本においては国有林の森林官、都道府県の林業普及職員、市町村の森林行政担当者、森林施業プランナーを対象とした。

本シンポジウムでは、調査結果のうち日本をはじめとするアジア諸国で得られたデータを中心にとりあげ、森林管理における知識の特徴とその地域条件への適応方法、それらに影響を与える要因などについて議論を深めたい。

発表者予定者リスト

- ① 石崎涼子ら（森林総研）：「日本における現場フォレスターの認識」
- ② 大田真彦（長崎大学）：「インドにおける現場フォレスターの認識」
- ③ 岩永青史（名古屋大学）：「ベトナムにおける現場フォレスターの認識」
- ④ 笹田敬太郎（森林総研九州）：「台湾における現場フォレスターの認識」
- ⑤ 葉山アツコ（久留米大学）：「フィリピンにおける現場フォレスターの認識」
- ⑥ 志賀薫ら（森林総研）：「インドネシアにおける現場フォレスターの認識」

S4. 熱帯林業における気候変動適応策～科学的知見の蓄積と社会実装に向けて～**Adaptation Strategies to Climate Change in Tropical Forestry ~Scientific Findings and Their Social Implementation**

コーディネータ：谷 尚樹、国際農林水産業研究センター

3月17日（火） 14：15～17：15 会場 303

世界第3位の熱帯林面積保有国であるインドネシア共和国を対象国として科学技術振興機構（JST）と国際協力事業団（JICA）が実施する地球規模課題対応国際協力技術協力プログラム（SATREPS）を2023年度より実施している。本プログラム（気候変動適応へ向けた森林遺伝資源の利用と管理による熱帯林強靱性の創出）では、熱帯林再生や社会林業（住民参加型の林業）に適した林業樹種について、気候変動への脆弱性を明らかにし、気候変動により高い適応性を持つ優良個体を選抜し、それら優良個体の種苗を量産する技術を確立する。さらに、気候変動に対してレジリエンスの高い林業を促進した場合の効果を、木材生産量や生態系機能（温室効果ガス吸収や非木材資源量など）、地域社会や地域経済の観点から評価し、林業促進の必要性や有用性を科学的に明らかにすることを目指している。本シンポジウムでは、インドネシアより本プログラムに参加する研究者を招聘し、国内からの参画メンバーを交え、気候変動に対する脆弱性の評価、育種技術を用いた適応的な個体の選抜や増殖技術、植林を実施した時のインセンティブについて、最新の研究成果を紹介するとともに、特に林業及び土地利用分野（FOLU）においてパリ協定に基づく国の温室効果ガス削減目標（「国が決定する貢献（NDC）」）への高い貢献が求められるインドネシアの森林政策の動向や気候変動への適応計画について情報提供を行う。

発表者予定者リスト

Eny Faridah（ガジャマダ大）、Enny Sudarmonowati（BRIN）、津山幾太郎（森林総研）
 津村義彦（筑波大）、Alnus Meinata（筑波大）、山岸祐介（住友林業）、近藤俊明（国際農研）
 Novelia Triana（長崎大）、Widiyatno（ガジャマダ大）

S5. 日本型フォレスターが、地域の森林管理を支える存在となるためには。**Making the Japanese-Style Forester a Functional Reality**

コーディネータ：小森胤樹 フォレスターズ株式会社

3月18日（水） 14：15～17：15 会場 中ホール 300

日本型フォレスターという言葉が初めて公式に登場したのは、平成21年に策定された「森林・林業再生プラン」においてである。地域の森林・林業の牽引者として、構想の作成・合意形成・実現支援を担う人材として位置づけられ、平成25年度には森林総合監理

津山孝人、九州大学

則定真利子、東京大学

3月17日（火） 9:00~12:00 会場 303

講演会「植物の生理特性を知って環境修復に活かす」と生理部門のポスター発表の1分紹介で構成する生理部門の企画シンポジウムを開催します。

生理部門では、個体から細胞・分子レベルまでの幅広いスケールの現象を対象に、多様な手法を用いて樹木の成長の仕組みを明らかにする研究に携わる方々の情報・意見交換の場となることを目指しています。従来の研究分野の枠組みにとらわれることなく、さまざまなスケール・手法で樹木の成長の仕組みの解明に携わる多くの皆様に、生理部門での口頭・ポスター発表にご参加頂くとともに、本シンポジウムにご参集頂きたいと考えております。

講演会では、植物が過酷な環境に適応できる仕組みへの理解を深め、その知見をどのように不良環境の修復に結び付けていくのか考えます。東京大学の小島克己さんに、樹木の環境ストレス耐性機構の解明と、それを踏まえた熱帯荒廃地の環境造林技術についてご講演いただきます。森林総合研究所の山溝千尋さんには、酸性土壌で生育できるユーカリが生産するアルミニウム無毒化タンニンの生合成の解明と再構成についてご紹介頂きます。

講演会に引き続き、生理部門でのポスター発表者に1分間で内容を紹介いただきます。

生理部門では、会場での議論の場を補完する形で、口頭発表およびポスター発表に関する議論のためのオンラインスペース（Slack）を利用しています。詳細については、生理部門のFacebook ページ（森林学会_生理部門/Tree_Physiology_JFS）やX（@TreePhysiol_JFS）などで随時ご案内していきます。

S7. 大規模産地試験から見てきたダケカンバの環境適応の核心部：気孔・樹形・萌芽・被食防衛・外生菌根

The leading edge of local adaptation of *Betula ermanii* revealed from range-wide provenance trial: stomata, tree architecture, sprouting, antiherbivore defense and ectomycorrhizal fungi

コーディネータ：相原隆貴、筑波大学生命環境系

蔡一涵、東京大学先端科学技術研究センター

3月17日（火） 9:00~12:00 会場 中ホール 200

ダケカンバは、高山など低温・多雪地域に分布する落葉高木であるが、冷温帯上部～森林限界の、開放地～針葉樹林内という多様な立地環境に広い分布が見られる。また、日本だけでなく中国・ロシアにおいても多数の地域変種が報告されることから形態的変異が大きく、樹木の環境適応を明らかにする上で非常に重要な種である。現在、世界的に見ても大規模なダケカンバ産地試験地が設置されており、天然分布域全体をカバーする11産地由来の苗木

士として制度化された。平成 26 年度から登録・公開が始まり、令和 6 年度末には有資格者数が 1,914 人に達する等、制度的な整備は着実に進んできた。

あわせて、地域林政アドバイザー制度や森林環境税・譲与税など、日本型フォレスターの活動に援用可能な政策的な措置も進められてきた。これにより、国や都道府県の専門職公務員だけではなく、民間技術者が日本型フォレスターとして活動する機会も増えている。また、岐阜県や奈良県では森林総合監理士資格を参照しつつ、独自の人材育成・運用を行っているほか、技術交流会や「フォレスター・ギャザリング」などの活動も広がり、技術者像として一定の基礎を固めつつある現状がある。

このように基盤が整った今こそ、フォレスターの「実質化」が問われている。市町村による認知と期待はどう変化したのか。林政アドバイザー制度や森林経営管理制度、森林環境譲与税は本当に活用されているのか。循環型林業への転換が進む中、木材生産の抑制や公益的機能の維持を担う存在として、フォレスターは「伐ってはいけない」と指導する責任を果たせるのかなど、創設から 10 年を経た現在だからこそ、改めて必要な人材確保（リクルート）、能力、そして権能や職責について、制度と現場の両面から議論したい。

発表者リスト

小森胤樹（フォレスターズ株式会社 代表取締役）「民間フォレスターの必要性」

藤平拓志（奈良県フォレスターアカデミー校長）

「5 年目に入った奈良県独自のフォレスター制度の良いところ、悪いところ」

小山泰弘（長野県林業総合センター育林部長）

「現場条件に寄り添う技術を活かす森林づくり」

相川高信（PwC コンサルティング合同会社・シニアマネージャー）

「日本型フォレスター再考：森林・林業再生プラン検討時からの状況変化を踏まえて」

黒沢秀基（片品村 地域林政アドバイザー）「片品村での活動について」

コメンテーター

田村典江（事業構想大学院大学）：制度創設期を知る立場から

S6. 生理部門企画シンポジウム「植物の生理特性を知って環境修復に活かす」とポスター紹介

Tree Physiology Division Symposium “Understanding plant physiological characteristics for environmental rehabilitation” and poster introduction

コーディネータ：田原恒、森林総合研究所

小島克己、東京大学

斎藤秀之、北海道大学

が北海道から九州の 11 箇所に植栽されている。第 135 回日本森林学会大会において、本試験地を用いた研究成果の企画シンポジウムが開催され、ダケカンバの成長・葉形質・光合成特性などから環境適応について議論したが、研究はさらなる発展を見せている。今回のシンポジウムでは、気孔・樹形・萌芽・被食防衛・外生菌根菌などの見地から高山の寒冷・多雪の極限環境に生育するダケカンバの環境適応の核心部に迫る。ダケカンバの気孔密度・気孔サイズは遺伝的な影響が強く、分布適地の産地由来の苗木ほど気孔サイズの可塑性が大きいことから、環境変動に適応しやすいことが示唆された。また、産地と試験地の環境差が温暖・湿潤方向へ移動するほど気孔密度が減少・気孔サイズが増大しており、ダケカンバは気孔の調整を通して気候変化に適応することが明らかとなった。また、樹形については多雪環境の試験地のほうが少雪環境の試験地よりも樹高が低く、幅が広がる傾向があった。また樹形にも産地間差が認められ、その多様性は多雪環境よりも少雪環境で顕在化していた。苗木の萌芽幹数は主幹が先枯れした苗木ほど多く、多雪環境の産地由来の苗木ほど萌芽幹を頻繁に入れ替えていることが分かった。一方で、外生菌根菌の多様度・組成・構造は、産地よりも試験地の影響が強く、最も温暖な試験地で最も多様な外生菌根菌が検出された。また、3 つの試験地から採取した土壤に滅菌した苗木を植栽したところ、特に最も寒冷な名寄試験地の土壤で高い定着率を示したが、外生菌根菌の種数は少なかった。これらの成果を踏まえ、ダケカンバの地上部～地下部の多様な形質から、その環境適応および樹木の気候変化への適応について議論を深めたい。

S8. 地域の森林を活かしたこれからの暮らし ―飛騨市における広葉樹のまちづくりを事例に考える―

Exploring Pathways for Living in Harmony with Local Forests: An Interdisciplinary Perspective from Hida's Broadleaf Forest Strategy

コーディネータ：徳地直子、京都大学フィールド科学教育研究センター

時任美乃理、京都大学大学院農学研究科

3 月 17 日（火） 9：00～12：00 会場 101

それぞれの地域では、地域固有の自然に依拠した暮らしの中から多様な文化が生まれ、人々の生活を支えてきました。しかし近年、石油資源への依存の高まりや人口減少・高齢化の進行などにより、自然資本を基盤とした暮らしの継続には多くの課題が生じています。こうした課題解決のためには、自然科学に立脚した生態系の理解とともに、地域の特性・特徴を活かした地域独自の取り組みを展開していくことが必要とされています。

本シンポジウムでは、地域の森林の特性を起点に、人々の暮らしや文化との関係を多面的に検討することで、人と自然のつながり、そして自然資本を活かした地域社会のこれからのあり方について考えます。具体的には、森林の約 7 割を広葉樹が占め、その特性を活かした

まちづくりを2014年から進めている岐阜県飛騨市を取り上げます。同市では、生産地と利用者をつなぐ広葉樹コーディネータの設置、集材・製材体制の整備と活性化、そしてデザイナーや企業との連携による新たな利活用の創出、さらに広葉樹林業の持続的な育成に向けた調査研究など、多面的な取り組みが展開されており、林産業として多くの成果があがっています。一方で、中山間地域に位置する飛騨市は、他の地域と同様に人口の減少や高齢化の問題も抱えており、森林を基盤とした地域の暮らしや文化への影響は今後ますます大きくなっていくと考えられます。

本シンポジウムでは、林業と地域社会の持続可能な関係性を模索する重要な事例でもある飛騨市の取り組みを題材に、林学・生態学・社会学・心理学など多様な視点から、人々の暮らしと自然資本の関係について知見を共有し、地域の特性を活かした今後の森林との関わり方を展望することを目指します。森林に対する人々の多様で過大な期待や、森林が経済的なシステムに取り込まれようとする中で、森林と人々の暮らしが安心・安全に続くよう、多くの森林学会員の活発な議論を期待します。

S9. 林野火災に対して森林科学は何が貢献できるのか？—大船渡市林野火災を契機に考える—

What can the forestry sciences contribute to wildfires: discuss following the wildfires in Ofunato City in 2025

コーディネータ：吉藤奈津子、森林総合研究所
松本一穂、岩手大学農学部
五十嵐康記、筑波大学
篠原慶規、宮崎大学

3月17日（火） 9:00～12:00 会場 中ホール 405

2025年2月に岩手県大船渡市で大規模な林野火災が発生した。3月には岡山県岡山市、愛媛県今治市でも大規模な林野火災が発生した。大規模な林野火災は、住宅や人命に被害を与えただけでなく、大切に育てていた森林そのものも破壊してしまった。火災後は、土砂移動や濁水の発生、水質の変化が懸念されているだけでなく、残った樹木をどう取り扱うべきか、森林生態系をどのように回復させていくべきか、といった多くの課題が残されている。しかし国内の林野火災の研究は非常に限られており、これらの問いに対して明確に答えられない状態にある。これらの課題に立ち向かうべく、これまで林野火災になじみがなった研究者も含め、多くの研究者が大船渡市を中心に研究をスタートさせている。今こそ、森林科学の研究者の英知を結集し、地域にどのように貢献できるのか、今後火災を起こさないためにできることはあるのかを議論していくべき時ではないか。以上のような背景を踏まえ、本シンポジウムでは、林野火災について、防災・水文、植物生態、造林、

土壌微生物など、様々な視点からの講演を行う。これらを通して、現在進めている研究の情報交換を行う他、今後の研究の方向性や長期的な支援等について、一般の参加者も巻き込みながら議論していきたい。

S10. 「緑の社会資本」のこれまでとこれから：林野公共事業のあり方を問う

The Past and Future of “Green Social Capital”: Examining the Role of Forestry Public Works

コーディネータ：佐藤宣子、九州大学大学院農学研究院
3月17日（火） 9：00～12：00 会場 中ホール 300

国土が急峻で災害が多発する列島にある日本は、森林が「治山・治水」の役割を果たしていることを古くから重視し、森林を造成してきた。森林が安全・安心な生活に資する「緑の社会資本」として広く認識されているといえる。

明治期の過剰伐採に対して保安林制度による伐採規制を行い、戦後は拡大造林によって1千万haの人工林を造成し、その後は主に間伐施業によって森林の水土保持機能を高めてきた。近年では、気候変動の影響とみられる豪雨による洪水や土砂災害が激甚化しており、「流域治水」対策への対応が森林に求められている。一方で、森林は木材生産の場でもあるが、80年代以降、木材利用は低位な状況が続き、「過少利用」が問題とされてきた。しかし、2010年代後半からそうした状況は大きく変化し、人工林の「主伐・再造林」が推進され、木材自給率も43%まで回復している。主伐（ほぼ皆伐）が進められる中で、再造林率が3割程度と低位であることが政策課題となり、再造林率を高める方策が盛んに議論されている。この議論で欠けているのは、伐採のあり方についてである。

主伐時代とは、どう伐採し、どう更新・育成するのか、それを通じて次の世代へ向けてどのような「緑の社会資本」を継承するかが問われる時代だともいえる。全国一律に拡大造林を進めた反省を踏まえると、地域に応じて考える必要があり、行政的には158の地域森林計画（流域計画）別の考察が有効だと思われる。さらに、社会資本のあり方を考える上では、林野庁予算の約2/3を占める林野公共事業費（治山、造林、林道、災害復旧）の現状を踏まえた議論が求められる。

本企画シンポジウムは、以上の問題意識の下で実施している共同研究の中間報告として開催する。この問題にアプローチするために自然科学と社会科学研究者が参画している。成果を共有し、活発な議論ができることを期待している。

発表者予定者リスト

佐藤宣子：九州大学大学院農学研究院

蔵治光一郎：東京大学大学院農学生命科学研究科

吉村哲彦：島根大学学術研究院農生命系

當山啓介：岩手大学農学部

教重涼子：九州大学大学院生物資源環境科学府

尾分達也：北海道大学大学院農学研究院

上野竜大生：九州大学大学院生物資源環境科学府

S11. 環境・社会と調和した持続的な木質バイオマス発電事業の在り方

An Environmentally and Socially Responsible Woody Biomass Power Generation

Business for Long-term Sustainability

コーディネータ：横田康裕、森林総合研究所

鈴木保志、高知大学教育研究部

有賀一広、宇都宮大学農学部

佐藤政宗、森のエネルギー研究所

寺岡行雄、鹿児島大学農学部

久保山裕史、森林総合研究所

3月17日（火） 14：15～15：30 会場 304

2012年7月に再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT制度）が施行されて以降、木材を燃料とする発電事業が日本各地で取り組まれるようになり、2023年には、国内で生産された丸太の約3割（1,132万m³）がエネルギー利用に回されるなど、発電事業等による木材需要は、地域の木材需給に深く組み込まれ、もはや無視できない存在となっています。一方、FIT制度開始から10年以上が経過し、いわゆる「卒FIT」がより現実的となり始めています。こうした中、環境や社会と調和がとれた発電事業であれば、その継続は社会的に重要な課題といえます。2020年に農林水産省と経済産業省から、森林の持続可能性と発電事業の自立を両立させるための重要な論点と対策方針が示されました。しかし、その後の社会経済状況の変化は激しく、ウッドショックによる木材需給の変動をはじめ、急速なインフレ、賃金上昇、労働力不足などが深刻化し、さらにはSDGs（持続可能な開発目標）への貢献やCSR（企業の社会的責任）の履行も、これまで以上に強く求められるようになっていきます。

こうした現状を踏まえ、本企画シンポジウムでは、今日における「環境・社会と調和した持続的な木質バイオマス発電事業の在り方」について理解を深め、今後の展望を参加者の皆様と共に考えることを目的とします。まず、発電事業者からは、これまでの事業展開と、現在、事業継続に向けた環境・社会・経済面での取り組み、そして直面している課題について報告していただきます。次いで、森林学会側からは、全国的な発電事業の動向と、環境・社会との調和および事業継続に関する課題を概観する報告を行います。総合討論では、発電事

業者と森林学会の間に、環境・社会と調和した持続的な発電事業の在り方や、それを実現する上での課題について情報・意見交換を行い、さらには学会としてどのような貢献が求められ、また可能なのかについても議論を深めたいと考えています。

多くの皆様のご参加をいただき、活発な議論が交わされることを期待しております。なお、今回は、上記の趣旨に沿い、未利用木材などの国産燃料を主に使用する発電事業を対象とします。

S12. 不定根形成メカニズムの理解と樹木根系構造に基づく斜面安定性の検討 ～樹木根系の育種基盤構築に向けて～

Understanding the mechanism of adventitious root formation and examining slope stability based on tree root structure: Toward Laying the Foundation for Innovative Breeding of Tree Root Systems

コーディネータ：渡辺敦史、九州大学大学院農学研究院

3月17日（火） 9：00～12：00 会場 304

樹木根系は、地すべり等の災害に対して防止機能を発揮する唯一の自然物と考えられている。しかし、スギ挿し木苗を活用した人工林は、斜面崩壊（土砂災害）防止機能に対し脆弱であるとの言説がメディアや web 上で流布している。挿し木苗は水平根を主体とし、地すべりに対し有効とされる垂直根が欠如するとされ、この根系構造が斜面崩壊防止機能に対する脆弱性と関連づけられている。

スギ挿し木の樹木根系構造そのものの知見は極めて少なく、実際の根系構造と斜面崩壊防止機能との関係は科学的には明確ではない。そこで、10年生のスギ挿し木品種を対象に根系構造の品種特異性や立地環境と根系形質との関係の解明に取り組んできた研究者より、挿し木根系構造の詳細を報告いただく。さらに、砂防関連の研究者より明らかとなった樹木根系構造と斜面崩壊防止機能の関係を紹介いただく。

挿し木根系の出発点である不定根誘導については、傷害によって誘導された内在性オーキシシンが不定根誘導に作用するとした定説ではなく、内在性オーキシシン誘導を促す新規環境シグナルの存在が明らかとなっている。新規シグナルを人為操作することで、人為的に不定根誘導部位を操作する「根のデザイン化」などの取り組みも含めこれまでに明らかとなっている不定根誘導メカニズムについて紹介する。

センダン、早生樹として期待される広葉樹の一つである。センダンについては、主根がよく発達して深く伸びるとされてきたが、成長にともない水平根を主体とする根系構造へと変化していくことが明らかとなっており、センダン根系の再生能力と合わせて紹介する。

スギ挿し木根系構造の品種特異性が明らかになったことや不定根誘導メカニズムの新たな理解が進んだことにより育種による根系構造改変の可能性が示唆された。今回、4つのト

ピックを紹介し、樹木根系の育種基盤構築に向けた取り組みに関して議論いただくことが目的である。

S13. 変動環境下における大気 - 森林間の物質交換と樹木の生理生態

Atmosphere-forest material exchange and tree physiological ecology under changing environment

コーディネータ： 渡辺 誠、東京農工大学大学院農学研究院

3月17日（火） 14：15～17：15 会場 101

産業革命以降、化石燃料の消費増大に代表される人間活動によって、森林を取り巻く環境は劇的に変化している。人間活動の活発化に伴う、様々な生元素の循環量の変化やそれに伴う気候変動、大気汚染といった環境変動による森林生態系への影響が世界的に懸念されている。このような環境の変化は、樹木の光合成などの生理活性を始めとして、土壌の養分・水分の利用性や病虫害に対する抵抗性といった様々なプロセスに複雑な変化を与え、森林の生産性や各種機能に影響を与える。そして、そのフィードバック作用として、森林からの養分・水分および揮発性有機化合物などの放出特性も変化する。数十年以上かけて蓄積される森林バイオマス、環境資源としての森林の持続的利用、そして流域レベルでの物質循環の将来予測を行う上で、これら環境変化と森林・樹木の間にある相互作用の理解は避けて通ることができないきわめて重要な課題である。これらの相互作用は多岐に渡るプロセスの集合体であるため、様々な分野における知見に基づく議論が必要である。これまで本シンポジウムでは主に温帯・冷温帯林を対象として議論を重ねてきたが、今回のシンポジウムではそれらの研究講演に加えて、国際農林水産業研究センターの田中憲蔵氏より熱帯雨林構成樹種の葉の形質における林冠内における分布に関する研究成果をご講演頂く。温帯・冷温帯林と熱帯雨林における光合成生産の違いを中心に、森林に対する環境の変化の影響と将来の展望の議論を深める機会としたい。

S14. 森林内飛行ドローンによる効率的な森林データ収集

Efficient forest data collection using drones flying within the forest

コーディネータ：加藤 顕、千葉大学

3月17日（火） 14：15～17：15 会場 中ホール 200

最新のドローン技術が森林分野でも利用拡大している。福島国際研究教育機構のプロジェクトにより、森林内で飛行できるドローンが開発され、ドローンによる森林内 3 次元データ収集が可能となった。収集した森林内データを用いれば、人がこれまで計測してきた胸高直径のデータをドローンによって効率的にデータ収集・計測が可能となる。データ整備が

遅れている福島県内の森林で、こうした最新技術を用いたデータ整備を進め、広域データで福島復興のためにどんな世界が描けるかを検討したい。

本シンポジウムでは、これまで利用可能なレーザー技術について、これまでの 3 次元データ取得技術と森林内で取得されるデータの違いを示し、森林内データ取得の必要性を示す。ドローンに搭載した小型線量計による森林内放射線量のデータ収集と、その 3 次元解析について紹介する。さらに、最新の解析技術として、広葉樹 3 次元データの解析手法を紹介する。こうした最新技術を用いれば、針葉樹ばかりでなく、様々な樹形を持つ森林に対し、データ整備が可能となる。今後のドローンの活用の展望について、最先端のドローン開発者を交えたパネルディスカッションを行い、森林分野でのドローン技術の意義について議論を深めたい。

発表者：加藤 顕、山田誠太郎（千葉大学）「森林分野でのドローンの活用と 3 次元データ解析」鈴木 智、中田 敏是（千葉大学）、野田龍介（東京工科大）「森林内ドローンの開発」田中博幸、太田智子（日本分析センター）「ドローン搭載用小型放線量計の開発」

S15. 森林教育研究のさらなる発展を目指してー森林、自然、木材を活用した教育活動の研究の可能性を探るー

For Seeking to Extend Forest Education Research Activities: Exploring the possibilities of research on educational activities that utilize forest, nature, and timber

コーディネータ： 山田 亮、北海道教育大学岩見沢校
東原 貴志、上越教育大学大学院
杉浦 克明、日本大学生物資源科学部
遠藤 知里、常葉大学短期大学部

3 月 17 日（火） 14：15～17：15 会場 202A

日本森林学会では、第 129 回大会から教育部門が設置された。近年、森林環境における自然体験活動の展開が広がるなど、教育に関する研究により一層の推進が期待されている。ただし、森林での教育活動は、実践する場所の条件が多様で、活動内容も幅広く、数多くの実践が行われている一方で、研究面では課題が多く、発展途上となっている。森林教育の研究には、人を相手にした教育活動について多角的に読み解き、森林科学の一部門としてさらなる発展を図るには、自然環境をフィールドとした近接領域の研究者や実践者と連携し、実践活動にあわせた研究方法について、検討をすすめていくことが求められる。

第 129 回～132 回、135 回、136 回学会大会において、森林教育に関わりが深い教育分野の関係者とともに企画シンポジウムを開催し、教育研究の深化と拡がりの可能性を検討し

てきた。特に前回は、自然保育、市民活動、技術科教育、ツーリズムの実践者と研究者から、事例を中心とした報告があり、教育活動から得られる効果についての議論が深められた。

本大会では、これまでの流れを踏まえ、森林教育研究のさらなる展開を目指し、近接領域の関係者から研究や実践事例を集めたシンポジウムを企画する。発表者は、研究者でありながら、森林や自然の現場における教育活動の経験が豊富であり、木育と自然保育の関連、学校教育や社会教育における青少年の育成、活動プログラム・教材の開発、地域活性化へ向けた取り組みなど幅広く、多くの示唆に富む報告がなされることを期待している。森林科学の知見の普及に関心のある研究者や人材育成に関わる多くの学会員に参加いただき、森林教育研究の発展を追求していく機会としたい。

公募セッション

T1, 生物多様性保全と森林管理

Biodiversity conservation and forest management

コーディネータ：山中聡、森林総合研究所北海道支所

山浦悠一、森林総合研究所四国支所

河村和洋、森林総合研究所北海道支所

3月17日（火） 14：15～16：30 会場 中ホール 300

ポスター発表 PT1-1～PT1-6

森林の減少・劣化は世界各地で進行しており、森林生態系における生物多様性保全とその持続可能な利用のための行動が必要とされています。日本の国土の約7割は森林に覆われていますが、人間活動による改変が少ない森林は限られており、老齢林やそれらに依存する生物の生息環境を維持することは重要です。また近年では、里山などで人間活動の衰退に伴う生物多様性の減少も懸念されています。その一方で、日本の森林の4割を占める人工林は各地で伐採が進み、林業の地域社会や経済への貢献が期待されています。これらの人工林は一般に生物多様性が低いことが知られていますが、管理の仕方によって多くの生物の生息地として機能するとも指摘されています。森林と林業の社会的価値や持続可能性を向上させていくために、日本でも生物多様性の保全に配慮した森林管理が、今後より重要となっていくと考えられます。

生物多様性の保全に配慮した森林管理を行うには、様々な分類群や林相（天然林や人工林など）、地域を対象とした生態学的研究や保全技術の開発や検証、集積が必要です。また、得られた知見を実際の森林管理に導入するためには、政策学や社会経済学など、様々な学問分野からのアプローチが必要とされます。

本セッションでは、森林生態系における生物多様性の保全という共通の課題を扱う研究の発表を募ることで、これまで異なるセッションで発表されてきた研究や研究者が集まる場を作りたいと考えています。研究対象とする生物多様性の階層（遺伝子、種、生態系）や空間スケール（林分、景観、流域など）、学問分野は問いません。発表形式は口頭発表とポスター発表の両方を対象とします。

当セッションは今回5回目の開催です。今後も継続することで、参加者の方々が取り組んでいる課題について情報を交換・議論し、理解を深め、生物多様性に配慮した森林管理の実践に寄与できる場を作りたいと考えています。

T2. 森林環境の持つ保健休養機能の基礎的研究と応用研究 –森林+ α の可能性–

Basic and applied research into the health and recreational functions of forest environments -The potential of forests and more-

コーディネータ：上原 巖、東京農業大学

3月17日（火） 9：00～10：45 会場 202A

ポスター発表 PT2-1, PT2-2

本セッションは本大会で20周年を迎え、森林科学研究の分野の中で、一般市民の関心とニーズが高い分野の1つである。

これまでの大会では、生理的および心理的なアプローチの基礎的研究をはじめ、臨床事例、研究手法、尺度開発、国内外の地域における事例研究などが発表されてきた。保健休養に供する森林環境の整備といったハードの課題、治療・保養プログラム作成等のソフトの課題、さらに各臨床症例・事例研究や、保養地事例などに至るまで多岐にわたった内容になっていることが特徴である。そのため、森林・林業関係者だけでなく、医療、社会福祉、心理、教育など、多領域とのコラボレーションに取り組んできたことも本セッションの特色であり、存続意義である。

今回の第137回大会においても、森林を活用した健康増進はもとより、日常生活における保健衛生や、医療、福祉、教育などの諸分野とも融合したセッションを目指している。

身近な事象から国際的な課題まで、多種多様な研究発表をお待ちしています。

T3. 森林の放射能研究

Radioactivity in contaminated forests

コーディネータ：今村直広、森林総合研究所北海道支所

高橋純子、筑波大学、

大久保達弘、東北農林専門職大学

3月17日（火） 9：00～12：00 会場 202B

ポスター発表 PT3-1～PT3-10

東日本大震災から15年が経過し、第2期復興・創成期間が終了しようとしている。しかし、原子力災害被災地域は、地域ごとに復興のスピードや進捗が大きく異なるため、地域の実情を丁寧に把握し、今後もそれに応じた施策をきめ細やかに実施していくことが重要とされている。令和7年6月に変更された「第2期復興・創成期間」以降における東日本大震災からの復興の基本方針では、帰還した住民が日々の暮らしを送る中で里山の恵みを楽しむための森林整備の再開やそれに必要な放射性物質対策、里山再生、原木や原木しいたけ等の産地再生に向けた取組、バイオマス発電施設活用を含む樹皮の有効利用、帰宅困難区域内での森林整備作業員の安全ガイドラインの策定、更には、野生きのこ、山菜、ジビエ等の

食品について基準の再検討、分かりやすい形で情報発信・リスクコミュニケーションの推進などが目標に掲げられている。このように、福島森林・林業の復興・再生には、未だに多種多様な問題が存在し、多岐にわたる分野の研究推進が必要となっている。本セッションでは、昨年に引き続き、森林内の放射性セシウム動態から、林業や山村地域の再生を含めた社会・経済的影響、さらにはリスクコミュニケーションまで、幅広い研究発表を募集し、森林の放射能研究に携わる研究者の意見交流の場としたい。

T4. 総合学・原論としての森林科学

Pursuing Forest Arts and Sciences as Comprehensive Studies

コーディネータ：平野悠一郎、森林総合研究所多摩森林科学園

竹本太郎、東京農工大学

齋藤暖生、東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所

水内佑輔、金沢大学融合研究域

3月17日（火） 14：15～18：30 会場 Leo Esaki メインホール

ポスター発表 無

今日でこそ各部門に分かれている森林科学は、本来、多様な生態系や人間社会と森林との歴史的な関わりに向き合う総合学・現場主義の「林学」として、日本を含めた世界各地で発展を遂げてきた。そこでは、多様性や不確実性を前提としながらも、保続の思想や森林美学等が模索され、「森林の価値・機能・サービスとは何か」、「持続性とは何か」、「人と自然との関わりがどうあるべきか」といった理念的・原論的な議論も行われてきた。

また、近年では、歴史学、文学、民俗学、考古学、倫理学といった人文科学のアプローチにおいて、林学が向き合ってきた人間と森林との多様な関わりの中実が掘り下げられるようにもなった。その中で、林学全体、或いは各部門や専門分野で論じられてきた思想・理論や実践が、学史や学説、技術史や地域間比較研究といった形で振り返られ、深められようともしている。また、歴史学等のアプローチを通じた長期の地域履歴・データの発掘と検証が、今日の森林をめぐる課題解決や管理保全に活かされる道筋も模索されつつある。

その一方で、生物多様性の維持、地球温暖化防止、SDGsの達成、Well-beingの実現といった、今後の人間社会のあり方を規定する概念や議論がグローバルに広まるにつれて、それらの要諦としての森林をいかに管理保全していくかには、大きな注目と期待が寄せられつつあり、森林科学としての応答や発展も求められている。

これらの動きは、今日において「総合学・原論としての森林科学」を改めて議論し、再構築していく必要性を我々に提起している。そこで、本セッションでは、各部門に跨って、①各部門及び森林科学と人文科学（歴史学・考古学・文学・芸術学・民俗学等）の接点となる研究、②林学・森林科学の歩みを解明する研究（学史・学説・思想研究等）、③森林科学や

森林との関わりの意義やあり方を問う研究（哲学・倫理・美学・価値研究等）などを広く公募し、部門横断的な Forest Arts and Sciences としての研究交流・発展の場を、日本森林学会内に形成していくことを狙いとするものである。

T5. 樹木根の成長と機能

Development and function of tree roots

コーディネータ：平野恭弘、名古屋大学環境学研究科

大橋瑞江、兵庫県立大学環境人間学部

野口享太郎、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所

牧田直樹、信州大学理学部

福澤加里部、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター

檀浦正子、京都大学農学研究科

3月17日（火） 14:15～17:45 会場 202B

ポスター発表 PT5-1～PT5-18

公募セッション「樹木根の成長と機能」では、樹木根をキーワードに太い根から細い根まで、生態系レベルから細胞レベルまで、根に関連した多岐にわたる研究を公募し、報告対象といたします。本公募セッションでは、樹木根だけでなく、様々な境界領域分野との融合を目指します。研究内容に「根」に関する測定や事象があれば、葉や幹をはじめとする樹木地上部に関する研究、土壌微生物や土壌物理化学特性、緊縛力など防災・減災に関する研究、温暖化や酸性化といった環境変動に関する研究など、根以外を主な対象とする発表も広く歓迎いたします。また「根」を測定項目としたい会員向けに測定方法の共有も目的とします。

2025年6月には本セッションをプラットフォームとして、Journal of Forest Research 誌特集号「Recent advances in the understanding of the development and functions of roots in forest ecosystems（森林生態系における樹木根の発達と機能の最近の理解の進展）」が発刊されました。今回は、特集号に執筆された会員の皆さんに特集論文に関わる最新知見の口頭発表をお願いし、それに加えて、会員の皆さんの根に関する研究ならばどなたでも、口頭発表およびポスター発表を広く募集をします。

発表当日は、趣旨説明の後、口頭発表していただき、適宜発表間に討論時間を設け、最後に総合討論の時間を設ける予定です。趣旨説明では根研究学会の開催する根研究集会の紹介、2026年6月にイタリアで開催予定の第9回国際樹木根会議の紹介など樹木根研究の国際および国内動向を森林学会員に広く情報提供します。総合討論では、樹木根と境界領域分野との研究者間ネットワーク作りを促進するための討論も行います。

T6, フォレストデジタルツインの可能性を探る：ポテンシャルと課題**Exploring the potential and technical issues of forest digital twin**

コーディネータ：橋本昌司、森林総合研究所

南光一樹、東京農工大学

瀧誠志郎、森林総合研究所

中澤昌彦、森林総合研究所

陣川雅樹、森林総合研究所

3月17日（火） 9：00～11：45 会場 406

ポスター発表 無

都市部を中心にデジタルツインの整備が急速に進み、都市防災シミュレーションやゲーム開発への活用が進められています。デジタルツインとは現実世界（リアル空間）で収集した情報を元に仮想空間上にリアル空間を再現する技術を指します。都市部のデジタルツインは都市情報のあり方や活用法を劇的に変えつつあります。森林版のデジタルツインであるフォレストデジタルツインは、従来の森林情報のあり方を大きく変革し、資源把握、木材生産、防災、多様性、リクリエーション、教育など様々な森林生態系サービスに活用できる可能性を秘める革新的技術です。一方、都市部と比べると、広域で、複雑な地形の上に生物で構成されている自然生態系である森林は、デジタルツインの構築のためには森林特有の工夫と克服すべき課題もあると考えられます。本セッションは、日本版フォレストデジタルツインの可能性と課題について情報交換とネットワーキングを行います。デジタルツインの構築、デジタルツインを利用した研究、デジタルツインの社会実装、デジタルツインと連携できる可能性があるセンシングやデータベース・マッピングなど、デジタルツインに関わる幅広い研究内容を含みます。総合討論では、日本版フォレストデジタルツインの可能性と課題について討論も行います。是非お気軽にご参加ください。

T7. ネットゼロ社会における森林の役割（第二回）**The Role of Forests in a Net Zero Society in Japan（Ⅱ）**

コーディネータ：小南裕志、森林総合研究所

加用千裕、東京農工大学大学院農学研究院自然環境保全学部門

3月17日（火） 14：15～16：30 会場 406

ポスター発表 PT7-1

昨年に引き続き、公募セッション「ネットゼロ森林」では、2050年の日本の温室効果ガス排出正味ゼロを目指す長期目標に対して日本の森林が果たす役割の評価についての幅広い研究を公募し、報告対象とします。2021年に閣議決定された「森林・林業基本計画」や「地球温暖化対策計画」においては森林資源の循環利用の促進や2013年時点からの温室効

果ガス排出量削減の2.7%を森林吸収で担うなど、ネットゼロ社会に向けた森林の機能の強化がうたわれています。一方、現在および将来の広域森林の正味のCO₂吸収量（NEP）の推定や森林管理の寄与、環境変動の効果、さらには伐採木材製品(HWP)の炭素隔離効果などに関しては専門分野が多岐にわたるなどの問題により、研究や問題点の把握の俯瞰が困難な状況にあると考えられ、上述の森林吸収の妥当性や継続可能性などに関しては包括的な議論が十分にされていないと思われます。しかしながら近年の広域データの蓄積、衛星情報の高精度化、モデルの高度化などにより、個々の森林群落の状態を統合した日本全体の森林の機能評価や将来推定が徐々に実現可能になってきていると考えます。本セッションでは、地域や日本全体でのデータ統合やモデルの高度化などによる将来の森林炭素収支の推定、伐採利用や植林などの森林管理により長期的なNEPの強化は可能か？さらには今後の日本の木材生産とHWPの関係、森林利用と多様性の両立など、これからのネットゼロ社会における森林の広域機能評価にかかわる広範な発表を募集し、これからの人間社会と森林の在り方や未来の日本の森林のあるべき姿について幅広い議論を行うことを目的とします。発表形式は口頭発表またはポスター発表とします。

T8. 環境・社会と調和した持続的な木質バイオマスのエネルギー利用

Sustainable use of woody biomass energy in harmony with the environment and society

コーディネータ：横田康裕、森林総合研究所

鈴木保志、高知大学教育研究部

有賀一広、宇都宮大学農学部

佐藤政宗、森のエネルギー研究所

寺岡行雄、鹿児島大学農学部

久保山裕史、森林総合研究所

3月17日（火） 15：45～18：00 会場 304

ポスター発表 無

趣旨（日本語または英語）： 2012年7月に再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT制度）が施行されて以降、国内各地で木質バイオマス発電の導入が進むなど、近年、木質バイオマスのエネルギー利用が活発に展開されています。こうした取り組みには、林業の振興や持続可能な社会の構築への貢献が期待されています。2023年には、国内で生産された丸太の約3割（1,132万m³）がエネルギー用途に利用されるまでになっています。一方で、発電事業に限らず、木質バイオマスのエネルギー利用全般においては、事業の経済性の確保に加え、環境や社会との調和をいかに図るかが重要な課題となっています。近年は、ウッドショックによる木材需給の変動をはじめ、急速なインフレ、賃金上昇、労働力不足など、社

会経済状況の変化が著しく、さらには SDGs（持続可能な開発目標）への貢献や CSR（企業の社会的責任）の履行も、これまで以上に強く求められるようになっていきます。

こうした現状を踏まえ、本公募セッションでは、今日における「環境・社会と調和した持続的な木質バイオマスのエネルギー利用の在り方」について多角的に議論し、理解を深めるとともに、今後の展望を参加者の皆様と共に考えること目的とします。これまでの森林学会では、発電事業に注目し、事業実施における最重要課題として燃料の低コスト・安定調達に関する議論を継続してきました。今回も、引き続き同課題を重要な論点として取り上げつつ、他の経済・環境・社会面の課題にも焦点を当てたいと考えています。例えば、経済面における燃焼灰処理、熱利用等による事業性改善等、環境面における森林資源の持続的利用の確保、生態系・生物多様性保全への配慮、ライフサイクル GHG の削減等、社会面における、木材のカスケード利用、地域社会への貢献等に関する報告を期待します。また、発電事業に限らず、熱利用や小規模分散型エネルギー利用など、木質バイオマスのエネルギー利用全般に関する報告も歓迎いたします。

多様な立場・視点からの報告を多数お寄せいただくとともに、学会当日には多くの方にご参加いただき、活発な議論が交わされることを期待しております。なお、今回は、上記の趣旨に沿い、未利用木材等の国産燃料を主に使用する事業を対象とします。

学会企画

学会企画 1 ランチョンミーティング「困りごとを共有しよう Part2 ～選択的夫婦別姓制度に関する学協会連絡会アンケート結果～」

ダイバーシティ推進委員会

コーディネータ:佐藤 宣子(担当理事, 九州大学)、村上 拓彦(担当主事, 新潟大学)

開催日時:3 月 17 日(火)12:00-13:00 会場:中ホール 300

対面開催、録画公開なし

日本森林学会が幹事を務めた男女共同参画学協会連絡会において選択的夫婦別姓に関するアンケートが実施されました(7582名の回答)。アンケートには、日本森林学会会員からも協力をいただき、結果は第23回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムにおいて報告されました。本ランチョンミーティングは、アンケートの内容を会員と共有することを目的として実施します。旧姓通称利用に関する男女別年齢別の実態とトラブルの種類などについての結果とともに、2500件におよぶ自由記述から導かれた分析結果についても紹介します。

日本森林学会第 137 回大会 学会企画

ランチオンミーティング

困りごとを共有しよう Part 2 ～選択的夫婦別姓 制度に関する学協会連絡会アンケート結果～

男女共同参画学協会連絡会が実施したアンケートの内容を森林学会会員と共有することを目的としています。旧姓通称利用に関する男女別年齢別の実態とトラブルの種類などについての結果とともに、2500 件におよぶ自由記述から導かれた分析結果についても紹介します。

場所: つくば国際会議場 中ホール 300

日時: 3 月 17 日 (火)

時刻: 12:00 – 13:00

★参加申込不要・参加費無料

お弁当＆お茶 (500 円) のみ要予約

↓ (3 月 8 日 (日) 締切) ↓



問い合わせ先：ダイバーシティ推進委員会
(diversitypromotion@forestry.jp)

主催：



一般社団法人
日本森林学会
The Japanese Forest Society Since 1914

後援：



男女共同参画学協会連絡会

学会企画 2 映画上映会『越後一山に生かされた日々』

林業遺産選定委員会

コーディネータ：泉 桂子(担当理事、岩手県立大)、高田乃倫予(担当主事、岩手大学)

開催日時：3 月 18 日(水)15:00-18:00 会場：404

日本森林学会では学会 100 周年を記念して 2013 年度から林業遺産選定事業を継続し、現在 53 の遺産が指定されている。しかし、その学会員や社会にたいするその周知度は十分ではなく、各地には森林・林業関連の「宝」がまだまだ相当数存在するものと思われる。

本企画では、林業遺産選定事業の周知と遺産応募の機運向上、学会員相互の交流を目的として、森林・林業を対象とした映像作品を上映する。学会大会開催地が関東であることから、新潟県で撮影されたドキュメンタリー映画『越後奥三面』を選定した。当作品は記録映画作家・映像民俗学者として知られる姫田忠義ひきいる民族文化映像研究所(民映研)によるもので、オリジナル版は 1984 年製作、本企画ではデジタルリマスター版(2023 年)を放映する。上映時間は 145 分を予定している。

参加申込は不要で、無料、入退室、声出しは自由としている。会場では参加者同士の交流が図れるよう、飲み物を用意する。ご関心のある方はお知り合い同士お誘い合わせの上、是非ご来場頂きたい。

学会企画 3 第 13 回高校生ポスター発表表彰式および高校生対象の大学ツアー

中等教育連携推進委員会

コーディネータ:太田祐子(担当理事, 日本大学)、佐橋憲生(担当主事, 日本大学)、高橋純子(大

会運営委員会, 筑波大学)

開催日時:3月18日(水)表彰式 14:15～15:00 会場:Leo Esaki メインホール

大学ツアー15:00～17:00

高校生ポスター賞受賞校の発表と表彰式を行います。申し込みは不要です。
表彰式終了後に希望者を対象に「高校生対象の大学ツアー」を実施します。
大学生が研究室や研究施設などを案内します。希望者は以下の QR コードよりお申し込みください。

申し込みはこちらから→
<https://forms.gle/G4Z3G5Su8jPywWAS6>

表彰式および大学ツアーのスケジュール

14:15～15:00 表彰式 (森林学会会長からの総評)
15:00～17:00 「高校生対象の筑波大学ツアー」(オプション)
*希望者のみ



第 13回 高校生ポスター発表 学校名・発表題目

表彰式などを 3 月 1 8 日 (水) 14:15 から 行います。参加校の生徒の皆さんはご参加ください。

発表番号	学校名	発表題目
KP-1	北海道士幌高等学校	持続可能な地域環境を目指して～防風林の未利用資源活用～
KP-2	北海道帯広農業高等学校	美しさ・安全性・実用性～地域と共生できる里山づくりへの挑戦～
KP-3	宮城県仙台第三高等学校	青森県深浦町の十二湖周辺における植生の経時的変化
KP-4	宮城県仙台第三高等学校	仙台三高等学校林「時習の森」の特殊性にせまる！
KP-5	宮城県大河原産業高校	Let's SAUNA ～汗がつなぐ C L T の輪～
KP-6	宮城県大河原産業高校	心繫～メープルシロップを活用した地域創造プロジェクト～
KP-7	山形県立米沢興譲館高等学校	環境の変化に伴う樹木の窒素吸収速度の変化
KP-8	茨城県立下館第一高等学校	ミヤマザクラの全個体調査 -茨城県における絶滅危惧植物-

KP-9	茨城県立日立第一高等学校	納豆菌によるコフキサルノコシカケの繁殖抑制効果について
KP-10	茨城県立日立第一高等学校	モジホコリの記憶能力について
KP-11	作新学院高等学校	きのこ類の同定と純粋培養 - きのこ類を介した森林再生の可能性 -
KP-12	栃木県立矢板東高校	矢東の樹木マップをつくろう！
KP-13	國學院大學栃木高等学校	森林は洪水を守れるか
KP-14	群馬県立勢多農林高等学校	新里のサクラソウ群落の調査および保全活動
KP-15	群馬県立勢多農林高等学校	桜山公園のフユザクラ保全活動～開花観測と保存樹木の茎頂培養～
KP-16	群馬県立尾瀬高等学校	武尊山登山道沿いの植生調査～武尊山東西の比較とササによる影響を調べる～
KP-17	群馬県立尾瀬高等学校	玉原高原におけるニホンジカの影響調査
KP-18	正智深谷高等学校	クビアカツヤカミキリはお気に入りの木を見つけて飛来する
KP-19	東京農業大学第三高等学校	リター分解過程における土壌動物の有用性～バイオ炭散布との関係性を探る～
KP-20	東京農業大学第三高等学校	バイオ炭散布によってクヌギの根の形態はどのように変わるのか
KP-21	東京都立国分寺高等学校	落合川のマイクロプラスチック量の測定と環境の保全について
KP-22	東京都立国分寺高校	見えざる飛翔の軌跡：春夏秋冬朝昼晩、カラスバトのルーティンを暴け！
KP-23	海城中学高等学校	赤谷の森での探究活動～森林の機能とスキー場の植生～
KP-24	藤沢翔陵高等学校	米文化を身近にするための農業調査ー土作りから米販売までの参与観察ー
KP-25	藤沢翔陵高等学校	花の品質を向上させるための条件の検討 -環境整備とコミュニティの構築-
KP-26	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校・附属中学校	きのこのひだはカビの成長を阻害するのか
KP-27	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校・附属	タケ類てんぐ巣病の感染経路の模索

	中学校	
KP-28	神奈川県立吉田島高等学校	皆伐施業・将来木施業の計画と素材及び製品生産量把握
KP-29	神奈川県立吉田島高等学校	低コスト再造林から考える吉田島式造林法の試行
KP-30	岐阜県立大垣西高等学校	岐阜県西濃地域に生息するニホンジカ集団に関する生態調査Ⅲ
KP-31	不二聖心女子学院高等学校	里山音楽園
KP-32	不二聖心女子学院高等学校	不二果樹園
KP-33	名城大学附属高等学校	持続可能な森林と和楽器文化の共創：三味線の外国産材と国産材に着目して
KP-34	京都府立嵯峨野高等学校	竹の音特性 ～竹稈の位置による打撃音の差異及び竹製リードの作製～
KP-35	京都府立嵯峨野高等学校	京都府丹後半島の森林小流域における土壌生成に関する研究
KP-36	神戸大学附属中等教育学校	RBMw による表層崩壊防止効果の分析―樹種特性と断幹に着目して―
KP-37	高知県立高知農業高等学校	森林認証制度 project ～上穴内演習林の価値の創造を目指して～
KP-38	熊本県立八代農業高等学校 泉分校	故郷に豊かな森林環境を！～「高校生ハンター」が挑戦する野生鳥獣害対策～
KP-39	熊本県立矢部高等学校	持続可能な森林づくり ～どんぐりで広げる水源林保全と国土保全の輪～
KP-40	熊本県立矢部高等学校	林福連携で目指す私たちの挑戦！～通潤パズルで地域の人々を元気に～
KP-41	京都府立北桑田高等学校	Potential of wood products～未来に繋げる京都府内産木材の利用～

学会企画 4 帰国留学生元学生会員による国際交流ポスター発表(International Exchange E-poster Presentation by Ex-Overseas Student Members)

国際交流推進委員会

コーディネータ: 中静透(担当理事、森林総研)、大久保達弘(東北農林専門職大学)、大田真彦(長崎大学)、藤原敬大(九州大学)、板谷明美(三重大学)、櫃間岳(森林総研)

ポスター発表(3月17-18日), 会場:102

日本森林学会には、多数の留学生が学生会員として所属し、発表を行なっている。しかし、会費負担等の関係から、帰国後は本学会を退会し、関係が疎遠になる場合が多い。

本企画では、対面開催にオンラインを加えたハイブリッド形式のメリットを生かし、すでに本国に帰国した留学生元学生会員への学会参加・発表機会を提供する。目的としては、学位取得後の研究フォローアップ、学会発表実績の提供および帰国留学生元学生会員同士や日本人会員との国際共同研究の萌芽形成を想定している。

参加者から事前に提出されたポスター発表を、学会の全日程、非同期(オンデマンド)形式で公開する。現在日本の大学に所属している留学生学生会員や日本人会員(元留学生指導教員など)にも、積極的にポスター発表を通じて国際交流して頂きたい。

○ International Exchange E-poster Presentation by Ex-Overseas Student Members

Coordinator: International Exchange Promotion Committee (Nakashizuka Tohru (Director of International Exchange, Forestry and Forest Products Research Institute), Ohkubo Tatsuhiro (Tohoku Professional University of Agriculture and Forestry), Ota Mashiko (Nagasaki University), Fujiwara Takahiro (Kyushu University), Itaya Akemi (Mie University), Hitsuma Gaku (Forestry and Forest Products Research Institute))

17-18 March

Aim of this event

There are many active international student members in The Japan Forest Society. However, due to the burden of membership fees and other factors, many of them withdraw from the Society after returning to their home countries, and the relationship with the Society often becomes estranged. The purpose of this project is to provide an opportunity for former international students who have already returned to their home countries to participate in the conference and make presentations, using online methods. The purpose of this event is to follow up their research after obtaining their degrees, to provide them with an opportunity to present their research at academic conferences, and to form the seeds of international joint research among former international student members and with Japanese members.

The poster presentations submitted in advance by the participants will be opened to the public on site and an asynchronous (on-demand) format during the entire meeting.

We hope that international student members who currently belong to universities in Japan and Japanese members (ex. former supervisor of international students) will actively participate in the meeting.

Program

- Poster Presentations: All days through an asynchronous (on-demand) format

学会企画 5 第 27 回 IUFRO 世界大会 2029 年ケニア大会に向けて

企画委員会

コーディネータ:井上真理子(担当理事、森林総研多摩)、北原文章(担当主事、森林総研)

企画・協力 IUFRO-J 事務局、JICA、林野庁

ポスター発表(3月17-18日),会場:102

IUFRO(国際森林研究機関連合)は、1892年に設立した森林科学者の国際ネットワークです。IUFROは、Interconnecting Forests, Science and People”をテーマに掲げ、参加国125か国以上(加盟組織600以上)、科学者15,000以上が参画しています。世界大会が5年ごとに開催されており、第26回大会は、2024年にスウェーデン(ストックホルム)で開催されました。次回の第27回大会は、2029年にケニア(ナイロビ)で開催されます。国際的な研究活動の活性化を図るため、今回の学会企画では、IUFRO第27回世界大会に向けて、IUFROおよびケニアについて、ポスターで紹介したいと思います。

紹介内容(予定)

・IUFRO第27回世界大会紹介、IUFRO-J紹介(協力:IUFRO-J事務局、IUFRO本部、IUFRO世界大会2029事務局)

・ケニア紹介(協力:森林総合研究所 林木育種センター)

・ケニアでの取り組み紹介(協力:林野庁計画課海外林業協力室、JICA)

森林白書(ケニア森林公社)の紹介、ケニア森林プロジェクトヒストリーなど刊行物の紹介
ビデオ紹介 ”School Lunch-Tree Growing Club Forest Carbon Project”

学会企画 6 「“あの”会社・組織の森林活動」

コーディネータ: 正木 隆 (日本森林学会会長、近畿大学)

ブース展示(3月17-18日), 会場:102

近年、グローバル企業や国際的な環境団体が、日本国内においても森林保全や生物多様性の保全に関わる取り組みを活発に進めています。人々の間で環境への関心が高まる中で、これらの企業・環境団体が事業活動と両立させながら持続可能な社会の実現に貢献しようとしている姿勢は、単なる社会的責任の遂行にとどまらず、先進的な科学的知見や技術の導入、地域との協働の新たな形として注目すべきものがあります。

そこで、今回の展示企画「“あの”会社・組織の森林活動」では、今回御縁をいただいた、一般にも広く知られている企業・環境団体をお招きし、日本各地で行われている森林や環境に関する活動の一端をご紹介します。出展してくださるのは以下の6企業・組織です。

- トヨタ自動車株式会社(「トヨタの森」)
- 富士通株式会社
- 大成建設株式会社
- サントリーホールディングス株式会社
- 三菱電機株式会社
- 公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWF ジャパン)

これらの企業・環境団体は、それぞれの専門性や立場を活かしつつ、森づくり、環境教育、技術開発、カーボンオフセット、協働型保全活動など、多様なかたちで日本の森林との関わりを深めています。本企画では、それらの取り組みについて、パネル展示や配布資料を通じてご紹介します。

森林の学術研究とは異なる視点から現代の森林保全の現場を垣間見る機会として、また森林と社会とつながりが多様化している現状を再認識する場として、ぜひご覧いただければ幸いです。

第 137 回日本森林学会大会での関連集会の情報

1. 森林 GIS フォーラム学生研究コンテスト
3 月 17 日 (火) 17:00～19:00、つくば国際会議場 404 号室
2. 第 32 回森林昆虫談話会
3 月 19 日 (木) 9:00～12:00、筑波大学 3A 棟 3A405 教室
3. 森林計画学会総会・春季シンポジウム
3 月 19 日 (木) 9:30～16:30、文部科学省研究交流センター国際会議場
4. 林業経済学会 2026 年春季大会
3 月 19 日 (木) 8:40～17:30、筑波大学 3A 棟 3A202 教室
5. 森林立地学会現地研究会
3 月 19 日 (木) 8:00～17:00、森林総合研究所常陸太田試験地
6. 第 15 回森林遺伝育種シンポジウム
3 月 19 日 (木) 9:00～12:00、筑波大学 3A 棟 3A209 教室
7. 森林利用学会総会・シンポジウム
3 月 19 日 (木) 9:30～16:30、筑波大学 3A 棟 3A306 教室
8. 集まれ森林水文 2026
3 月 19 日 (木) 9:00～12:00、筑波大学 3A 棟 3A308 教室
9. 第 26 回森林施業研究会シンポジウム
3 月 19 日 (木) 9:00～12:00、筑波大学 3A 棟 3A203 教室
10. 第 2 回森林教育実践研究会
3 月 19 日 (木) 9:00～12:30、筑波大学野外運動実習場「野性の森」
11. 樹木病害研究会
3 月 19 日 (木) 9:10～11:50、筑波大学 3A 棟 3A312 教室

【1】森林 GIS フォーラム学生研究コンテスト

1. 日時： 2026 年 3 月 17 日 (火) 17:00～19:00
2. 会場： つくば国際会議場 404 号室
3. テーマ： GIS を活用した研究を行う学生の育成と交流
4. 内容： 森林 GIS フォーラムでは、次世代の森林 GIS を担う学生の育成と交流の場として、学生研究コンテストを開催しています。森林・林業分野における空間情報 (GIS・GNSS 等)、新たな計測技術 (写真・レーザー等) の応用などに関わる研究を行っている学生に研究紹介をしていただき、優秀賞の表彰などを行います。
5. 申込方法： 聴講は申込不要。発表は森林 GIS フォーラムより別途募集。詳細はウェブサイト (<https://fgis.jp/>) およびメーリングリストで周知します。

6. 連絡先： 當山啓介（岩手大学）toyama[at]iwate-u.ac.jp

【2】第32回森林昆虫談話会

1. 日時： 2026年3月19日（木）9:00～12:00
2. 会場： 筑波大学3A棟3A405教室
3. テーマ： 樹木のマイクロハビタットと生物多様性保全：これからの森林管理
4. 内容： 生物多様性に配慮した林業経営及び森林管理は、今後取り組むべき重要課題の一つに位置付けられる。この流れにおいて、樹木のマイクロハビタットは森林の空間構造に複雑さをもたらし、生物多様性に貢献しうる要素の一つとして注目されている。談話会では、ネイチャーポジティブや林野庁の林業経営指針といった近年の森林管理と生物多様性をめぐる動向を簡単に紹介し、様々な樹木のマイクロハビタットの概要とそれに支えられる森林生物の事例について話題提供をしていただく。
5. 話題提供：
 - ・「樹木のマイクロハビタットとは～生物多様性保全の管理指標としての意義～」
山中 聡（森林総合研究所北海道支所）
 - ・「鳥類営巣樹洞の無脊椎動物群集と人工樹洞を用いた調査の試み」
浅野 亮太（白梅短期大／東京農工大）
 - ・「樹上の小さな水界：滞水樹洞がつくる生態系の多様性」
新川 颯輝（東京農工大）
 - ・「着生植物が生み出す昆虫群集の多様性」
中辻 宏平（東京農工大）
 - ・「海鳥の営巣する海洋島における着生植物の役割
～ファシリテーションから物質循環へ～」
中島 一豪（中央大理工学研究所）

6. 連絡先： 綾部慈子（森林総合研究所東北支所）ayabe_yoshiko050[at]ffpri.go.jp

※ 3月18日夜につくば市内で懇親会を予定しています。

※ 談話会／懇親会参加の方は3月3日までに下記リンクから申し込みをお願いします（談話会は当日の飛び込み参加も可能）。

<https://forms.gle/kRHUwn9EsFnmWLiH7>

【3】森林計画学会総会・春季シンポジウム

1. 日時： 2026年3月19日（木） 9:30～16:30
 - 9:30～12:00 総会（今年度の活動・決算報告、次年度の活動報告・予算の審議、森林計画学会各賞の授賞式および受賞者講演）
 - 13:30～16:30 シンポジウム

2. 会場： 文部科学省研究交流センター国際会議場（つくば市竹園 2-20-5）
3. タイトル： 調整中
4. 内容： 調整中
5. 連絡先： 北原文章（森林総合研究所）[kitahara_fumiaki390\[at\]ffpri.go.jp](mailto:kitahara_fumiaki390[at]ffpri.go.jp)

【4】林業経済学会 2026 年春季大会

1. 日時： 2026 年 3 月 19 日（木） 8：00～18：00
8：40 開場
9：00～12：00 趣旨説明、報告（3 人）、コメント（1 人）
12：00 ～ 13：30 休憩
13：30 ～ 16：30 総合討論
16：30 ～ 17：30 定期総会
18：00 ～ 懇親会
2. 会場： 筑波大学 3A 棟 3A202 教室
3. テーマ： 「林業事業体の基本問題と基本対策」
4. 開催主旨： 人工林資源の成熟と国産材需要の高まりを背景に主伐による素材生産拡大の局面を迎えている。第 1 に、これまでの素材生産業をめぐる議論から、日本の素材生産業がどのような性格の「資本」なのか、2000 年代以降の素材生産業の発展（生産性の向上）がどのような構造変化によって実現したのか、日本の素材生産業は現在どの段階なのかを明らかにする。第 2 に、森林組合がこれまでに果たしてきた役割をふまえ、日本林業が新たな段階を迎える中で、森林組合には何が求められるのか、所有者の協同組合としての有利な販売と資産の維持、地域の森林資源の保全を担う公的側面、私益と公益をつなぐ存在としての森林組合の新たな役割を明らかにする。第 3 に、森林所有の空洞化の弊害として無断伐採、主伐一再造林放棄が顕在化する状況において、森林資源の持続性や地域の災害防止といった面から素材生産事業体には事業性だけでなく公益性を兼ね備えることが求められるという立場から、素材生産事業体の所有者、土地、地域に対する働きかけなどの実態把握を通じて素材生産事業体の社会性の現在地、素材生産事業体の行為規範と今後の課題を明らかにする。
5. 報告者・コメンテーター・座長等：
 - ・第 1 報告：伊藤幸男（岩手大学）
「素材生産業の展開構造と現段階」（仮）
 - ・第 2 報告：奥山洋一郎（鹿児島大学）
「主伐・再造林期における森林組合」（仮）
 - ・第 3 報告：御田成顕（森林総合研究所）

- 「素材生産事業体の行為規範の検討:森林所有の空洞化と主伐に着目して」(仮)
- ・座長：藤掛一郎（宮崎大学）
 - ・コメンテーター：＜当日登壇＞早尻正宏（北海学園大学）、＜後日誌上＞小菅良豪（にちなん中国山地林業アカデミー）、尾分達也（北海道大学）
 - ・司会：興梠克久（筑波大学）
6. 大会参加費： 社会人 1,000 円、学生 500 円（当日会場徴収、現金のみ）
7. 懇親会： 2026 年 3 月 19 日（木）18 時開始予定
- ・場所： 筑波大学 1A 棟食堂
 - ・参加費： 社会人 4,000 円、学生 2,000 円（当日会場徴収、現金のみ）
8. 連絡先： 興梠克久（筑波大学）[kohroki.katsuhisa.gu\[at\]u.tsukuba.ac.jp](mailto:kohroki.katsuhisa.gu[at]u.tsukuba.ac.jp)

【5】森林立地学会現地研究会

1. 日時： 2026 年 3 月 19 日（木）8:00～17:00
 2. 場所： 森林総合研究所常陸太田試験地（茨城森林管理署管内堂平国有林 118 林班内）、集合・解散場所は JR 常磐線ひたち野うしく駅・つくばエクスプレスつくば駅
 3. テーマ： 森と水の関わり～長期森林理水試験地の巡検から～
 4. 内容： 今回の現地研究会は、茨城県常陸太田市・森林総合研究所常陸太田試験地（茨城森林管理署管内堂平国有林）で開催します。常陸太田試験地では、山林局（現林野庁）による日本初の水源涵養比較試験のため、明治 37（1904）年に量水試験区が設置され、明治 39（1906）年より水文観測が開始されました。大部分の比較観測は明治 45（1912）年に打ち切られた中で、当時広葉樹林内に設置されていた試験区では観測が継続され、大正 4（1915）年に広葉樹の皆伐が行われ、大正 8（1919）年まで伐採前後の水源涵養比較試験が継続されました。その後、しばらく観測が中断していましたが、昭和 55（1980）年に当時の広葉樹林内の試験区と同じ場所に量水堰が再設置され、現在まで流域内各所にて種々の個別水文観測が行われています。
- 今回の現地研究会では、常陸太田試験地に関する過去から現在までの背景、歴史、試験地概要、既存成果等についての話題提供を予定しております。長期森林理水試験地の現場において、現地調査に関わってきた水文研究者から、森と水の関わりに関する研究の最新の成果も含めたお話を聞くことができる貴重な機会です。森林立地学に関わる皆様の交流・意見交換の場となることを期待しております。多数の皆様のご参加をお待ちしております。
5. コーディネーター： 小田智基・岩上翔（森林総合研究所森林防災研究領域）
 6. 講師：小田智基・岩上翔（森林総合研究所森林防災研究領域）
 7. 定員： 最大 40 名程度（大型バス 1 台の予定）（要事前登録、参加費：一般

5,000～6,000 円程度、学生・PD 割引あり)

8. 申込方法： 本研究会は会員・非会員の区別なくお申込みいただけます。参加希望の方は、3/2(月)までに下記の google フォームよりご登録をお願いいたします。多数の皆様のご参加をお待ちしております。
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScYLo-hqP9CvWMMyVT2Gnndy_1MoY66WTJicHoeXVE24sKrg/viewform
9. その他： 雨具・長靴を各自用意（雨天決行・荒天中止）
10. 連絡先： 小野賢二（森林総研東北支所）ono_kenji820[at]ffpri.go.jp

【6】第 15 回森林遺伝育種シンポジウム

1. 日時： 2026 年 3 月 19 日（木）9:00～12:00
2. 会場： 筑波大学 3A 棟 3A209 教室
3. シンポジウムテーマ： 日本列島に分布する森林樹木の集団ゲノミクス
4. 内容： わが国の森林樹木を対象とした集団遺伝学でも、すでに、次世代シーケンサーを利用し、ゲノムワイドな多数の多型データ（主に SNP）を取得して解析する「集団ゲノミクス」の時代に突入している。盛んに行われてきたマイクロサテライトを用いた研究は、過去のものになりつつある。森林樹木のような非モデル生物にも集団ゲノミクスの研究が行われるようになった一つの要因は、RAD-seq や MIG-seq などの方法が開発されたからである。このような方法は、ゲノムの一部をシーケンスして多型データを得る「ゲノム縮約解読法」と呼ばれている。将来的には、参照ゲノム配列を利用して、全ゲノムをリシーケンスして多型データを得て解析する「全ゲノム解析法」が主流になることが期待されているが、この方法を利用した研究も出始めている。森林樹木の集団ゲノミクスの研究によって、これまで解明が困難であったどのようなことが解明された（される）のであろうか。
 本シンポジウムは、日本列島に分布する森林樹木を対象とした集団ゲノミクスの分野において、どのような研究が行われ、どのようなことが解明されてきたかなどの研究情報を共有し、将来展望を考える場としたい。
5. 話題提供：
 - ・陶山佳久（東北大学大学院農学研究科）・高橋大樹（九州大学大学院農学研究院）
「日本産針葉樹全種の遺伝的多様性統合解析」
 - ・内山憲太郎（森林総合研究所）
「気候変動と遺伝的オフセット：スギ集団ゲノミクスによる将来適応評価」
 - ・頼 承筠・戸丸信弘（名古屋大学大学院生命農学研究科）
「ブナにおける気候勾配に関連した自然選択の推定」
 - ・永光輝義（森林総合研究所）

「共通圃場研究で明らかになった海岸環境に適した形質に関連する遺伝子のカシワからミズナラへの浸透」

・増田和俊（東京大学大学院理学系研究科）

「全ゲノム解析から探る海洋島固有種の起源・集団動態と性表現進化：ムラサキシキブ属における研究事例」

6. 連絡先： 戸丸信弘（名古屋大学）tomaru[at]agr.nagoya-u.ac.jp

【7】森林利用学会総会・シンポジウム

1. 日時： 2026年3月19日（木）9:30～16:30
9：30～ 理事会、10：40～ 総会、13：00～ シンポジウム
2. 会場： 筑波大学 3A 棟 3A306 教室
3. テーマ： 林業労働安全の新展開－機械化・無人化・無線通信の可能性－
4. 内容： 労働科学は、労働者の心身の健康と生産性の向上を目指し、労働の質、環境、組織、方法などを生理学、心理学、衛生学などの科学的手法を用いて総合的に研究する学問分野です。森林労働科学では、労働の生理的負担と振動障害から始まり、作業姿勢、林業機械の操作性、心理的負担などに研究範囲が広まり、現在は労働安全の研究が主流となっています。基調講演では、このように幅広い森林労働科学の国内外の研究動向を紹介し、これからの研究展開に求められる課題を整理します。パネルディスカッションでは、現在進められている林業機械のリモート化と自動化の方向性によって期待される労働安全の効果について、産官学のパネリストから話題提供があり、新たに考えられるリスクと対策など今後の研究課題についてディスカッションを行います。
5. 申込方法や詳細は、森林利用学会 HP に掲載します。
6. 連絡先： 中澤昌彦（森林総合研究所）nakazawa_masahiko280[at]ffpri.go.jp

【8】集まれ森林水文 2026

1. 日時： 2026年3月19日（木）9：00～12：00
2. 会場： 筑波大学 3A 棟 3A308 教室
3. テーマ： 水はどのように移動し使われるのか：植物との相互作用
4. 内容： 森林水文に関する研究の情報交換を行います。どなたでもご参加いただけます。今回は「水はどのように移動し使われるのか：植物との相互作用」をテーマに、JSPS 外国人招へい研究者として来日する Llorens 博士の基調講演を行うと共に、最近出版された論文紹介も行います。ポップアップでは、現在取り組んでいる研究について、参加者に短い時間で紹介してもらいます。
5. 基調講演：

Pilar Llorens 博士(スペイン国立研究評議会 環境評価・水研究所(IDAEA-CSIC))

「Rainfall interception in Mediterranean environments. From fluxes measurement to process understanding (地中海環境下での遮断蒸発：フラックス計測からプロセス理解まで)」

※ Llorens 博士は欧州の森林水文学をリードする存在で、特に、森林樹冠による降雨分配プロセスと、その分配後に起きる林内の土壌水分動態について研究を推進しています。

6. 最新の水文研究紹介：

- ・久保田多余子（森林総合研究所）「年輪を用いて長期に蒸散量を推定する試み」
- ・勝浦柊（国際農林水産業研究センター）「安定同位体を用いた樹木の吸水深度の解明」
- ・南光一樹（東京農工大学）「ミクロからマクロで水のゆくえを追いかける」
- ・白木克繁（東京農工大学）「立木密度－樹冠遮断率グラフの点がバラバラになるのは、これが理由ってことでいいんじゃないかな？」

7. ポップアップ：

- ・企画者： 篠原慶規（宮崎大学）、井手淳一郎（千歳科学技術大学）、佐藤貴紀（東京農業大学）、玉井幸治（森林総合研究所）、久米朋宣（九州大学）、五味高志（名古屋大学）
- ・申し込み： 当日参加も歓迎ですが、ポップアップでの発表及び懇親会（3/18夜）の参加希望者は事前申し込みをお願いします。（3/6 締切）

<https://forms.gle/Uqyu7BDuYDqsbJJPA>

8. 連絡先： 篠原慶規（宮崎大学）shinohara[at]miyazaki-u.ac.jp

【9】第26回森林施業研究会シンポジウム

1. 日時： 2026年3月19日（木）9：00～12：00
2. 会場： 筑波大学3A棟3A203教室
3. テーマ： 「森林管理の現場が求める施業技術をどう示し、どう伝えるか」
4. 内容： 市町村森林計画の策定にあたって、市町村が主体となって地域の森林づくりに関する長期的な構想を策定することが求められるようになった。しかし、そのために必要な技術と知識を持った人材は非常に限られている。森林総合監理士（フォレスター）には、こうした現状を改善するための役割が期待されている。これまで林業においては、伐期の長短、育林コスト低減技術、育種など、様々な技術上の選択肢が提唱されてきた。しかし、森林計画の立案において、フォレスターが「どこで」「何を」行うべきかを判断するための科学的根拠は十分に示されてきたとは言えない。さらに、森林づくりの構想や具体的な管理計画が策定されたとしても、土地所有者の意向など多様

な社会的要素も影響するため、構想の実現には多くの課題がある。

近年、森林経営計画を支援する技法やツールは充実しつつある。しかし、これらはあくまで「山を見る目」を補う道具であり、地域振興や森林づくりといった、より広く長期的な理念に基づく本来の目的を達成するための手段に過ぎないことを認識すべきである。また、計画は策定できても、その計画を実行するには上記のような様々な課題がある。

本シンポジウムでは、こうした課題を踏まえつつ、森林づくりを実際に現場で進めるフォレスターを支えるために有効な技術とは何か、またフォレスターが求めるもの、特に意思決定を支える科学的根拠とは何かを考えたい。また、フォレスターに限らず、市町村の林務課職員など林業に携わる人材への技術的支援を、研究者・技術者・教育関係者らがどのように進めるべきか、森林施業研究会に求められる役割も含めて議論したい。

5. 話題提供者（敬称略）：

櫃間岳（森林総合研究所 森林植生研究領域）

佐藤恒治（広葉樹を暮らしに活かす山形の会 共同代表）

小森胤樹（フォレスターズ株式会社 代表取締役）

6. 詳細は森林施業研究会ホームページに後日記載します。

<https://f-segyo.main.jp/baser/sympo>

7. シンポジウムへの事前参加申込みは不要。会場にお出で下さい。

8. 懇親会を3/18（水）に開催します。こちらは事前の参加申込みが必要です。

9. 連絡先： 櫃間岳（森林総合研究所）[hitsuma_gaku830\[at\]ffpri.go.jp](mailto:hitsuma_gaku830[at]ffpri.go.jp)

【10】第2回森林教育実践研究会

1. 日時： 2026年3月19日（木） 9:00～12:30

2. 場所： 筑波大学野外運動実習場「野性の森」

3. テーマ： 「筑波大学野性の森のフィールドから森林教育の発展を考える」

4. 内容： 森林教育のさらなる発展を目指し、昨年度の札幌開催に引き続き、第2回森林教育実践研究会を開催します。今回の日本森林学会大会がつくば市開催ということもあり、森林教育の近接分野である「野外教育」の研究と実践、人材育成を、我が国で長年リードしてきた、筑波大学野外運動研究室の全面協力のもと、研究会を実施するはこびとなりました。

筑波大学のキャンパスには、「野性の森」という実習施設があります。野外教育を専攻する学生の実践や研究の場として、全学共通体育科目の授業の場として、一般市民を対象とした体験プログラム実施の場として、スポーツ指導者の研修の場として、さまざまな目的でフィールドが使用されています。研究会では、この野性の森のフィールドを見学し、野外教育における森林環

境の活用方法やプログラム内容について理解を深め、各大学が所有する演習林のフィールド活用に役立てることができれば、と考えています。また、前回と同様に、実践者の方からの発表を予定しています。茨城県における森林教育のプログラム事例について、複数題、発表していただきます。

本研究会は、日本森林学会の会員だけではなく、非会員で森林教育や近接分野の関係者にもご参加いただくことができます。みなさまのご参加をお待ちしています。

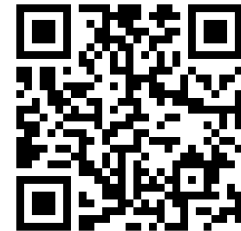
・登壇者

渡邊仁氏・高橋達己氏（筑波大学体育系） 他、事例発表者を複数名予定

・進行

遠藤知里（常葉大学短期大学部）、杉浦克明（日本大学生物資源科学部）、山田亮（北海道教育大学）

5. 参加費： 500 円
6. 対象： 日本森林学会会員または森林教育や野外教育、環境教育などの近接分野の関係者
7. 主催： 日本森林学会教育部門
8. 協力： 筑波大学野外運動研究室
9. 参加申込の締切： 2026 年 3 月 16 日（月）
10. 参加申込方法： 以下の URL（QR コード）からフォームに入力して下さい。
<https://forms.gle/uoBjJD84gDbDR5t49>
11. 本件問い合わせ先：
山田亮（北海道教育大学）yamada.ryo[at]i.hokkyodai.ac.jp



【11】樹木病害研究会

1. 日時： 2026 年 3 月 19 日（木）9：10～11：50
 2. 会場： 筑波大学 3A 棟 3A312 教室
 3. テーマ： 国内樹病研究事情—現場で何が起きているのか？—
 4. 内容： 研究・教育の現場と森林の現場との間には物理的な距離が存在し、森林で実際に問題となっている事象を共有する機会は必ずしも多くない。また、樹木病害の実態や対策は地域や現場ごとに様相を異にしており、包括的な診断や防除に取り組む研究者や技術者、樹木医らは多様な課題に直面している。本研究会では、こうした地域の森林を守る最前線で活動する方々から現場に根ざした話題提供を受け、樹木病害の実情への理解を深めることで、研究および学習に対するモチベーションを高め、今後の研鑽につなげる機会としたい。
- ・司会進行；石原誠（森林総研九州支所）

・ 演者

和田尚之（道総研）

「北海道で広がるナラ枯れ―初期被害から見えてきたこと―」

二階堂太郎（科博実験植物園）；

「筑波実験植物園におけるカシノナガキクイムシ対策の事例」

陶山大志（島根県中山間地域研究センター）；

「樹木腐朽非破壊診断法の研究と社会実装―現場での倒木事故事例、研究から機器開発までの苦悩―」

5. 幹事連絡先：

楠本大（東京大学）[kusumotodai\[at\]g.ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:kusumotodai[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp)

高橋由紀子（森林総合研究所）[takahashi_yukiko860\[at\]ffpri.go.jp](mailto:takahashi_yukiko860[at]ffpri.go.jp)

石原誠（森林総合研究所九州支所）[ishihara_makoto270\[at\]ffpri.go.jp](mailto:ishihara_makoto270[at]ffpri.go.jp)

【12】 託児所について

1. 日時： 2026年3月19日（木）9：00 から 18：30
2. 場所： 筑波大学内
3. 内容： 関連集会参加者向け託児所（詳細は日本森林学会大会 HP を参照）
4. 担当者連絡先： 志賀薫（森林総合研究所）[shiga_kaori620\[at\]ffpri.go.jp](mailto:shiga_kaori620[at]ffpri.go.jp)

【13】 関連集会会場（筑波大学 3A 棟）へのアクセス、マップ等について

1. 交通案内： <https://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba-access/index.html>
（「筑波大学、交通案内」で検索）



3A 棟には、バス停「第三エリア前」下車・徒歩 3 分、または、「筑波大学中央」下車・徒歩 5 分

2. キャンパスマップ：

<https://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba-campus/index.html>

3. 会場（3A 棟）の位置：

https://www.tsukuba.ac.jp/images/pdf/ut_map_tsukuba_naka.pdf

※地図中の中央付近に「C」と貼り付けてある建物が3A 棟です。

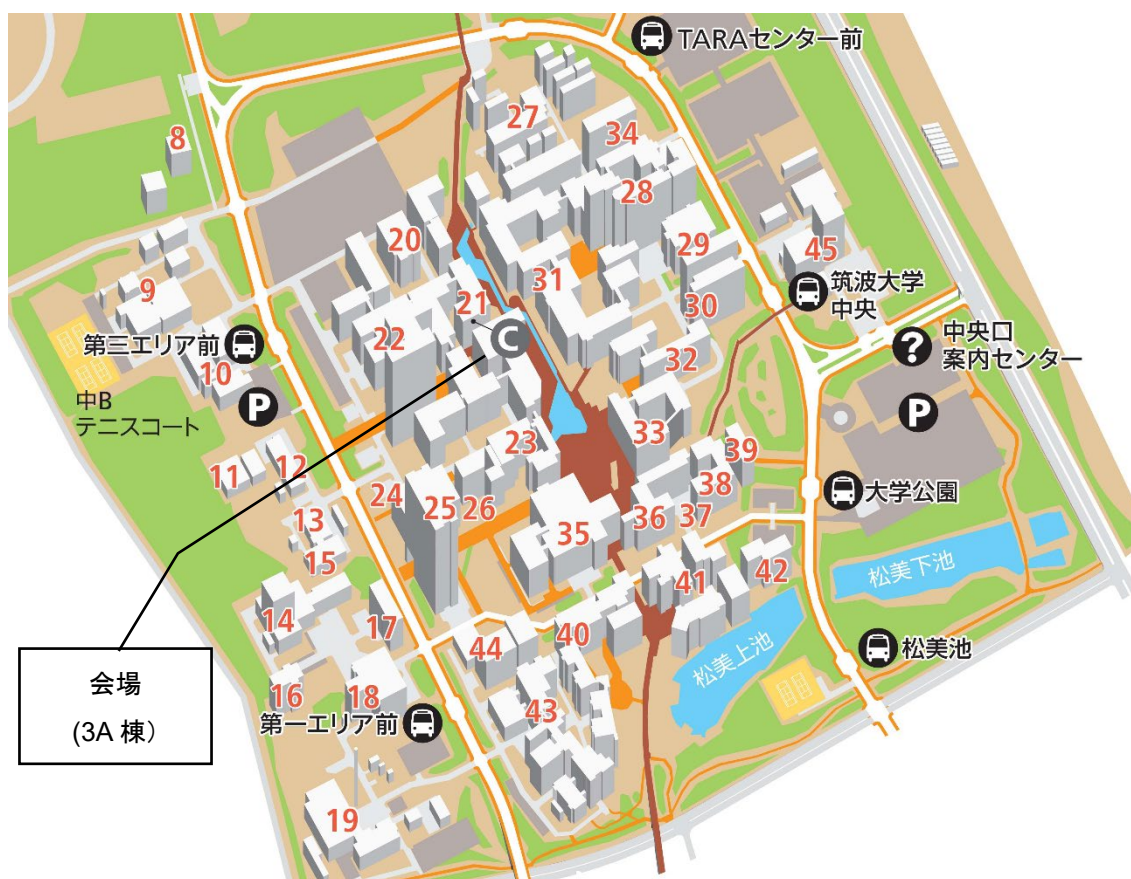
※Google マップで「筑波大学 3A 棟」と検索すれば割と正確な地図がでます。

4. 筑波大学キャンパス建物配置図・平面：

<https://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/support-campus/pdf/campusmap.pdf>

※建物の配置図（第3 エリアは2～3 ページ）、周辺の地図、各建物の中の教室の配置図・平面図（3A 棟は31～35 ページ）や各教室の設置機器一覧（3A 棟は76～77 ページ）も記載されています。

筑波大学筑波キャンパス中地区マップ



筑波大学筑波キャンパス中地区 3A 棟

2F から 4F

2F

3F

4F

